

N9038A MXE EMIレシーバ & N/W6141A EMC測定アプリケーション 簡易取扱説明書



MXE
PXA MXA EXA
CXA



2014年2月12日



計測お客様窓口

受付時間9:00-18:00(土・日・祭日を除く)
FAX, E-mail, Webは24時間受け付けています。

TEL ■■ 0120-421-345 (042-656-7832)

FAX■■ 0120-421-678 (042-656-7840)

Email contact_japan@agilent.com

電子計測ホームページ www.agilent.co.jp



目次①

一部頻繁には使用しない機能等は内容を省略しております。詳細につきましては、製品に付属のユーザーマニュアルをご参照ください。

- 製品概要 p.5
- フロントパネル p.7
- リヤパネル p.8
- リヤパネル(旧CPU搭載モデル)・・・ p.9
- 諸注意 p.10
- 電源投入 p.11
- N6141Aの起動 p.12
- CISPR/MILの選択 p.13
- スキャンの種類 p.14
- Scan Tableを開く p.15
- リミットラインの編集 p.19
- 波形のアップデートを止める p.25
- カップリングの注意 p.26
- 補正値を編集する p.28
- 補正値の単位を変更する p.30
- タイムドメインスキャンの設定・・・ p.33
- スキャンの種類 p.34
- メータの表示 p.39
- メータの周波数変更 p.40
- マーカーズーム p.43
- レシーバモードとスペアナモードのリンク
..... p.45
- ストリップチャート(Strip Chart)・・ p.46
- モニタスペクトラム(IF Mode)の使用
..... p.49
- 拡張表示機能(EDP) p.57
- スペクトログラム p.58
- トレースズーム p.59
- ゾーンスパン p.60
- 設定の保存/呼び出し p.61
- ウィンドウズアカウントの変更・・・ p.37



目次②

一部頻繁には使用しない機能等は内容を省略しております。詳細につきましては、製品に付属のユーザーマニュアルをご参照ください。

- Use権限変更 p.38
- コンフィグレーションウィザード p.66
- オートアラインメント機能 p.67
- GPIB/LAN設定 p.73
- ヘルプ機能 p.74
- Webコントロール機能 p.75
- ログインアカウント p.78
- ファームウェア関連 p.80

1-1. N6141A EMC測定アプリケーション

N/W6141A EMC測定アプリケーション(以下、W/N6141A)は、Agilent N9038A MXE EMIレシーバ(以下、MXE)は標準搭載、PXA/MXA/EXA/CXA (以下、XSA)ではオプションでご提供され、本体に内蔵されます。

1-2. N6141Aの特徴

- ・最新のCISPR 16-1-1およびMIL-STDで要求される検波器および帯域幅を装備
- ・放射性／伝導性エミッション測定 をワンボタンで測定
- ・エミッションの限度値に対してPass/Fail試験も可能
- ・異なる検波モードを時間軸で表示が可能(Strip Chart)

1-3. 測定機能

- ・CISPR/MIL規格に適合した帯域幅/検波器/ワンボタン・プリセット機能内蔵
- ・周波数/レベルをリアルタイム・メータで連続モニタし最大振幅を検出可能
- ・限度値から外れた信号を容易に検出
- ・グローバル設定機能の使用により、自動でシグナル・アナライザ・モード(以下、スペアナ・モード)とEMCアプリケーション・モード(EMIレシーバ・モード)間で同じ中心周波数に設定

1-4. 性能

- ・ 信号をログまたはリニア・フォーマットで表示可能
- ・ XSAの優れた感度により、測定マージンの低減が可能

1-5. 諸注意

- ・ [] で括られた文字はフロントパネルのハードキーを意味しております。
- ・ { } で括られた文字はメニューのソフトキーを意味しております。
- ・ 電源投入後、Auto Align On (自動アライメント機能をオン)にして30分のウォームアップを行って下さい。
- ・ 24時間以内または温度が $\pm 3^{\circ}\text{C}$ 変化した時はAlign All Nowを実行して下さい。
(Auto Align Onになっていれば自動的に実行します)
- ・ スタート周波数が20MHz以下の場合はDC成分が入っていない事を確認の上、DCカップリングにして下さい。

【ACカップリングとDCカップリング】

ACカップリングはDC成分をカットするコンデンサが入ります。一方、DCカップリングはDCカットするコンデンサが入りません。

フロントパネル

測定画面

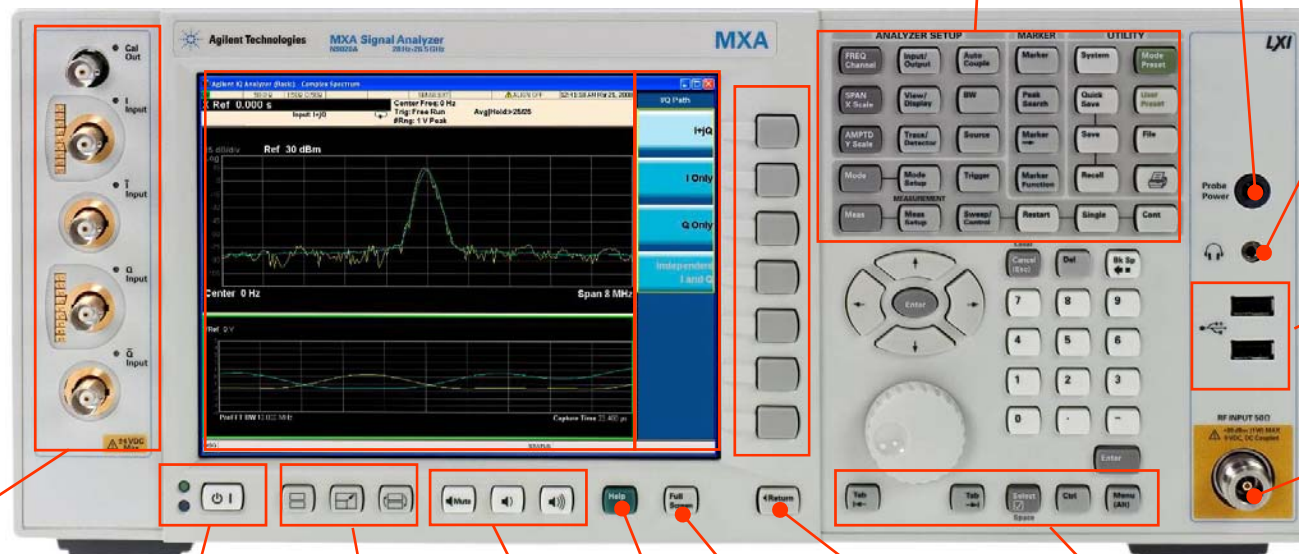
ソフトメニュー

ソフトキー
画面横に出てくるソフトメニューを選択するキー

ハードキー
各機能を選択するキー

プローブ電源
外部プローブ用電源

ヘッドホン端子



USB2.0スレーブ端子

RF入力 (N型)

ベースバンドIQ入力
(MXAのみのオプション)

I, I bar, Q, Qbarの入力が可能。また、I/Q端子にはInfiniiumオシロスコープ用のプローブを使用することも可能(N9038Aはついておりません)

電源キー

Xシリーズの起動・終了に使用。内蔵のWindowsの終了もこのキーを押して終了させる

画面切り替えキー
複数ウィンドウがある機能の際に、アクティブウィンドウの変更、拡大、切り替えなどを行う

ヘルプキー

ボリュームキー
Windowsのボリューム設定

フルスクリーンキー
ソフトメニューを隠して測定画面を最大化する。

Windows機能キー
Tab、Alt、CtrlなどのWindows用のキー

リターンキー
一つ前のメニューに戻る

リヤパネル

USB2.0端子(マスター)

マウス、キーボード、
USBメモリ等の接続に使用可能

USB2.0端子(スレーブ)

ホストコントローラ(PC)からUSB経由で
MXA/EXAをコントロールする際に利用

VGA出力

画面の外部出力

電源コネクタ

電源ケーブルを接続してください

LAN端子

1000baseT対応
のLANコネクタ

AUX IF/Video出力端子

オプションCRP,CR3,ALV搭載時に
IF出力が使用可能となります。
(CXA-MWモデルは無し)

外部基準入力

外部の高安定
基準等との同期

GPIOコネクタ

GPIOのスレーブ。
設定によりホスト側
になることも可能。

10MHz基準出力

外部の測定器との
同期用に基準を出力

ノイズソース接続端子

NF測定に使用するスマー
トノイズソースおよび346
シリーズの接続ポート

トリガ入力1/2

トリガ入力端子1/2
(CXAは入力1のみ)

SYNC

掃引ジェネレータ出
力。外部との掃引同
期に使用

トリガ出力1/2

トリガ出力端子1/2
(CXAは出力1のみ)

アナログ出力端子

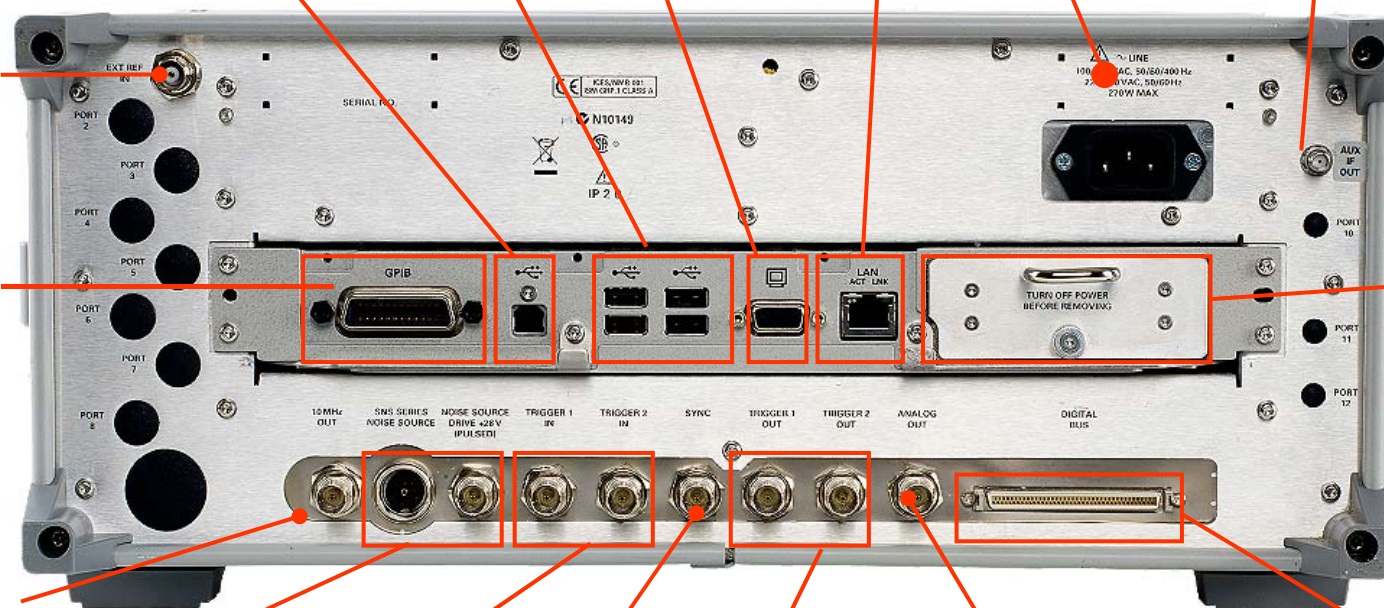
ビデオ出力オプション(YAV/YAS)
搭載時にここから信号出力されます。

高速Digitalバス

N5106A PXBとの
リンク時に使用。
(CXAは無し)

リムーバブル ドライブ

HDDタイプと
SSDタイプが
存在します。
(現在はSSD標準)



リヤパネル(旧CPU搭載モデル)

電源コネクタ

電源ケーブルを接続してください

USB2.0端子(スレーブ)

ホストコントローラ(PC)からUSB経由で
MXA/EXAをコントロールする際に利用

USB2.0端子(マスター)

マウス、キーボード、USBメモリ等の接続
に使用可能

LAN端子

100baseT対応のLAN
コネクタ

GPIOコネクタ

GPIOのスレーブ。設定
によりホスト側になるこ
とも可能。

外部基準入力

外部の高安定
基準等との同期

VGA出力

画面の外部出力

10MHz基準出力

外部の測定器との
同期用に基準を出力

ノイズソース接続端子

NF測定に使用するスマー
トノイズソースおよび346
シリーズの接続ポート

トリガ入力1/2

トリガ入力端子1/2
(CXAは入力1のみ)

SYNC

掃引ジェネレータ出
力。外部との掃引同
期に使用

トリガ出力1/2

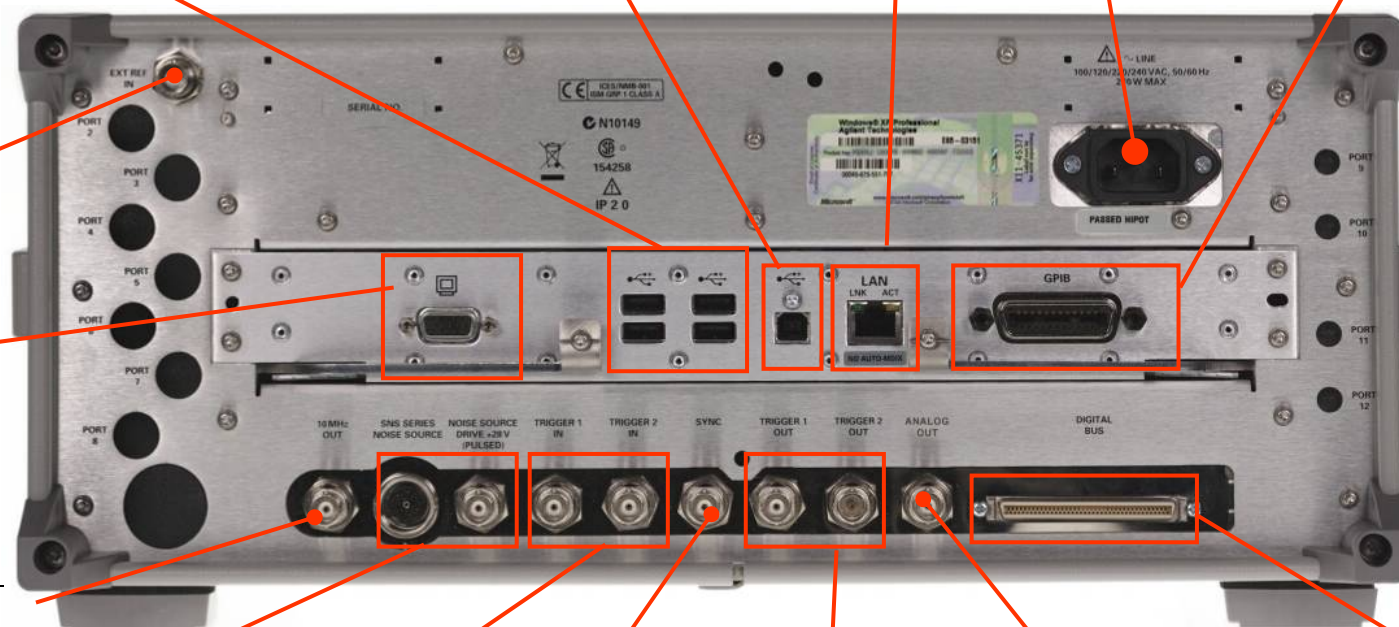
トリガ出力端子1/2
(CXAは出力1のみ)

アナログ出力

各種アナログ信号
出力に使用

高速Digitalバス

アジレントの他の測定
器とのリンク時に使用。
(CXAは無し)



その他の諸注意

1. 購入時のWindowsのアカウントはPower Userです。IPアドレスの変更や、ソフトウェアのInstallを行うには、Administratorへの変更が必要です。詳細はp.62~に記載しております。
2. 製品のウォームアップ時間は30分です。電源投入から30分は保証されている仕様/性能は満足できない場合があります。
3. 本製品はWindows XPを使用しておりますが、製品にはウイルス対策ソフトウェアは付属されておられません。昨今はUSB等を経由して繁殖するウイルスがありますので、ウイルス対策ソフトウェアをインストールすることを推奨します。
4. モデルによってメニューが異なる場合がございます。異なる部分に関しては以下のようなコメントを記載してあります。

PXAのみ

・ ・ ・ N9030Aのみに搭載される機能を意味します。

Xシリーズ共通

・ ・ ・ N9038A/N9030A/N9020A/N9010A/N9000Aを意味します。

CXA以外

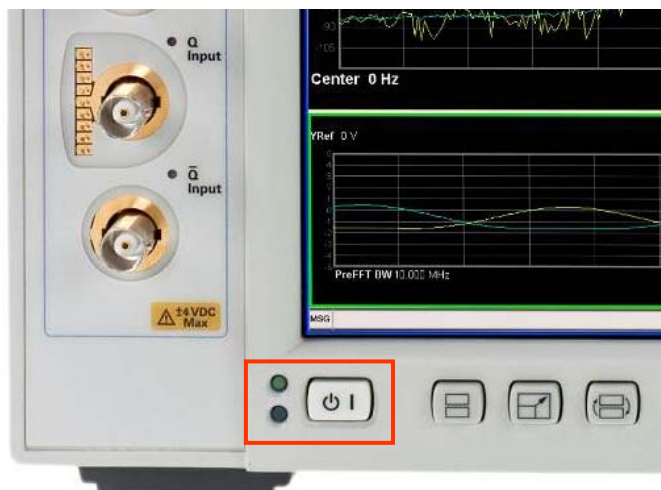
・ ・ ・ N9000Aを意味します。

N9038Aのみ

・ ・ N9038A EMIレシーバのみに搭載されていることを意味します。



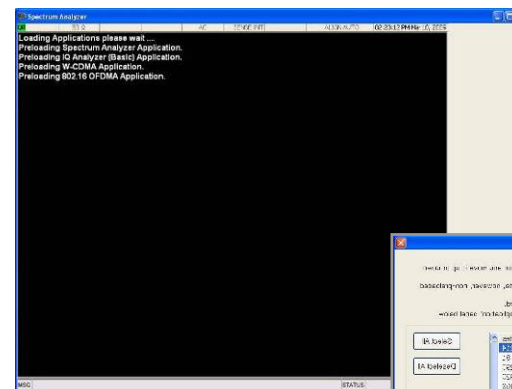
電源投入



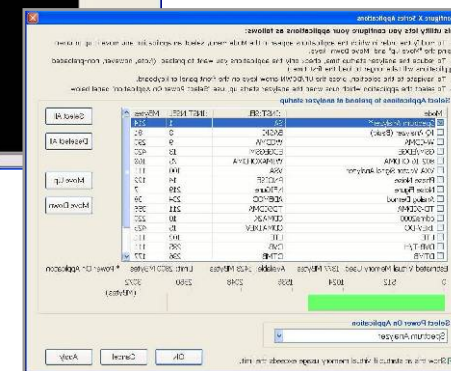
左下にある電源キーを押してXシリーズを起動してください。電源を落とす際にも同様に電源キーを押していただければ、ウィンドウズシャットダウン後に製品の電源が落ちます。

ソフトウェアのトラブル等で操作不能になった場合には、電源ボタンの長押しにより、Windowsの強制終了を行うこともできます。

Xシリーズ共通



コンフィグレーションウィザードで、起動時にメモリに読み込むアプリを選択できます。



プリロードの画面。全てのアプリケーションを読み込むとその分時間がかかります。

本製品は起動に多少時間がかかります。

起動後のモード切替を高速にするために、ソフトウェアを初めからメモリに常駐する処理を行うからです。

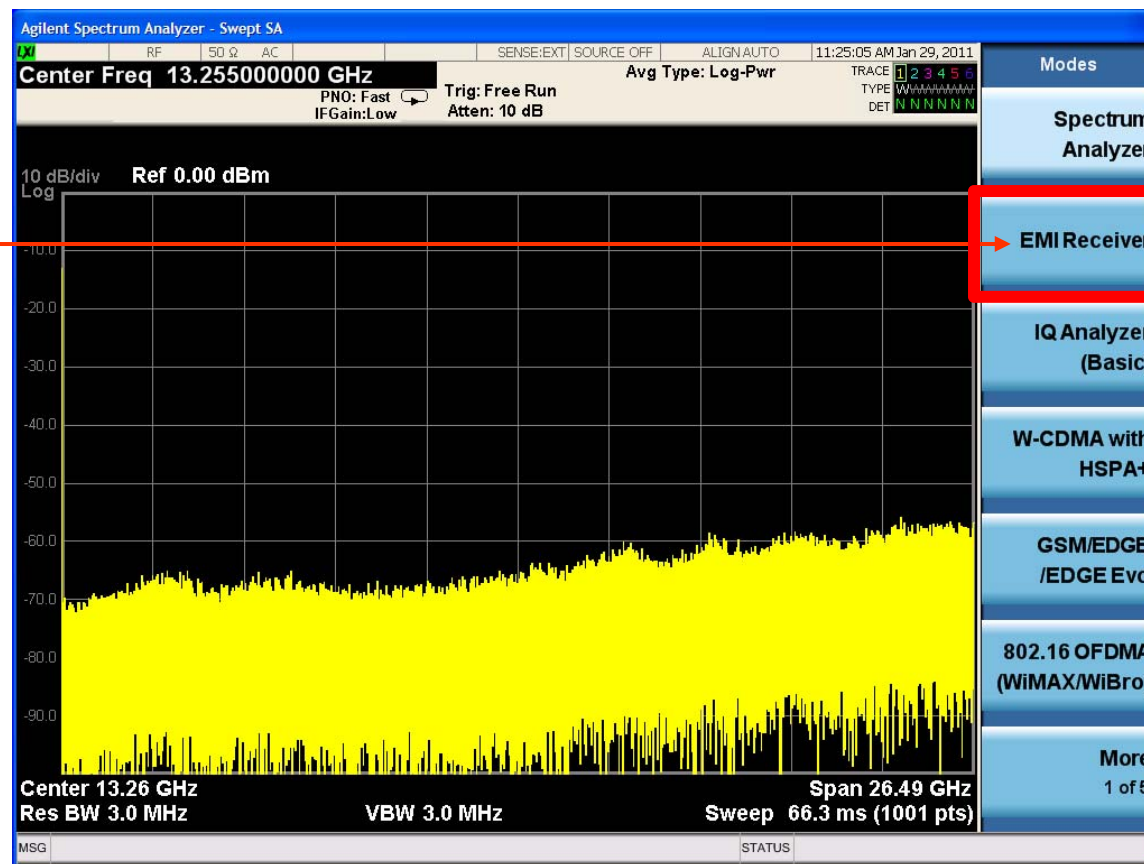
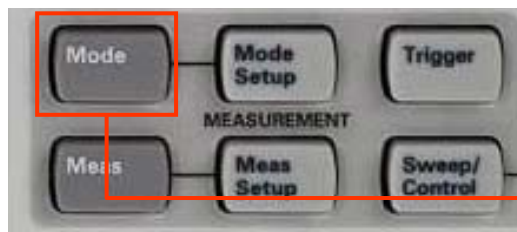
この常駐設定を変更することで起動を高速にできますが、常駐しない測定機能の立ち上げに時間がかかることもありますのでご注意ください。

この常駐設定は、コンフィグレーションウィザードを使用することで、設定することができます。詳しくは [p.49](#) をご参照ください。

N6141Aの起動

Xシリーズアナライザは、オプションの測定アプリケーションで様々な測定に対応することができます。各測定アプリケーションは、[Mode]キーより起動することができます。

[Mode], {EMI Receiver}

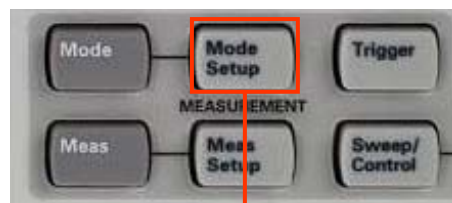


Xシリーズ共通

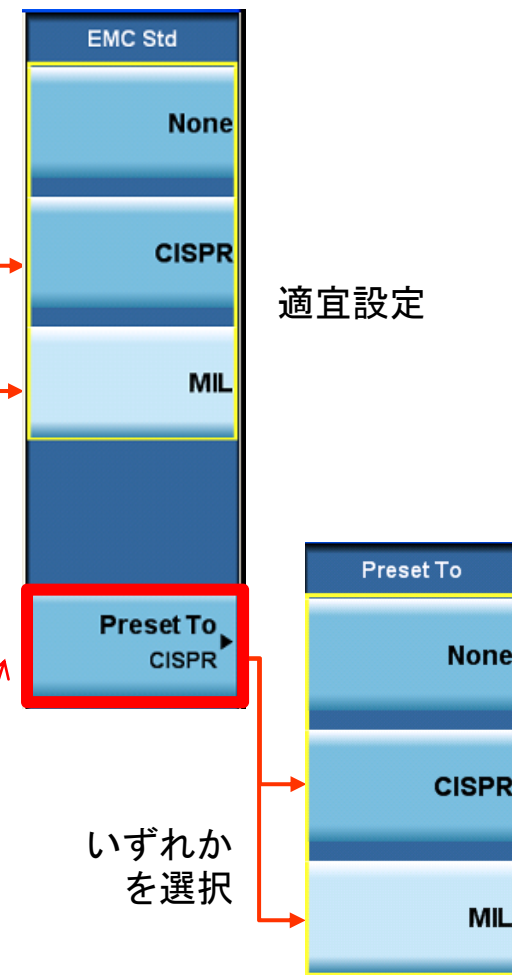
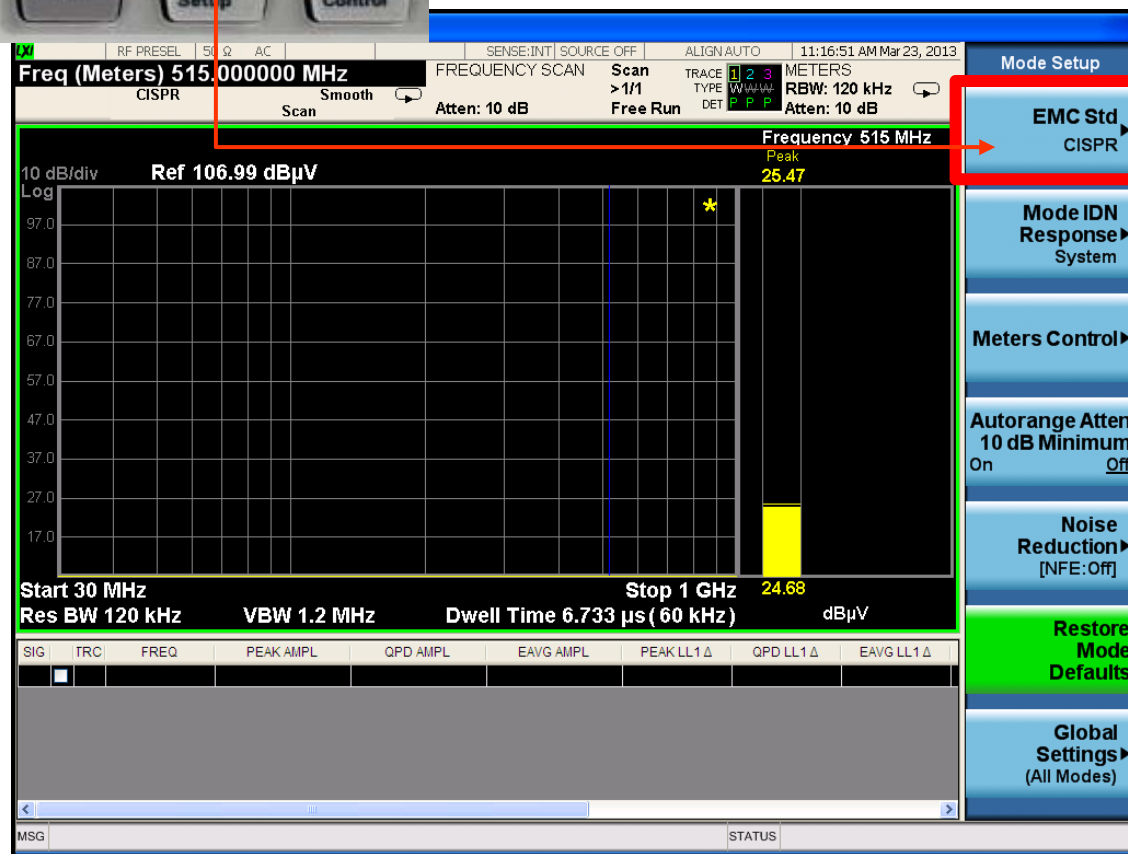
2011年1月現在、22種の測定アプリケーションがリリースされております。

CISPRかMILを選択する

Xシリーズ共通



[Mode Setup], {EMC Std}



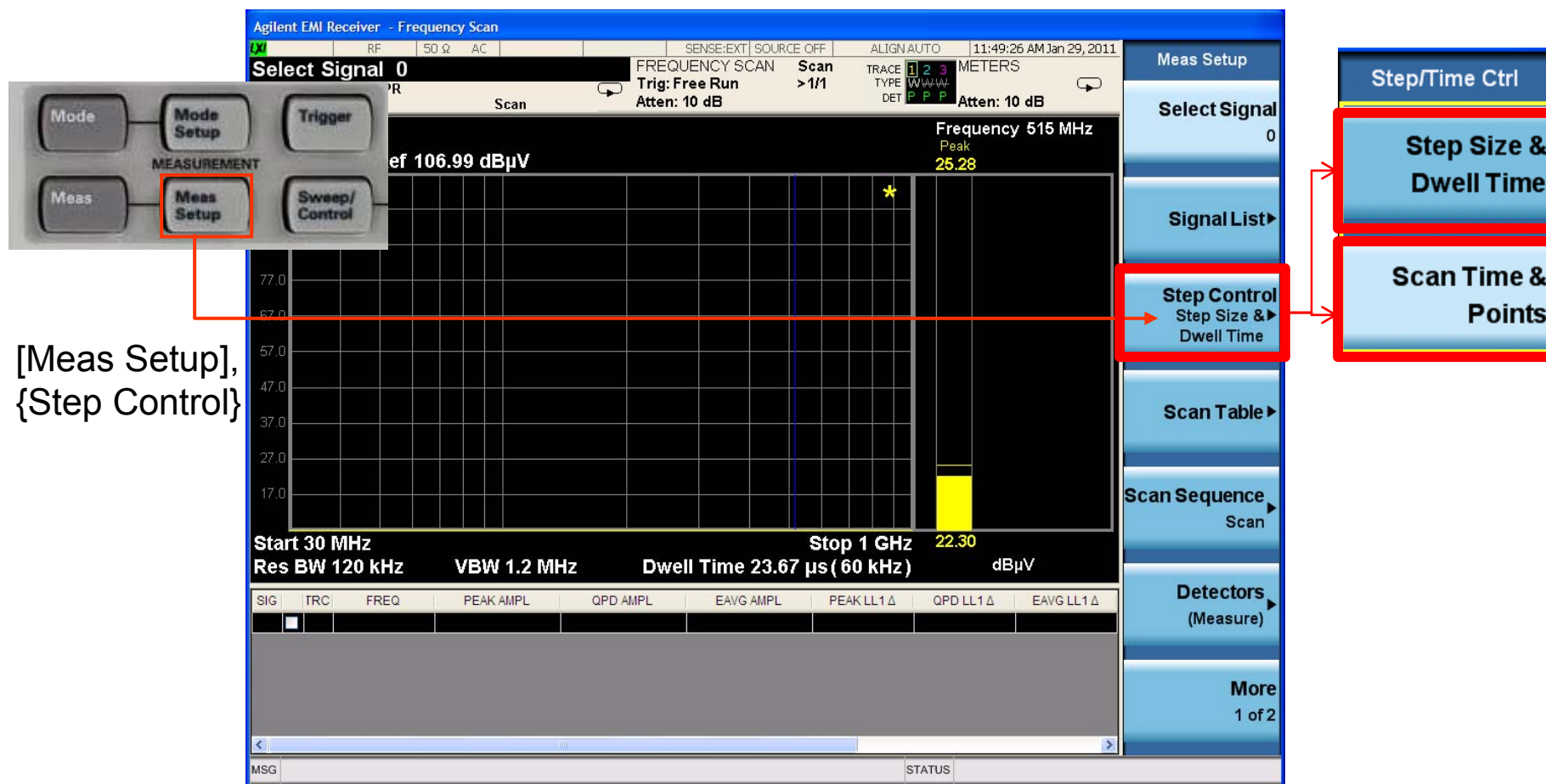
適宜設定

いずれか
を選択

プリセットボタン(緑ボタン)を押した時のデフォルト設定が可能

スキンの種類を選択する

Xシリーズ共通

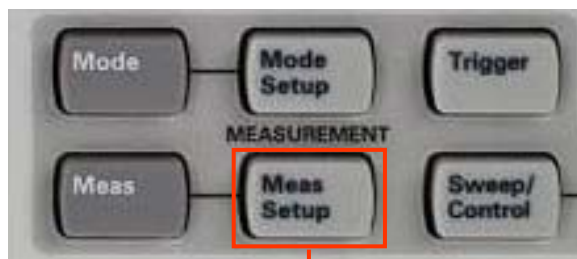


Step Size & Dwell time => 任意のステップで動作(CISPR12/25, TDSを使用する場合)
Scan Time & Points => 従来のスペアナと同様動作(MILや民生品の測定の場合)

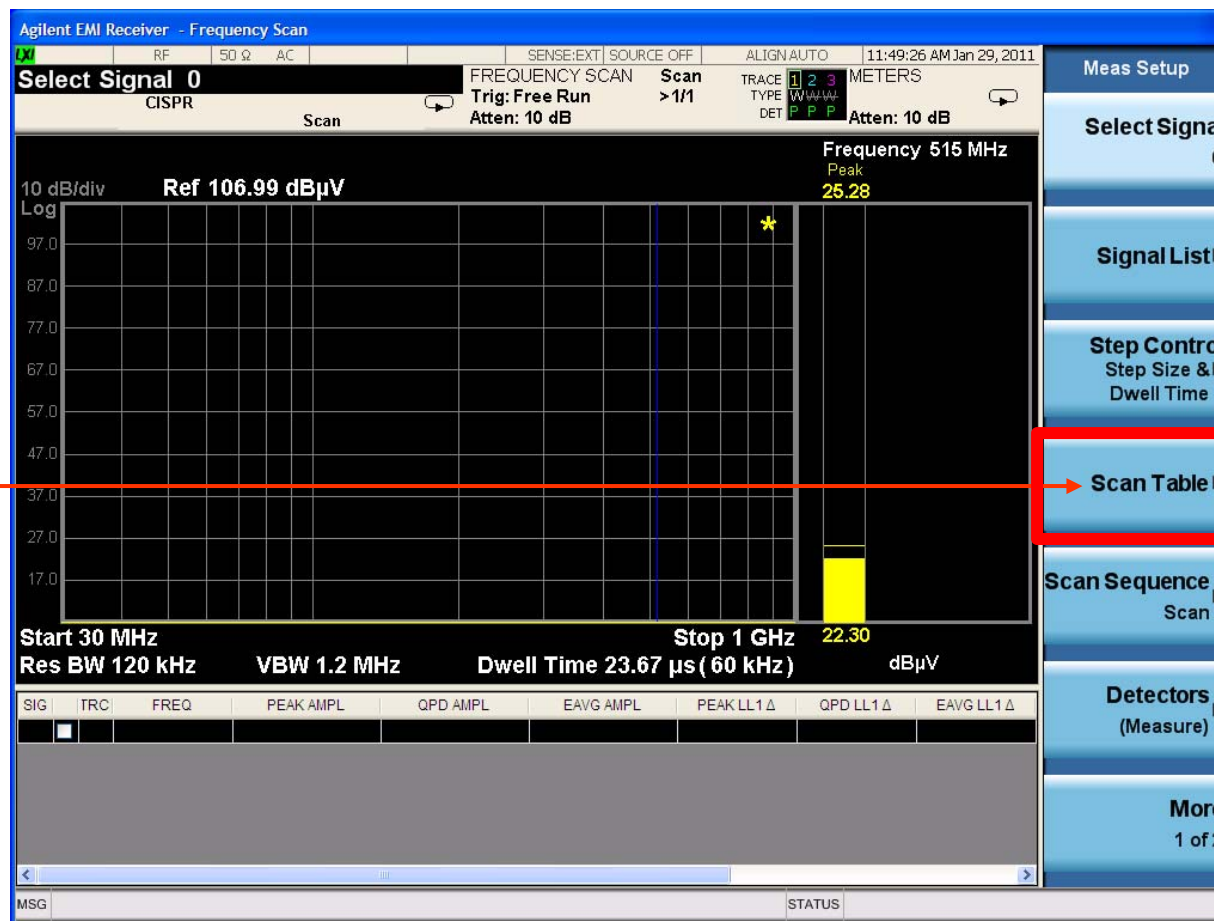
Scan Tableを開く

Xシリーズ共通

主に測定周波数範囲、RBW、アッテネータなどをここから設定します。



[Meas Setup], {Scan Table}



Scan Tableを開く

Xシリーズ共通

マウスを使い所望のレンジを選択/不要なレンジはチェックを外す。

Agilent EMI Receiver - Frequency Scan

RF PRESEL 50 Ω AC SENSE:INT SOURCE OFF ALIGN AUTO 12:07:22 PM Mar 23, 2013

FREQUENCY SCAN Scan >1/1 TRACE 1 2 3 METERS TYPE WWW DET P P P RBW: 100 kHz Atten: 10 dB

MIL Smooth Scan Atten: 10 dB Free Run

Range 1	Range 2	Range 3	Range 4	Range 5
Start 9.000000000 kHz	150.000000000 kHz	30.000000000 MHz	300.000000000 MHz	30.000000000 MHz
Stop 150.000000000 kHz	30.000000000 MHz	300.000000000 MHz	1.000000000 GHz	1.000000000 GHz
RBW <input checked="" type="checkbox"/> (A) 1.0 kHz	<input checked="" type="checkbox"/> (A) 10 kHz	<input checked="" type="checkbox"/> (A) 100 kHz	<input checked="" type="checkbox"/> (A) 100 kHz	<input checked="" type="checkbox"/> (A) 100 kHz
Dwell Time <input checked="" type="checkbox"/> (A) 998.067 μ s	<input checked="" type="checkbox"/> (A) 99.867 μ s	<input checked="" type="checkbox"/> (A) 10.000 μ s	<input checked="" type="checkbox"/> (A) 10.000 μ s	<input checked="" type="checkbox"/> (A) 10.000 μ s
Step Size <input checked="" type="checkbox"/> (A) 500.000 Hz	<input checked="" type="checkbox"/> (A) 5.000 kHz	<input checked="" type="checkbox"/> (A) 50.000 kHz	<input checked="" type="checkbox"/> (A) 50.000 kHz	<input checked="" type="checkbox"/> (A) 50.000 kHz
Auto Rules <input checked="" type="radio"/> Pts/RBW 2 <input type="radio"/> Log % 10	<input checked="" type="radio"/> Pts/RBW 2 <input type="radio"/> Log % 10	<input checked="" type="radio"/> Pts/RBW 2 <input type="radio"/> Log % 10	<input checked="" type="radio"/> Pts/RBW 2 <input type="radio"/> Log % 10	<input checked="" type="radio"/> Pts/RBW 2 <input type="radio"/> Log % 10
Atten 10 dB	10 dB	10 dB	10 dB	10 dB
Int Preamp Off	Off	Off	Off	Off
Autorange Off	Off	Off	Off	Off
Auto Preamp Off	Off	Off	Off	Off
RF Input Input1	Input1	Input1	Input1	Input1

MSG STATUS

Scan Table

Select Range Range 5

Range On Off

Start Freq 30.000000 MHz

Stop Freq 1.000000000 GHz

Res BW 100 kHz Auto Man

Display Scan Table Range 1-5

More 1 of 3

最大10個のレンジ設定が可能

レンジのON/OFF設定

スタート周波数

ストップ周波数

RBW設定

スキャンテーブルの表示のOn/Off

次項へ続く

Scan Tableを開く

Xシリーズ共通

Agilent EMI Receiver - Frequency Scan

RF PRESEL 50 Ω AC SENSE:INT SOURCE OFF ALIGN:AUTO 12:07:29 PM Mar 23, 2013

FREQUENCY SCAN Scan >1/1 TRACE TYPE WWWW METERS RBW: 100 kHz Atten: 10 dB

MIL Smooth Scan Atten: 10 dB Free Run DET P P P

	Range 1	Range 2	Range 3	Range 4	Range 5
Start	9.000000000 kHz	150.000000000 kHz	30.000000000 MHz	300.000000000 MHz	30.000000000 MHz
Stop	150.000000000 kHz	30.000000000 MHz	300.000000000 MHz	1.000000000 GHz	1.000000000 GHz
RBW	1.0 kHz	10 kHz	100 kHz	100 kHz	100 kHz
Dwell Time	998.067 μs	99.867 μs	10.000 μs	10.000 μs	10.000 μs
Step Size	500.000 Hz	5.000 kHz	50.000 kHz	50.000 kHz	50.000 kHz
Auto Rules	Pts/RBW 2 Log % 10	Pts/RBW 2 Log % 10	Pts/RBW 2 Log % 10	Pts/RBW 2 Log % 10	Pts/RBW 2 Log % 10
Atten	10 dB	10 dB	10 dB	10 dB	10 dB
Int Preamp	Off	Off	Off	Off	Off
Autorange	Off	Off	Off	Off	Off
Auto Preamp	Off	Off	Off	Off	Off
RF Input	Input1	Input1	Input1	Input1	Input1

MSG STATUS

レンジ選択(最大10個)

1ポイント辺りの測定時間の設定

ステップサイズの設定

RBWの中のポイント数の設定(最大4)

アッテネータの設定

内蔵プリアンプ On/Off設定

次項へ続く

Scan Tableを開く

Xシリーズ共通

Agilent EMI Receiver - Frequency Scan

RF PRESEL 50 Ω AC SENSE:INT SOURCE OFF ALIGN AUTO 01:58:08 PM Mar 24, 2013

Start Freq 30.000000 MHz FREQUENCY SCAN Scan --M1 TRACETYPE WWWW METERS RBW: 120 kHz

CISPR Smooth Scan Atten: 10 dB Free Run DET P P P P Atten: 6 dB

	Range 1	Range 2	Range 3	Range 4	Range 5
Start	9.000000000 kHz	150.000000000 kHz	30.000000000 MHz	300.000000000 MHz	30.000000000 MHz
Stop	150.000000000 kHz	30.000000000 MHz	300.000000000 MHz	1.000000000 GHz	1.000000000 GHz
RBW	200 Hz	9.0 kHz	120 kHz	120 kHz	120 kHz
Dwell Time	4.102 ms	108.067 μs	6.733 μs	6.733 μs	6.733 μs
Step Size	100.000 Hz	4.500 kHz	60.000 kHz	60.003 kHz	60.002 kHz
Auto Rules	Pts/RBW 2 Log % 10	Pts/RBW 2 Log % 10	Pts/RBW 2 Log % 10	Pts/RBW 2 Log % 10	Pts/RBW 2 Log % 10
Atten	10 dB	10 dB	10 dB	10 dB	10 dB
Int Preamp	Off	Off	Off	Off	Off
Autorange	Off	Off	Off	Off	Off
Auto Preamp	Off	Off	Off	Off	Off
RF Input	Input1	Input1	Input1	Input1	Input1

MSG STATUS

Scan Table

Select Range
Range 5

Autorange
On Off

Auto Preamp
On Off

RF Input
Input1

Range→SA

Range Presets

More
3 of 3

レンジ選択(1~10)

アッテネータを自動調整

プリアンプを自動調整

入力ポートの切り替え

表示しているレンジをスペアナモードへ入り替え

レンジの初期設定選択

Limit LineをLoadする

Xシリーズ共通

本体に保存されているリミットラインを呼び出す。
[Recall], {Data}, {Limit Lines}, {Open}

The image shows the Agilent N9038A software interface. On the left, the UTILITY menu is open, and the Recall button is highlighted with a red box. An arrow points from this button to the main display area. In the main display area, the Recall button is also highlighted with a red box. On the right, the Import Data menu is open, and the Limit Lines option is highlighted with a red box. An arrow points from this option to the main display area. The main display area shows a frequency scan plot with a peak at 515 MHz and a value of 25.42. The plot also shows a reference level of 106.99 dBμV and a peak level of 22.20 dBμV. The plot parameters are Start 150 kHz, Res BW 120 kHz, VBW 1.2 MHz, Dwell Time 23.67 μs (60 kHz), and Stop 30 MHz.

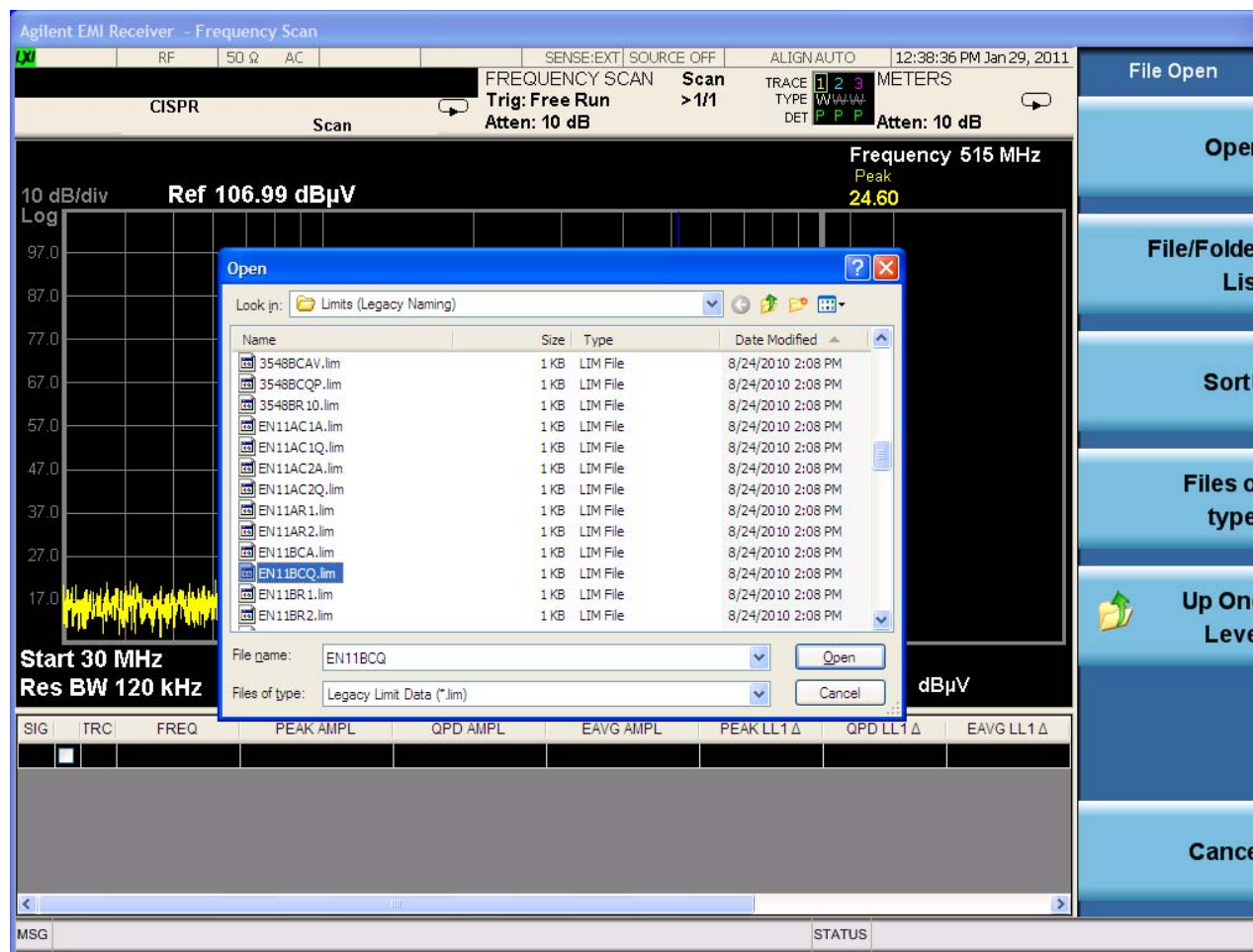
Limit LineをLoadする

Xシリーズ共通

本体に保存されているリミットラインを呼び出す。

[Recall], {Data}, {Limit Lines}, {Open}

※ここではEN55011 Class BのQP限度値を呼び出します。



Limit Lineを編集する

Xシリーズ共通

Limit Lineを編集するには以下の操作を行う。
[Meas Setup], {More 1 of 2}, {Limit}, {Edit}

The screenshot displays the Agilent N9038A software interface. The main display shows a frequency spectrum plot with a peak at 515 MHz. The 'Meas Setup' menu is open, showing options like 'Select Signal', 'Signal List', 'Step Control', 'Scan Table', 'Scan Sequence', 'Detectors', and 'More 1 of 2'. The 'Limits' submenu is also visible, showing options like 'Select Limit', 'Limit', 'Properties', 'Margin', 'Edit', 'Search Criteria', and 'More 1 of 2'. The 'Edit' button in the 'Limits' submenu is highlighted with a red box. A red arrow points from the 'Meas Setup' button on the physical keypad to the 'Meas Setup' menu item in the software interface. Another red arrow points from the 'More 1 of 2' button in the software interface to the 'Limits' menu item. A third red arrow points from the 'Limits' menu item to the 'Edit' button in the 'Limits' submenu.

Limit Lineを編集する

Xシリーズ共通

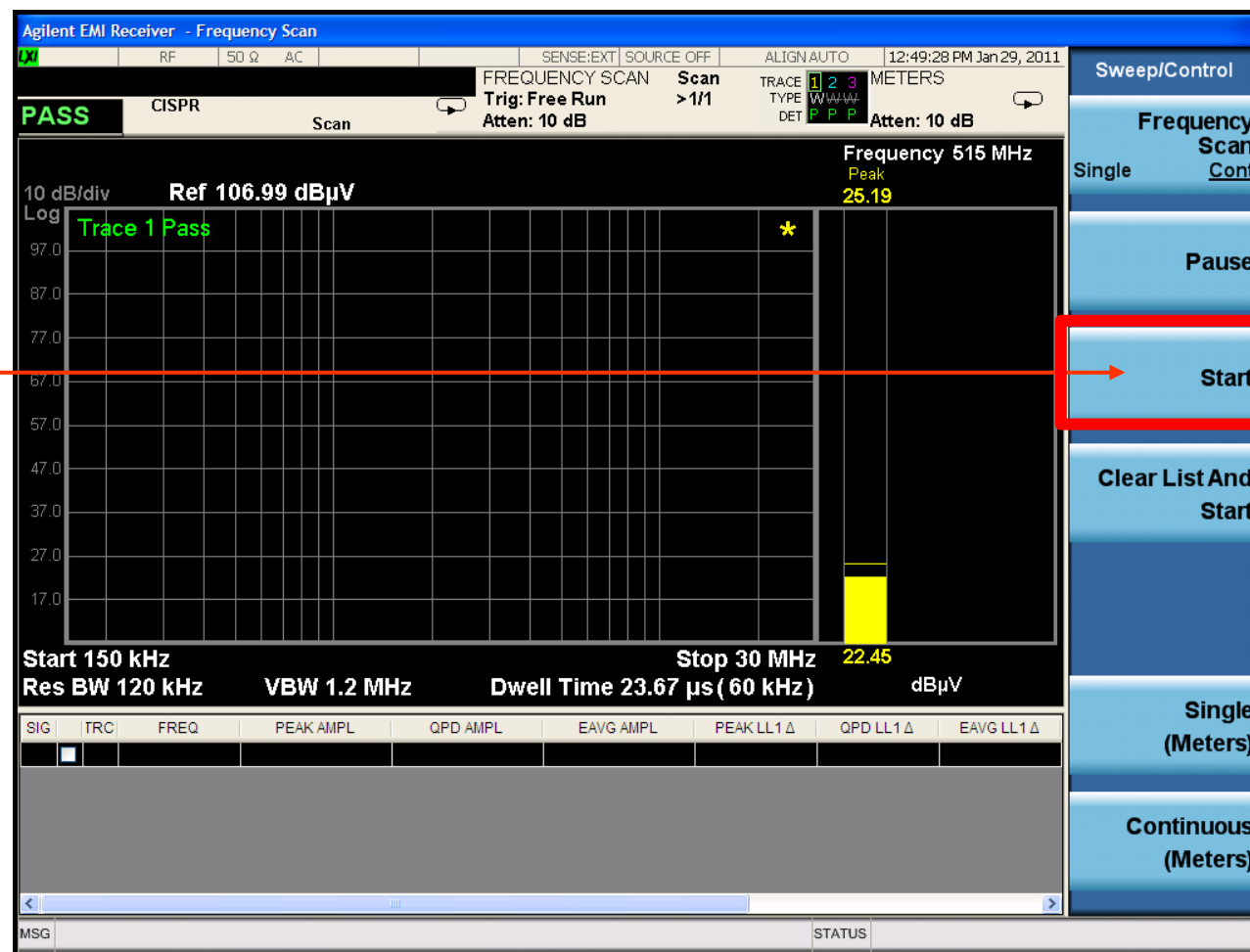
Limit Lineのテーブルが開くので、{Frequency}, {Amplitude}を使用し周波数とリミット値を適宜入力する。



Limit Lineを表示する

Xシリーズ共通

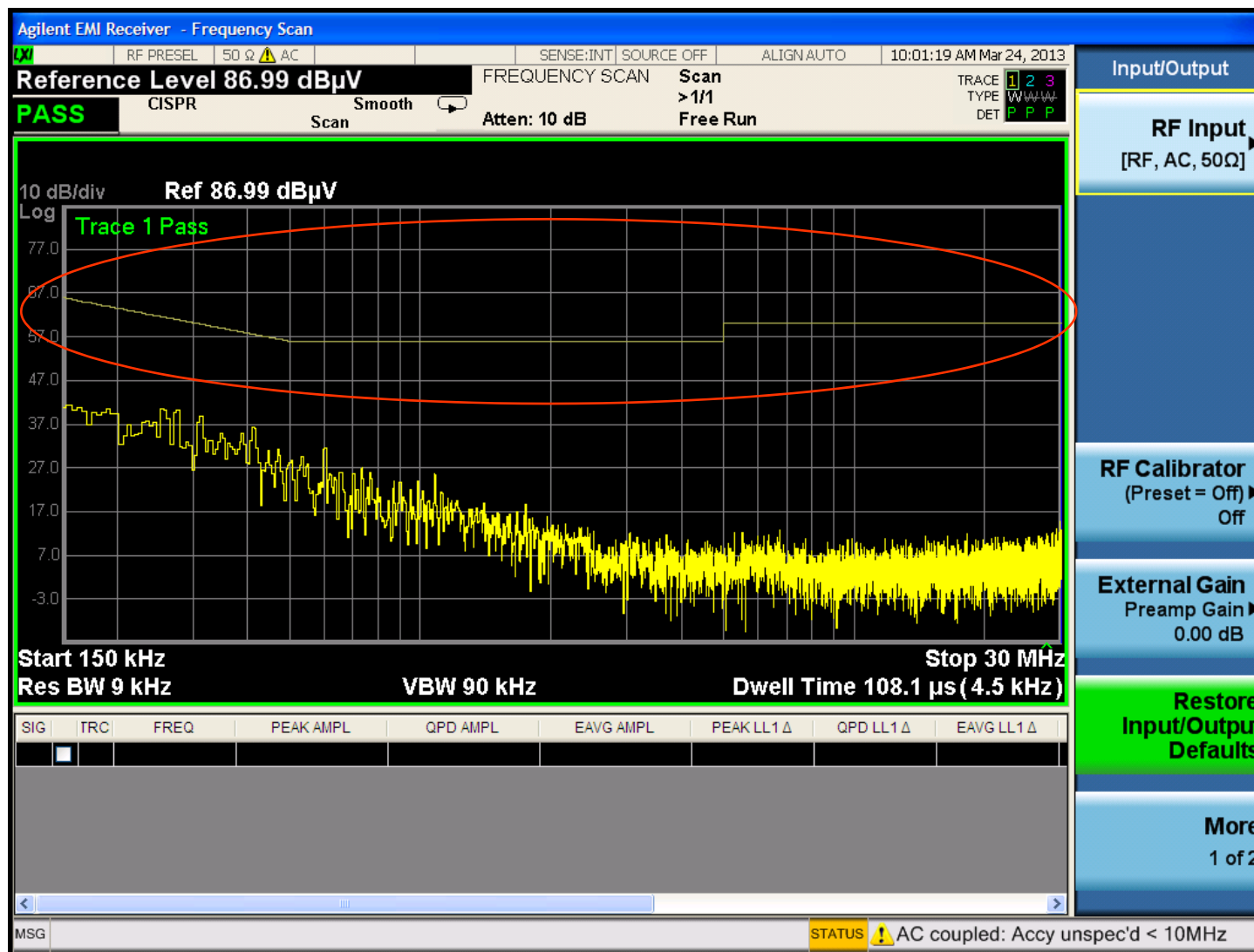
Limit Lineを表示するには一度掃引する。
[Sweep], {Start} もしくは[Restart]



Limit Lineを表示する

Xシリーズ共通

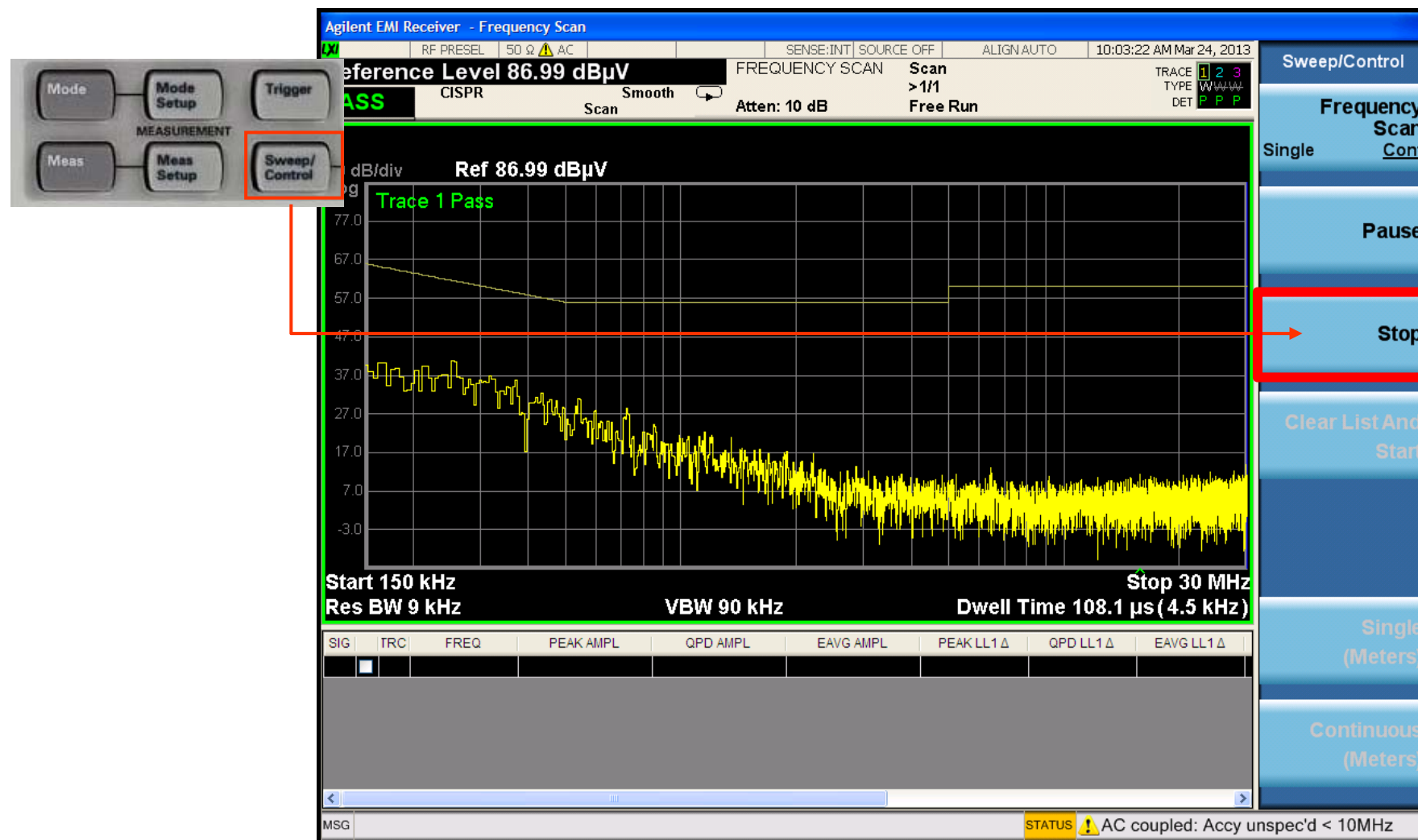
Limitが表示された事を確認して下さい。



波形のアップデートを止める

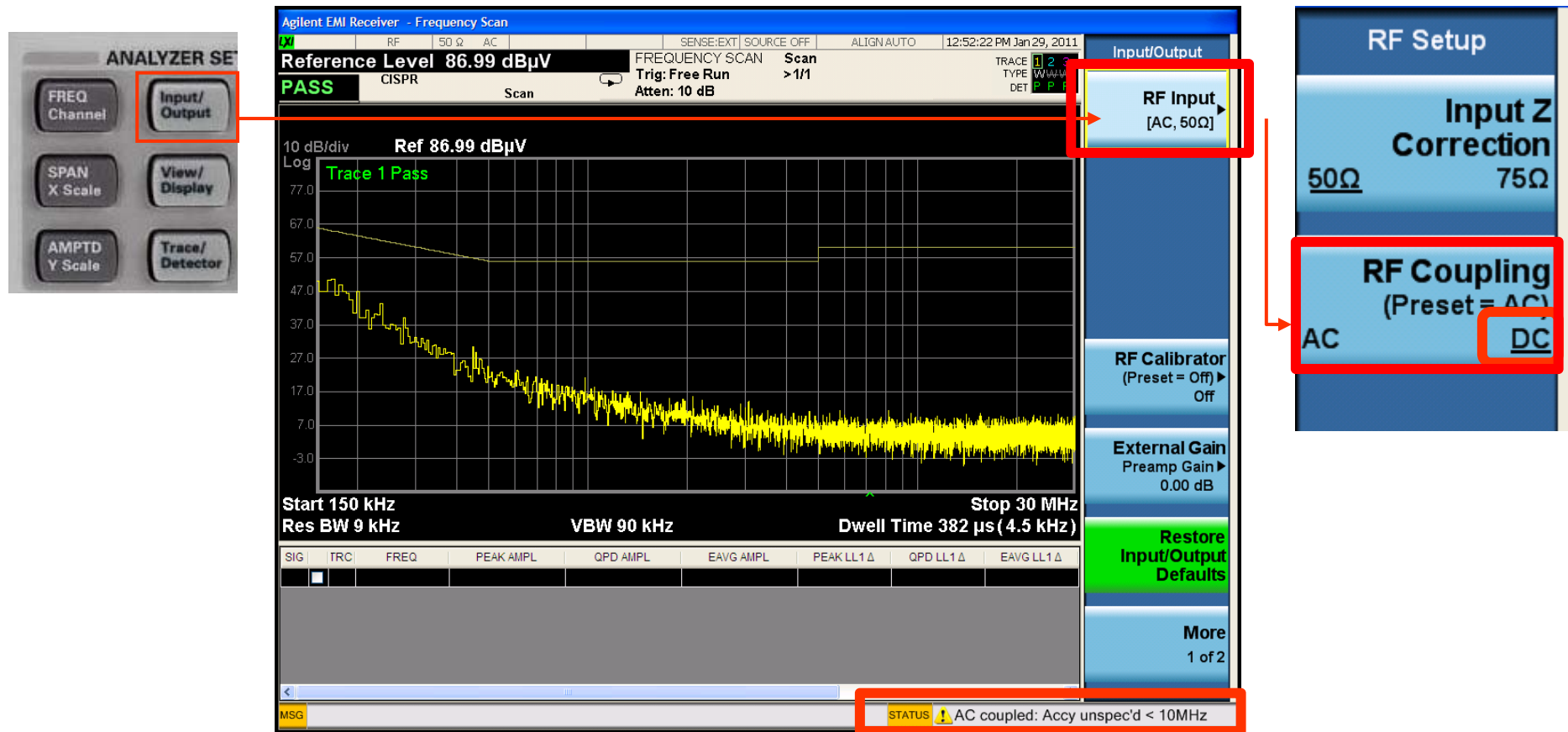
Xシリーズ共通

[Sweep/Control], {Stop} 押す



スタート周波数が10MHz未満は必ずDCカップリングにする **XA以外**

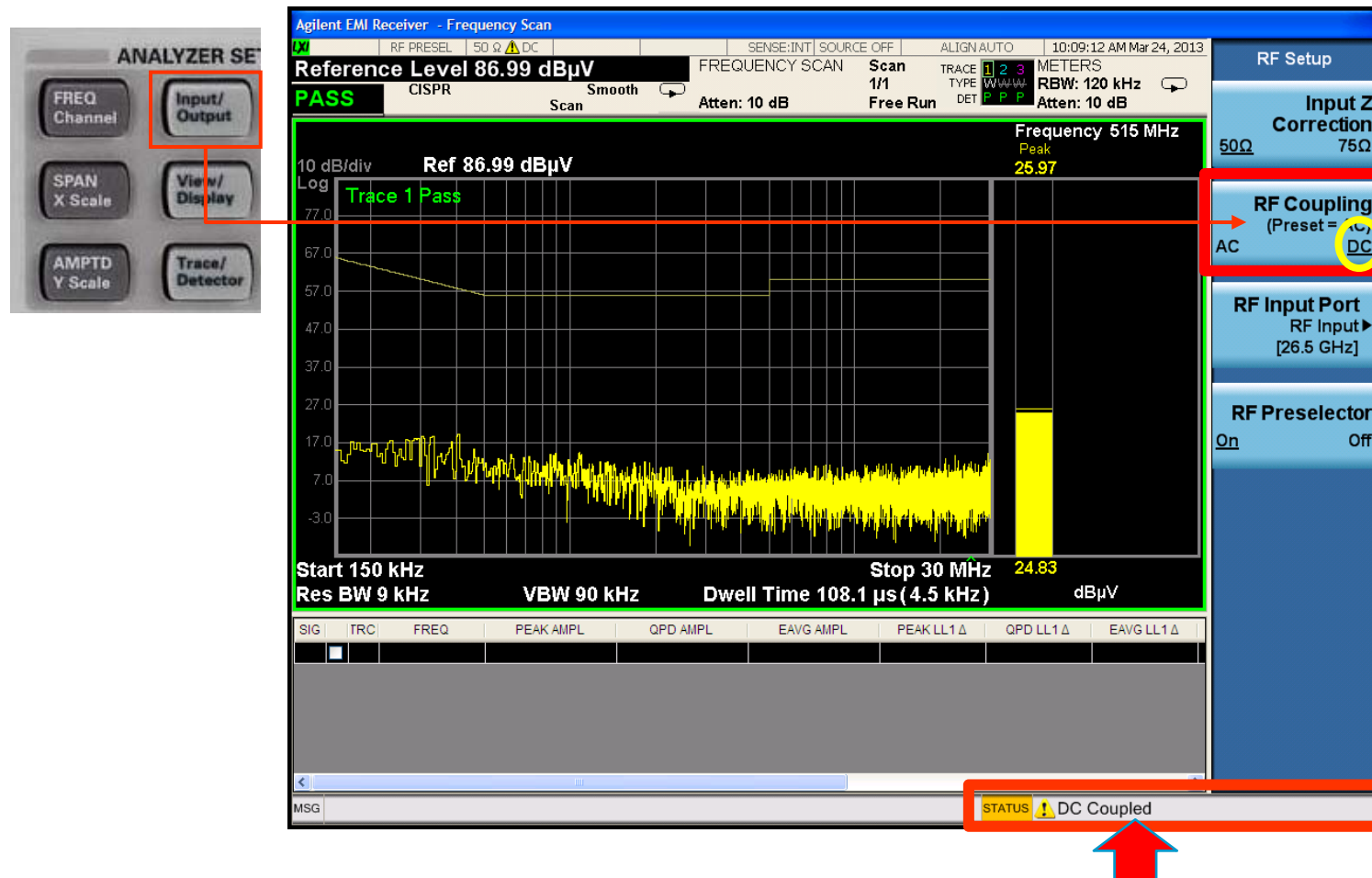
[Input/Output], {RF Input}, {RF Coupling}を押し DCに下線が引かれるようにする



AC coupled: Accuracy unspec'd <10MHz が表示された時はdc成分が入力されていない事を確認してからdcカップルに変更して下さい。(次項参照)

スタート周波数が10MHz未満は必ずDCカップリングにする **EXA以外**

[Input/Output], {RF Input}, {RF Coupling}を押し DCに下線が引かれるようにする

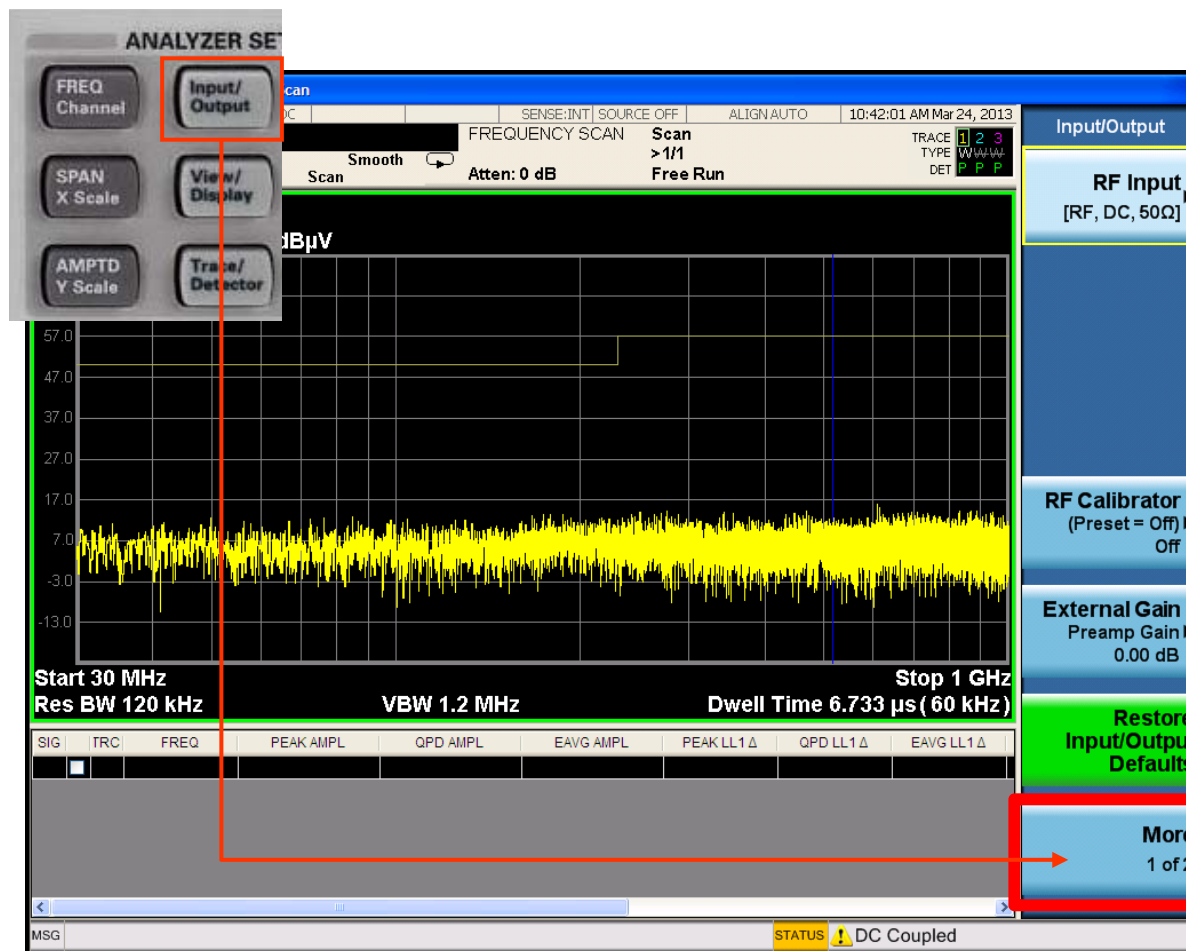


dcカップルに変更すると“DC Coupled”と表示されます。

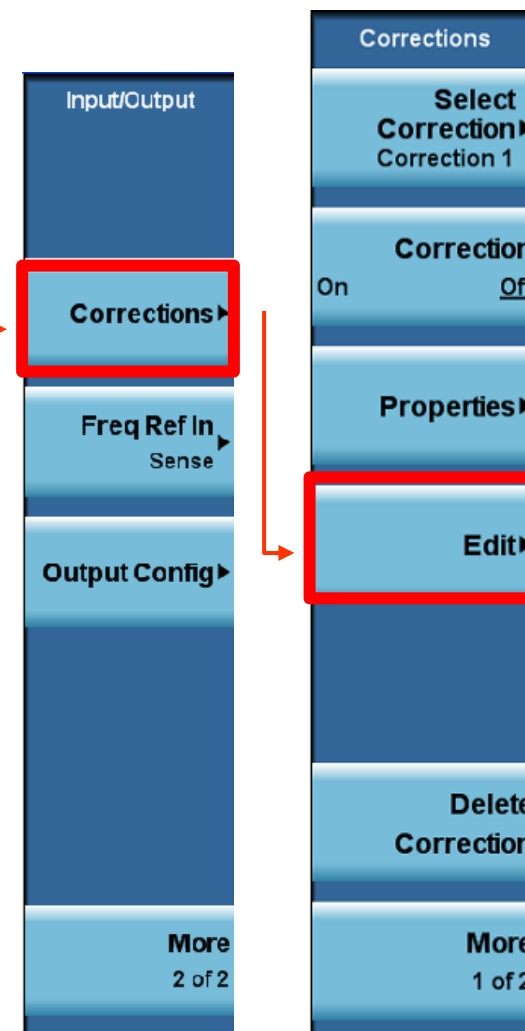
Correction(補正值)を編集する

Xシリーズ共通

補正值を編集するには
[Input/Output], {More 1 of 2}, {Corrections}, {Edit}を選択。



(RE帯のアンテナファクタを入力する例)



Correction(補正值)を編集する

Xシリーズ共通

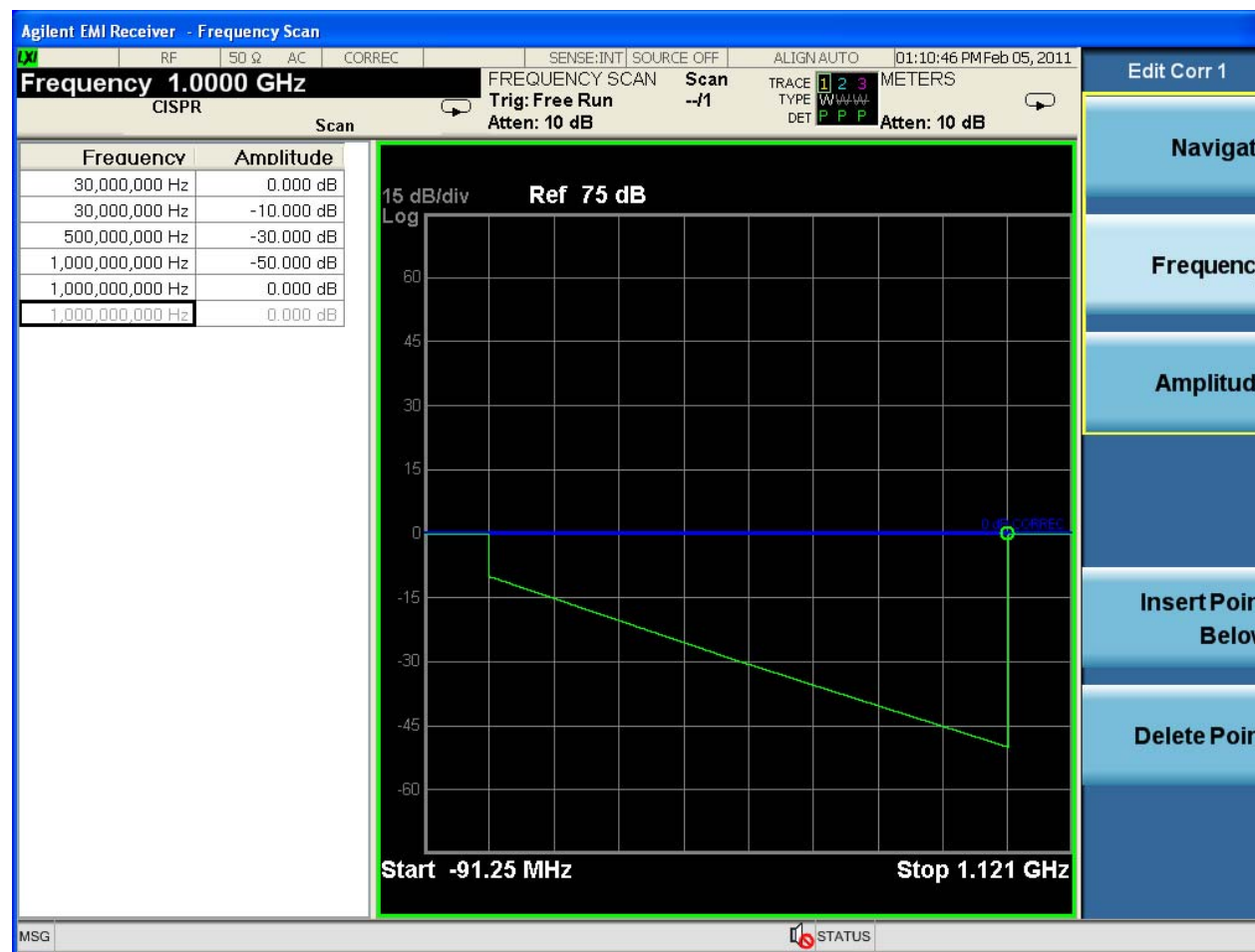
補正值テーブルが開くので、{Frequency}, {Amplitude}を使用し周波数と補正值を適宜入力する。

!!注!!

Correction(補正值)は減衰値を正の値として入力します。

例) アンテナファクタは正の値、プリアンプなどは負の値として入力して下さい。

!!注!!

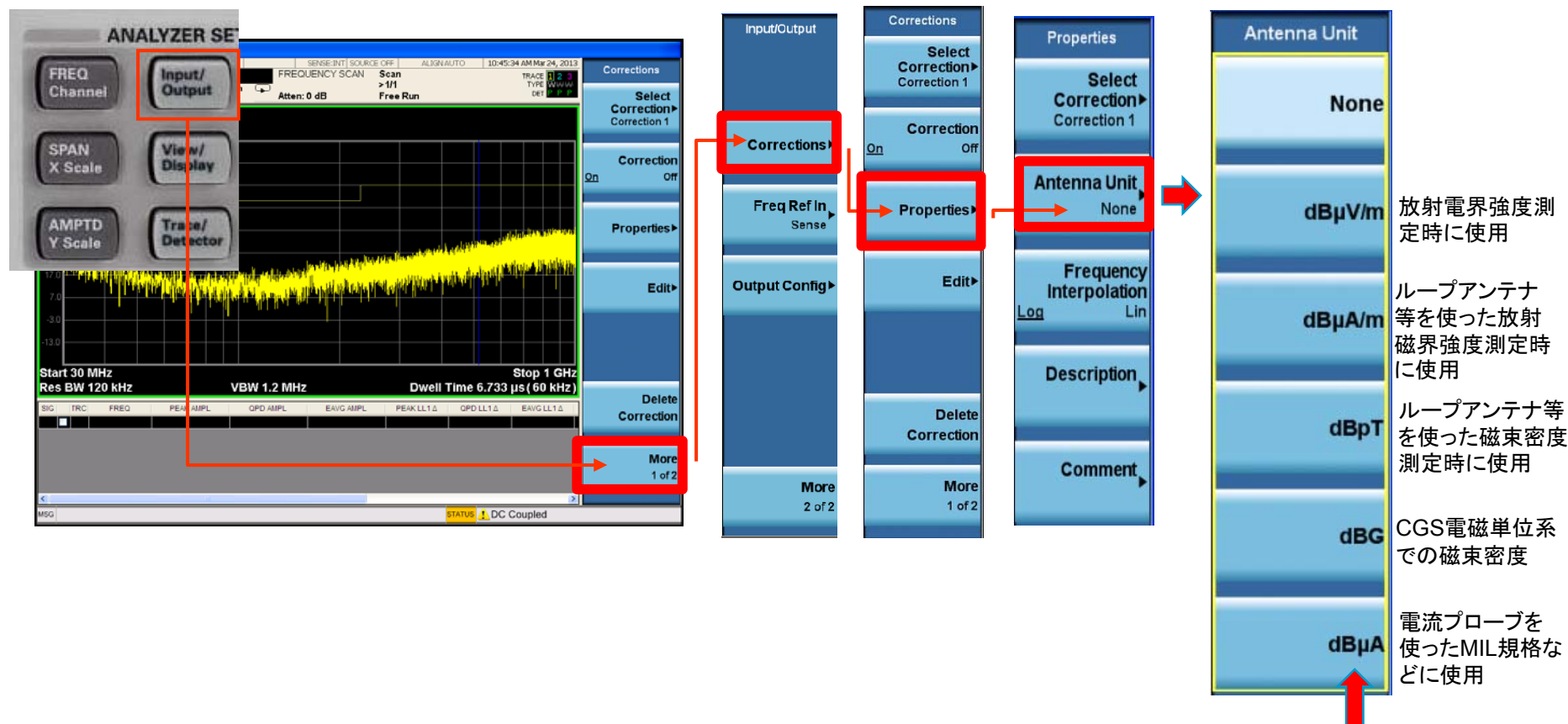


(この例は、10dB Gain@30MHz, 30dB Gain500MHz, 50dB Gain@1GHzを持つプリアンプです)

Correction(補正值)のアンテナ単位を有効にする

Xシリーズ共通

dBuV/mやdBuV, dBuAなどの単位を設定するには、
[Input/Output], {More 1 of 2}, {Corrections}, {Properties}, {Antenna Unit}を押し適宜設定する。

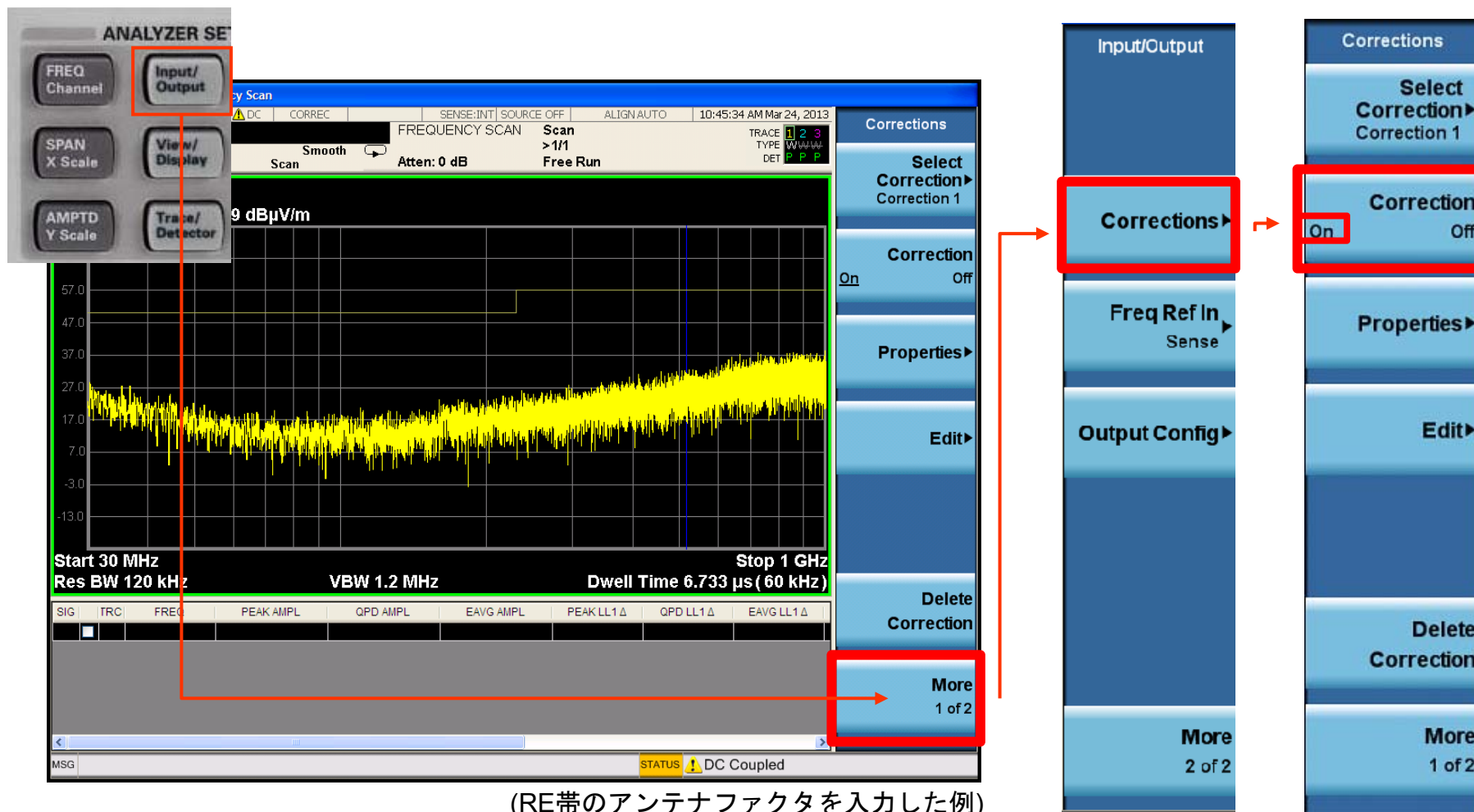


ファームウェア A.11.03以降でdBuAが追加

Correction(補正值)をONにする。

Xシリーズ共通

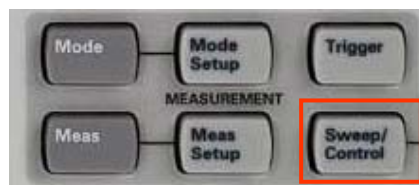
補正值を適用するには
[Input/Output], {More 1 of 2}, {Corrections}, {Correction}をONにする。



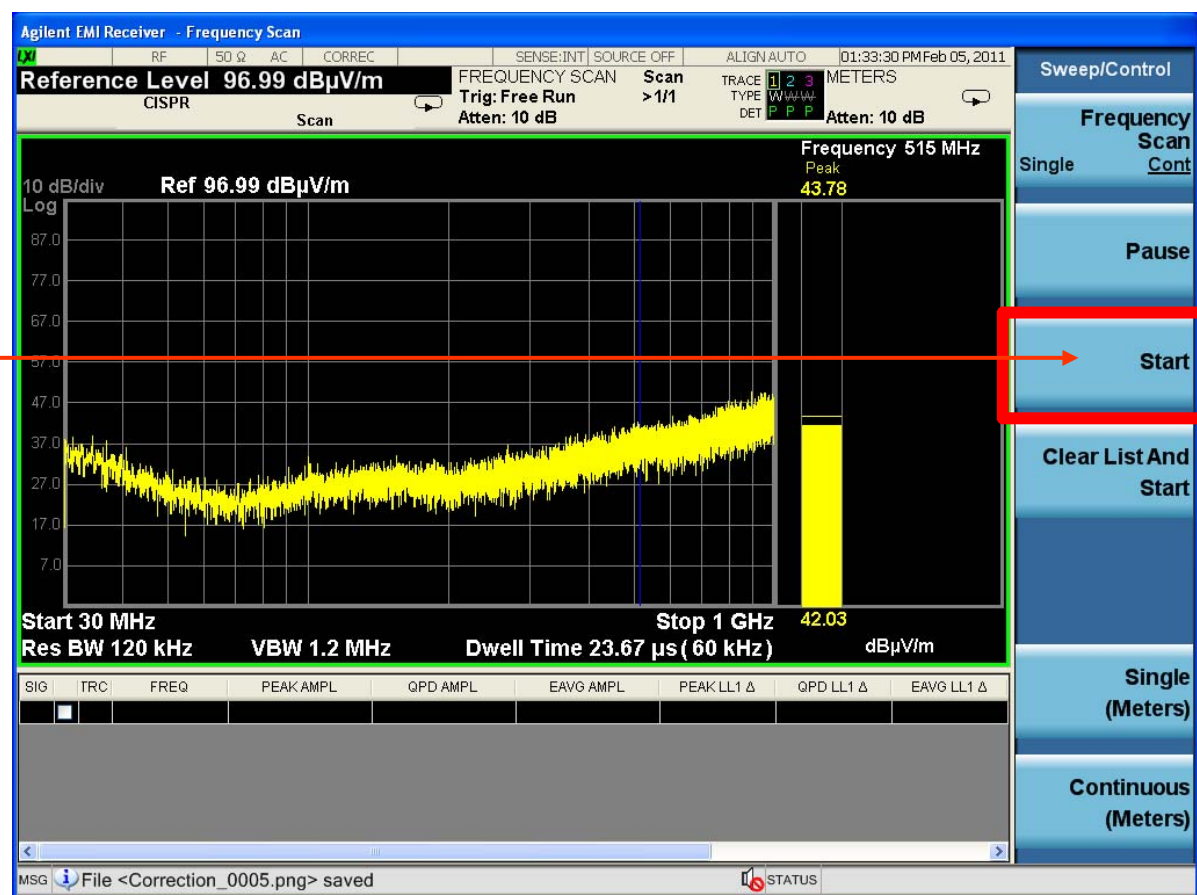
Correction(補正值)された波形を表示する

Xシリーズ共通

補正された波形を表示するには一度掃引する。
[Sweep], {Start} もしくは[Restart]



もしくは



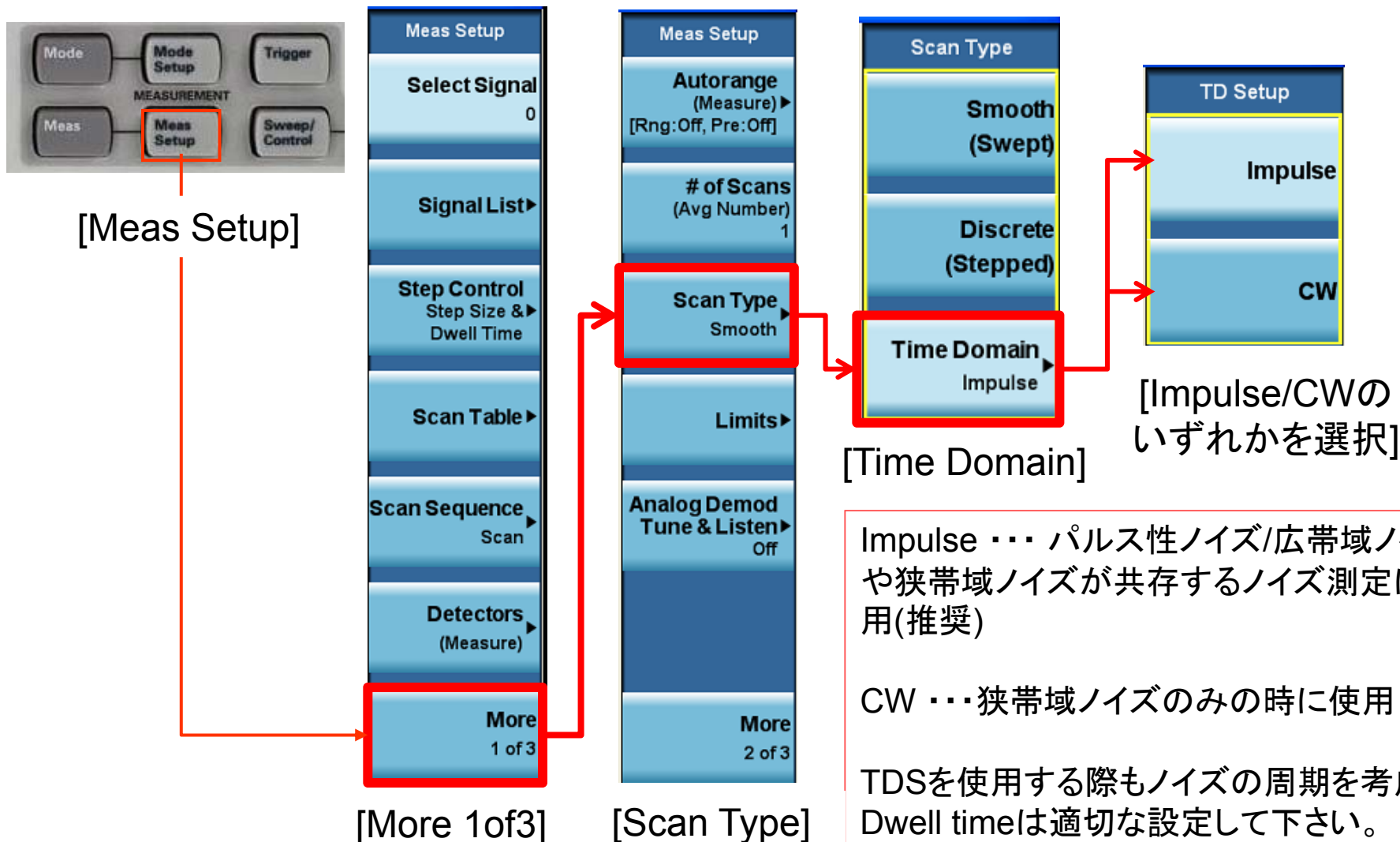
(RE帯のアンテナファクタを入力した例)

タイムドメインスキャン(TDS)の設定

N9038Aのみ

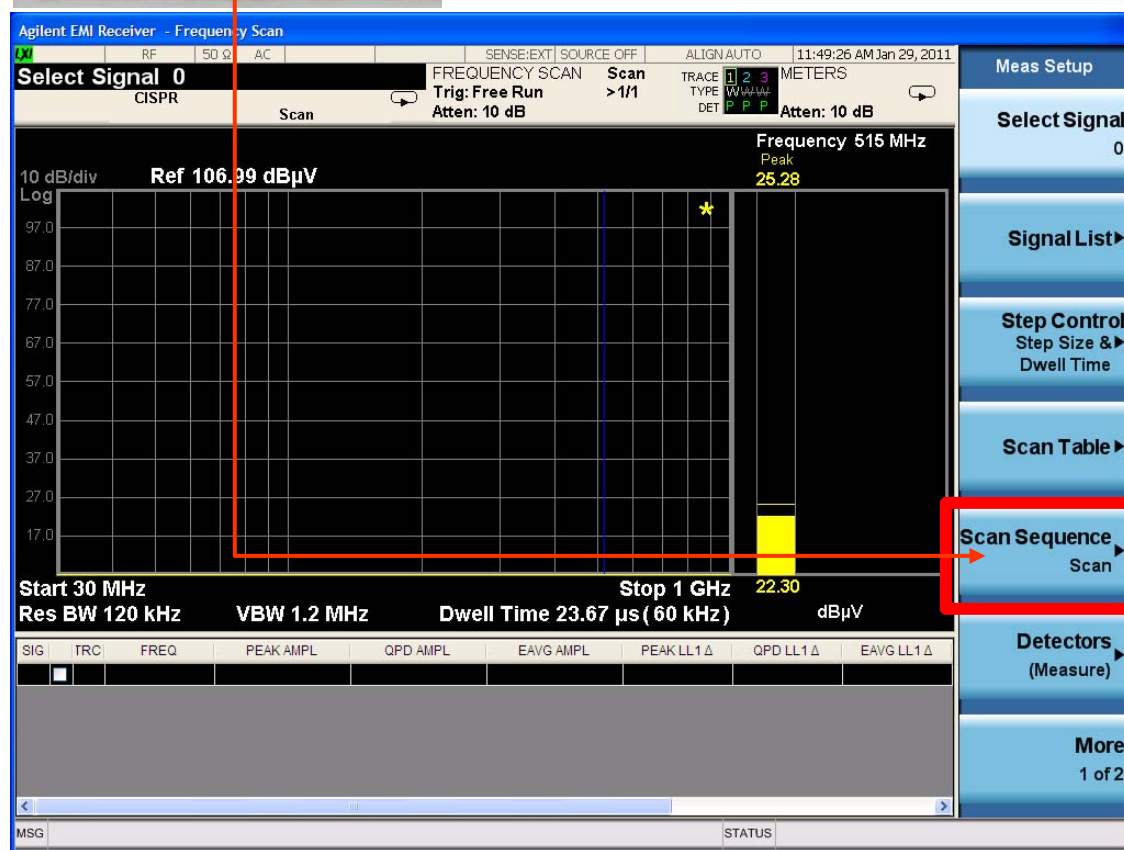
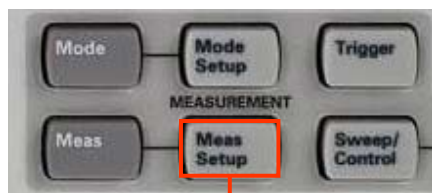
DP2ボード, オプションTDS必須

TDSは自動車関連規格および民生品の伝導性ノイズ測定に有効です。

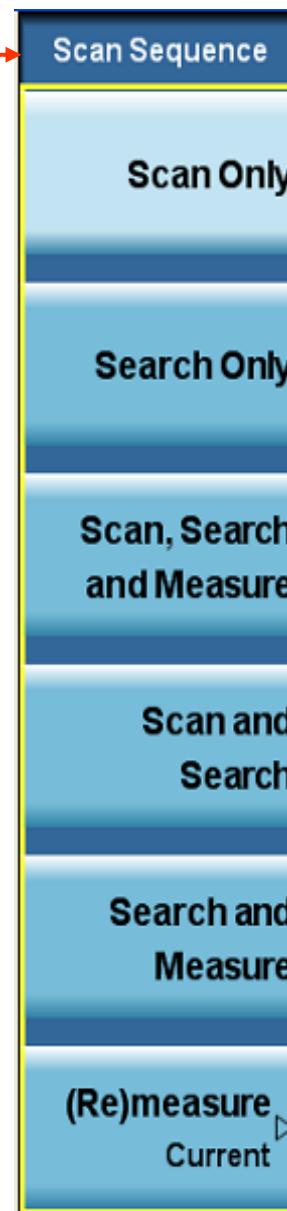


スキンの種類

スキンには6種類あります。



Xシリーズ共通



スキンのみ

Limit(Margin)を超えた信号の検出

スキン+ピーク検索+Peak/QP/AVE測定

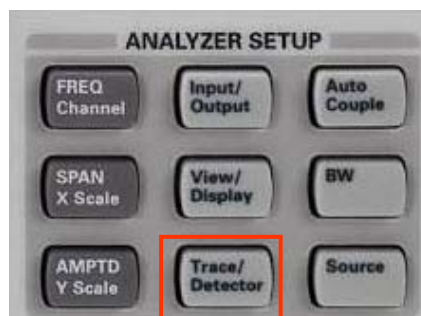
スキン+ Peak検索

ピーク検索+QP/AVEの測定

任意の周波数のPeak/QP/AVEの測定

測定対象物の電源を入れスキャンを開始する～Scan Only～

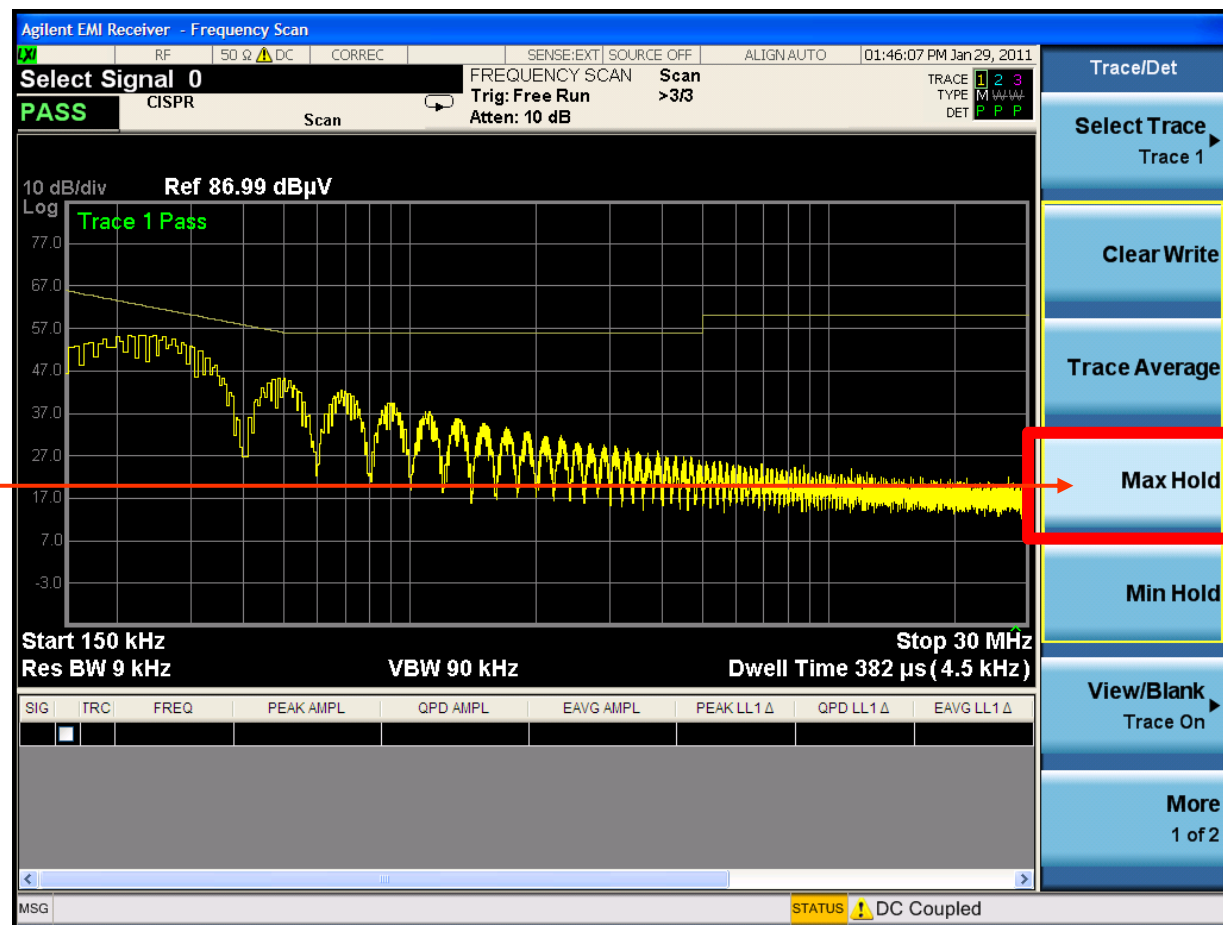
Max Holdを行う場合：[Trace/Detector], {Max Hold}を選択し、
[Sweep/Control], {Start} もしくは[Restart]を押す



もしくは



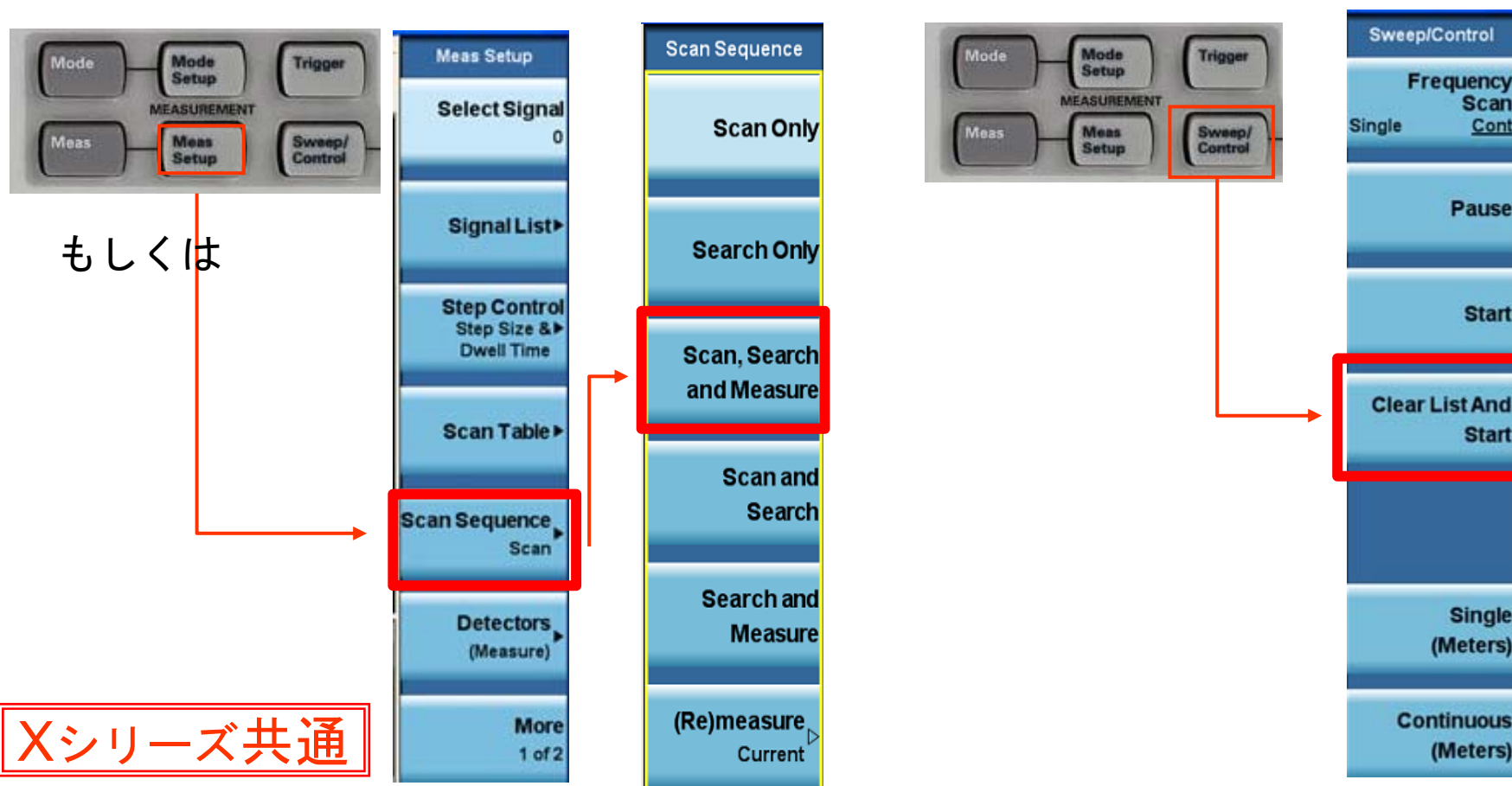
Xシリーズ共通



測定対象物の電源を入れスキャンを開始する～Scan & Search～

ここではLimit Line（Margin）を超えた信号のリスト表示を行う。
Limit Line設定後に以下の操作を行う。

[Meas Setup], {Scan Table}, {Scan and Search},
[Sweep/Control], {Clear List and Start}を押すと測定が始まる。



測定対象物の電源を入れスキャンを開始する～Scan & Search～

以下のような結果が表示される。

Xシリーズ共通

Limitを超えた波形は赤で表示される。

Limitを超えた波形の周波数とレベルがリストアップされる。



N9038A_N/W6141A 簡易取扱説明書

測定対象物の電源を入れスキャンを開始する

Xシリーズ共通

～Scan & Search & Measure～ (スキャン/サーチ/Peak/QP/AVEを一度に測定)

Limitを超えた波形は赤で表示される。

Limitを超えた波形の周波数とPeak/QP/Aveのレベルがリストアップされる。

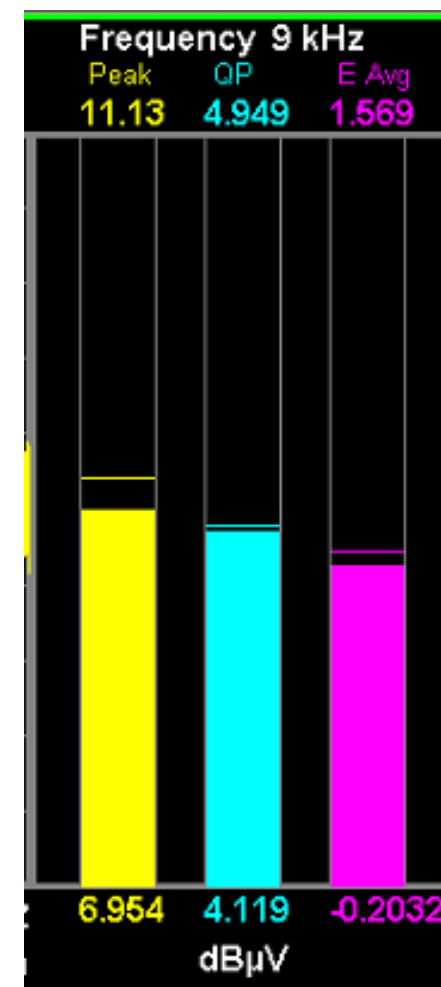
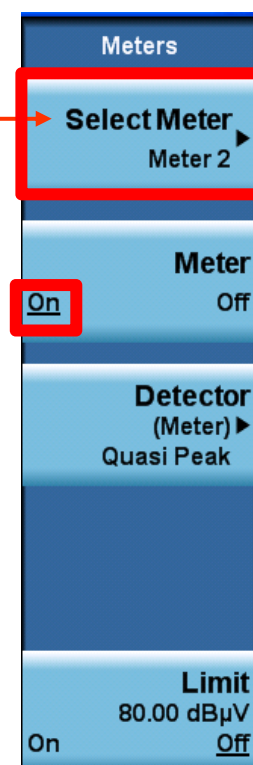
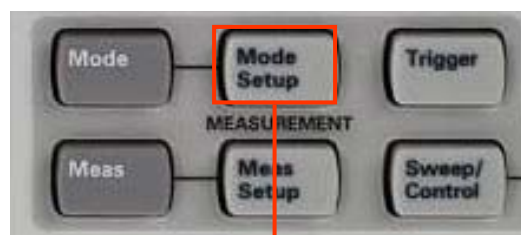


N9038A_N/W6141A 簡易取扱説明書

Peak/QP/Aveのメータ表示をする

Xシリーズ共通

[Mode Setup], {Meters Control}, {Meters}, {Select Meter2}, {Meter On Off}をOnにする。同様に、[Mode Setup], {Meters Control}, {Meters}, {Select Meter3}, {Meter On Off}をOnにする。



ここではMeter2
の設定のみをご
説明しておりま
す。

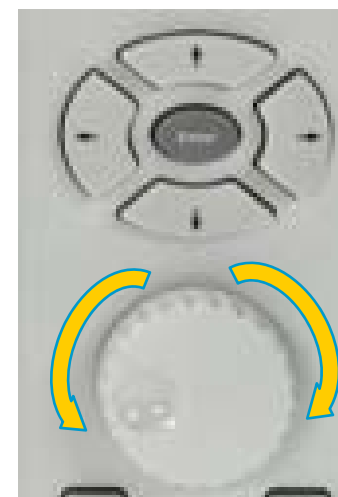
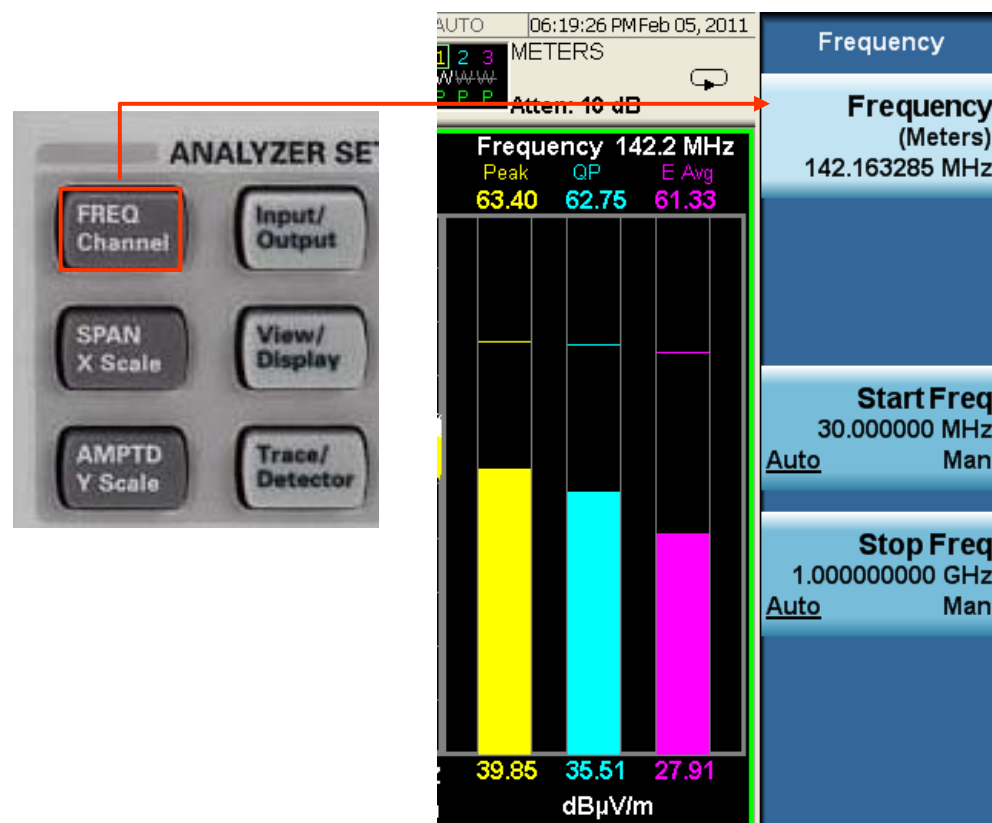
メータの周波数を変更する

Xシリーズ共通

メータの周波数を変更するには3通りあります。

1. 直接メータの周波数を変更する。

[Freq], {Frequency(Meters)}を選択しノブを回転させる。



Xシリーズ共通

2. リストされた信号の周波数をメータ一周波数に設定する。

The screenshot displays a Spectrum Analyzer's measurement results screen. At the top left, a physical control panel is visible with buttons for Mode, Mode Setup, Trigger, Meas, Meas Setup (highlighted with a red box), and Sweep/Control. The main display area shows a frequency scan from 30 MHz to 1 GHz. The trace is labeled "Trace 1 Fail". The peak amplitude is 36.62 dBμV/m at 283.7 MHz. The right sidebar contains navigation buttons: Meas Setup, Select Signal, Signal List, Step Control, Scan Table, Scan Sequence, and Detectors. The bottom status bar shows "MSG" and "STATUS".

SIG	TRC	FREQ	PEAK AMPL	QPD AMPL	EAVG AMPL	PEAK LL1 Δ	QPD LL1 Δ	EAVG LL1 Δ
1	1	283.69 MHz	36.662 dBμV/m	31.829 dBμV/m	23.658 dBμV/m	-10.338 dB	-15.171 dB	-23.342 dB
2	1	481.76 MHz	43.407 dBμV/m	39.422 dBμV/m	32.357 dBμV/m	-3.593 dB	-7.578 dB	-14.643 dB
3	1	559.40 MHz	43.710 dBμV/m	40.150 dBμV/m	32.234 dBμV/m	-3.290 dB	-6.850 dB	-14.766 dB
4	1	273.61 MHz	43.863 dBμV/m	41.872 dBμV/m	37.801 dBμV/m	-3.137 dB	-5.128 dB	-9.199 dB
5	1	269.17 MHz	44.032 dBμV/m	44.159 dBμV/m	40.051 dBμV/m	-2.968 dB	-2.841 dB	-6.949 dB
6	1	477.32 MHz	44.965 dBμV/m	42.219 dBμV/m	35.309 dBμV/m	-2.035 dB	-4.781 dB	-11.691 dB



メータの周波数を変更する

Xシリーズ共通

3. マーカーの周波数をメータの周波数に合わせる。
[Marker]を押し、所望の周波数に合わせ、{Mkr->Meters}を押す

Agilent EMI Receiver - Frequency Scan

Marker 1 144.90 MHz
 FAIL CISPR PREAMP Smooth RemeasCurr Trig: Free Run Scan 5/5 TYPE WWWW RBW: 120 kHz
 PREAMP RemeasCurr Atten: 10 dB Atten: 10 dB

10 dB/div Ref 86.99 dBμV/m
 Log Trace 1 Fail Mkr1 144.90474 MHz 60.707 dBμV/m
 Frequency 872.5 MHz Peak QP E Avg
 74.55 65.45 56.39

Start 30 MHz Stop 1 GHz
 Res BW 120 kHz VBW 1.2 MHz Dwell Time 6.733 μs (60 kHz) 70.65 64.03 51.74 dBμV/m

SIG	TRC	FREQ	PEAK AMPL	QPD AMPL	EAVG AMPL	PEAK LL1 Δ	QPD LL1 Δ	EAVG LL1 Δ
3	1	871.41 MHz	74.452 dBμV/m	69.081 dBμV/m	60.969 dBμV/m	27.452 dB	22.081 dB	13.969 dB
4	1	872.49 MHz	66.295 dBμV/m	60.635 dBμV/m	48.173 dBμV/m	19.295 dB	13.635 dB	1.173 dB
5	1	876.99 MHz	72.282 dBμV/m	66.963 dBμV/m	57.967 dBμV/m	25.282 dB	19.963 dB	10.967 dB
6	1	877.35 MHz	71.694 dBμV/m	65.710 dBμV/m	57.224 dBμV/m	24.694 dB	18.710 dB	10.224 dB
7	1	877.95 MHz	74.156 dBμV/m	67.987 dBμV/m	59.224 dBμV/m	27.156 dB	20.987 dB	12.224 dB
8	1	878.49 MHz	75.185 dBμV/m	69.140 dBμV/m	60.930 dBμV/m	28.185 dB	22.140 dB	13.930 dB

MSG STATUS

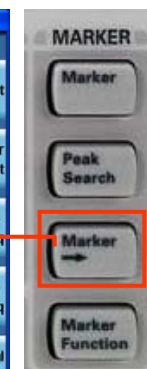
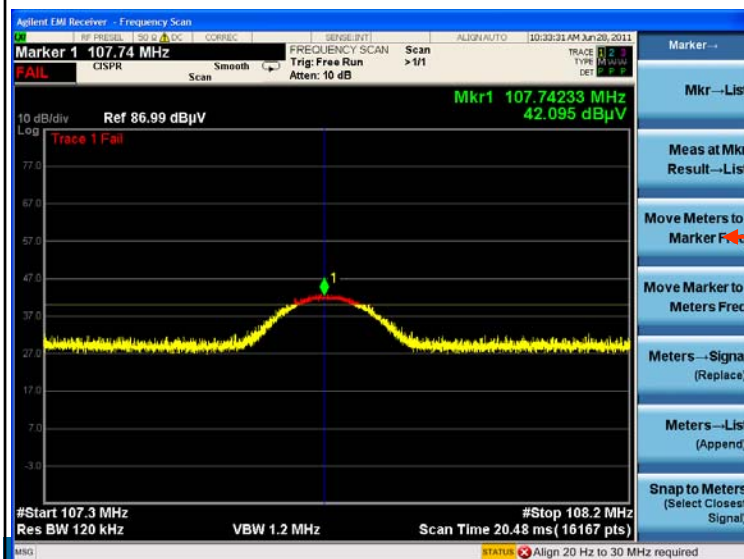
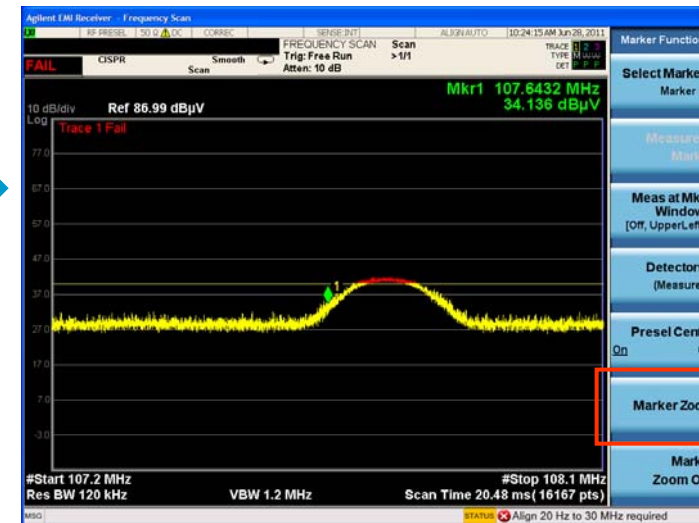
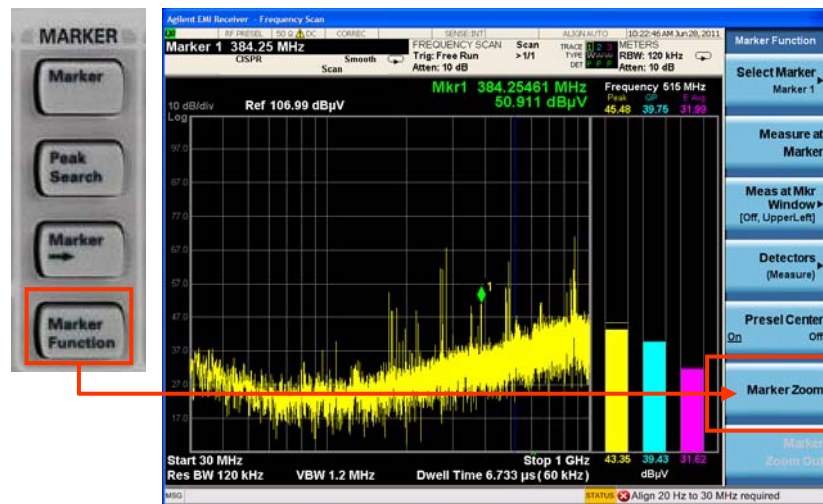
Marker Actions:

- Marker→
- Mkr→List
- Meas at Mkr Result→List
- Move Meters to Marker Freq
- Move Marker to Meters Freq
- Meters→Signal (Replace)
- Meters→List (Append)
- Snap to Meters (Select Closest Signal)

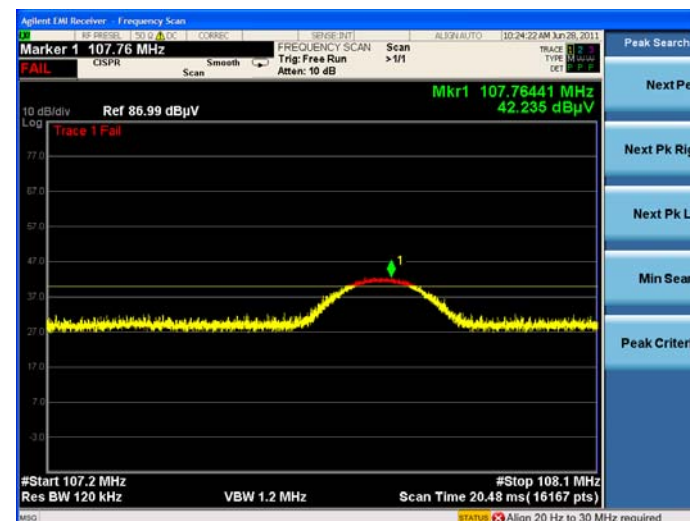
マーカーズームを使い更に周波数を絞り込みPeak/QP/AVEの値を測定する ～微調～

Xシリーズ共通

[Marker Function]を押し、{Marker Zoom}を押す。



[Marker->]を押し、
{Move Meter to
Marker Freq}を押す。



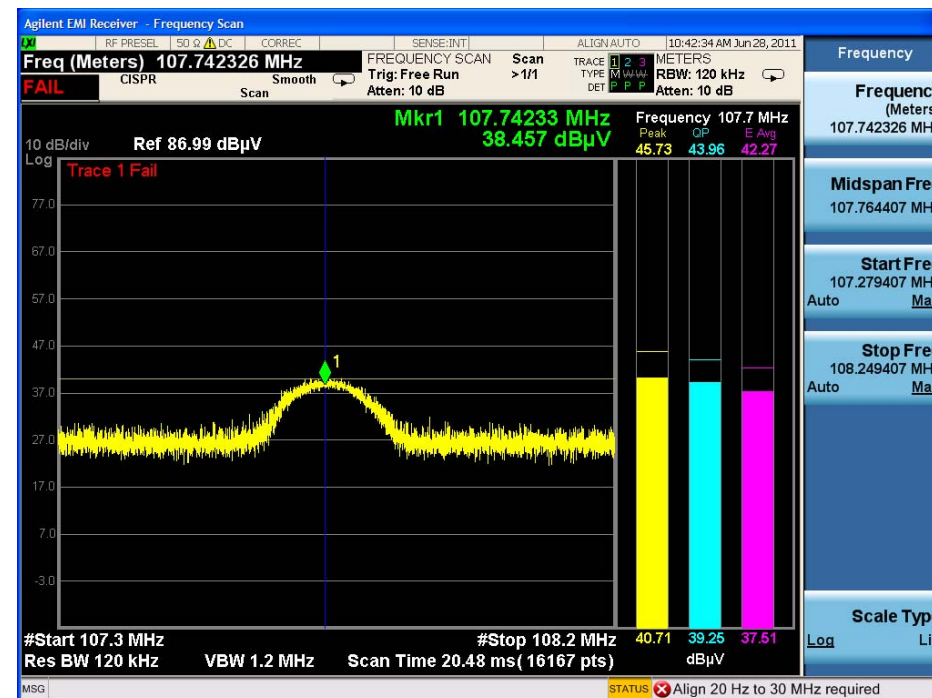
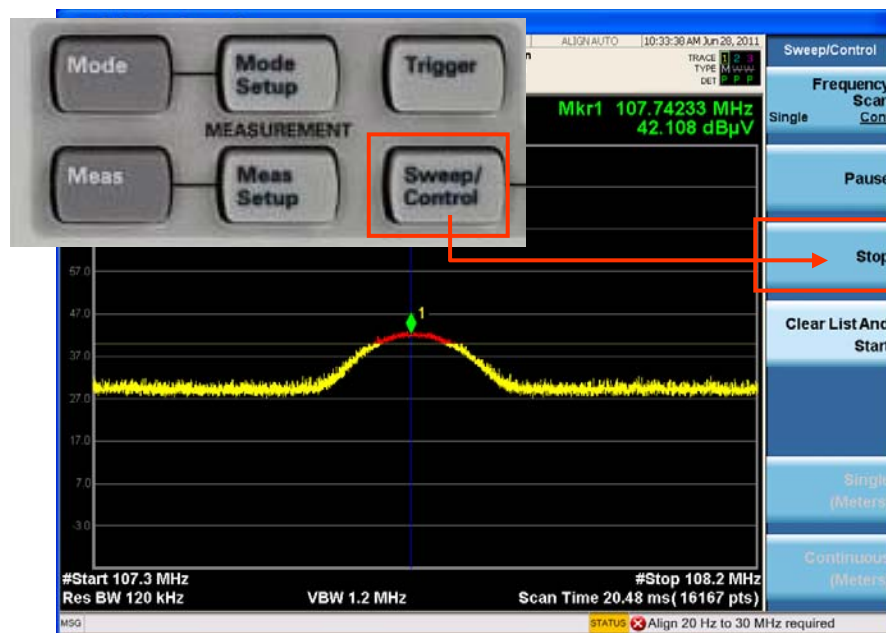
Peak
Searchを
押す。



マーカーズームを使い更に周波数を絞り込みPeak/QP/AVEの値を測定する ～微調～

MXE/Xシリーズ共通

一度、掃引を止めてメータでPK/QP/AVEの値を読む。(このとき周波数を調節しても構わない)
[Sweep/Control]を押し、{Stop}を押すとメーターが表示される。

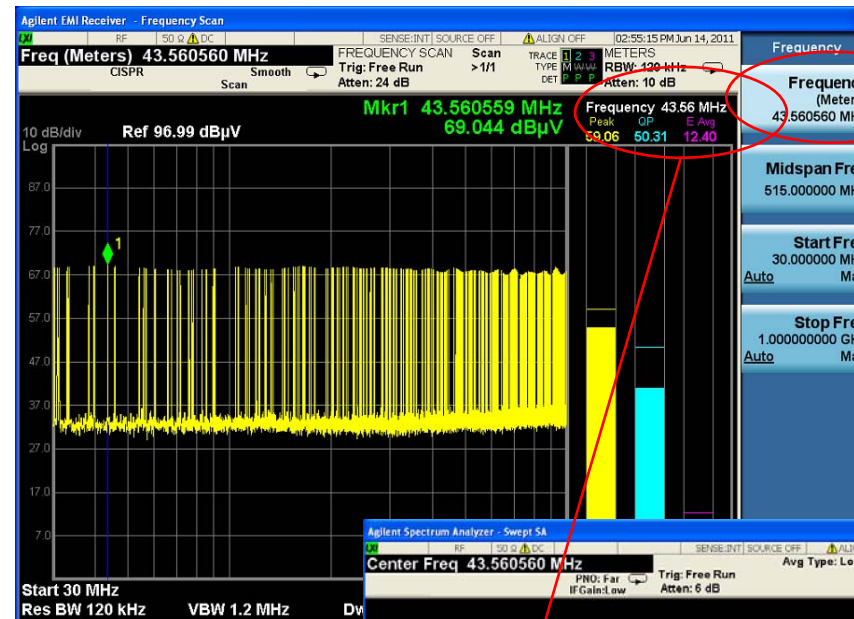
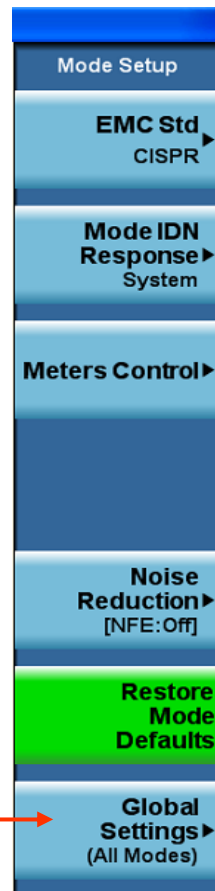
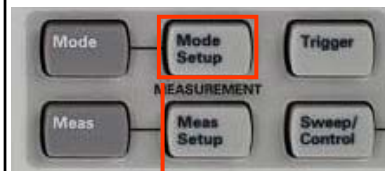


[Frequency], {Frequency}を押して周波数を変更することが可能。(スペクトラム上にある青いラインがメータの周波数を一致する)

レシーバモードの周波数とスペアナモードの中心周波数をリンクさせる

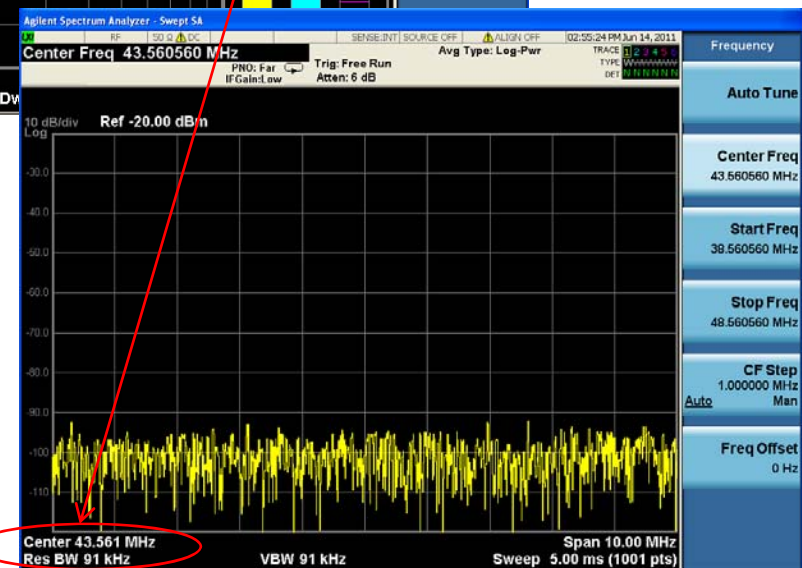
[Mode Set up], {Global Setting}, {Global Setting}をOnにする。

Xシリーズ共通



レシーバ
モード

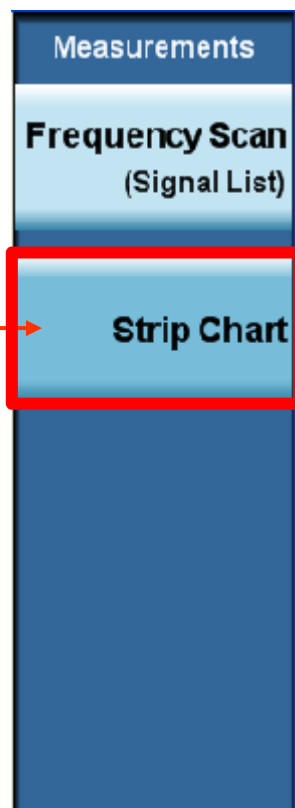
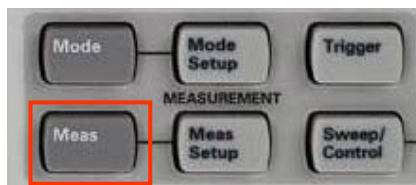
スペアナ
モード



Strip Chartを表示する

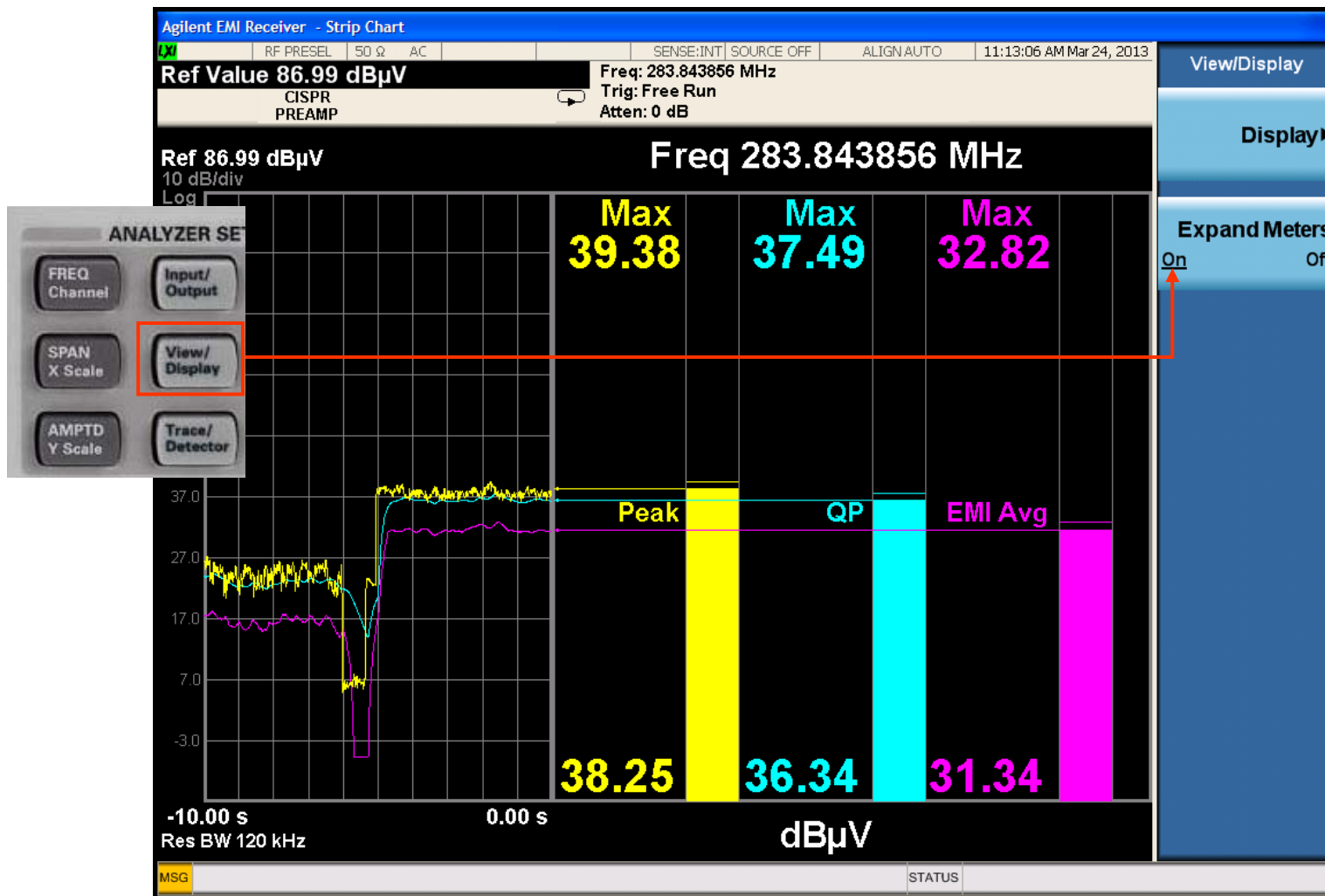
Xシリーズ共通

任意周波数の時間経過におけるPeak/QP/Average/Rms Ave(最大3つ)のレベルを表示する。



Xシリーズ共通

[View/Display], {Expand Meter}でONにする。



Expand Meterを
Onにします。

Xシリーズ共通

Agilent EMI Receiver - Strip Chart

RF PRESEL 50 Ω AC SENSE:INT SOURCE OFF ALIGN:AUTO 11:15:53 AM Mar 24, 2013

X Scale/Div 10.00 s Freq: 283.843856 MHz
CISPR PREAMP Trig: Free Run Atten: 0 dB

ANALYZER SE

- FREQ Channel
- Input/Output
- SPAN X Scale**
- View/Display
- AMPTD Y Scale
- Trace/Detector

Freq 283.843856 MHz

Max 40.20 **Max 37.82** **Max 33.41**

Peak 37.07 **QP 36.18** **EMI Avg 31.42**

-100.00 s **0.00 s**

Res BW 120 kHz **dB μ V**

MSG **STATUS**

X Scale
Ref Value 0.00 s
Scale/Div 10.00 s
Strip Chart Max Duration 500 s
Full Scale

フルスケール表示

N9038Aのみ

Agilent EMI Receiver - Monitor Spectrum

RF PRESEL 50 Ω AC SENSE:INT SOURCE OFF ALIGN AUTO 03:50:48 AM Nov 19, 2013

Center Freq 283.710000 MHz CISPR Free Run Atten: 10 dB

TRACE 1 2 3 TYPE WWWW SSS DET SSS

METERS RBW: 120 kHz Dwell Time: 10.0 ms

Ref 76.99 dB μ V

10 dB/div Log

Max Peak 52.45 QP 51.28 EMI Avg 48.65

Center 283.71 MHz Span 1 MHz 51.53 50.40 47.59

Res BW 10 kHz Meas Time 268.5 μ s dB μ V

SIG	TRC	FREQ	PEAK AMPTD	QP AMPTD	EAVG AMPTD	PEAK LL1 Δ	QP LL1 Δ	EAVG LL1 Δ

MSG STATUS

Frequency

Center Freq 283.710000 MHz

CF Step 100.000 kHz

Auto

CF \rightarrow Signal (Replace)

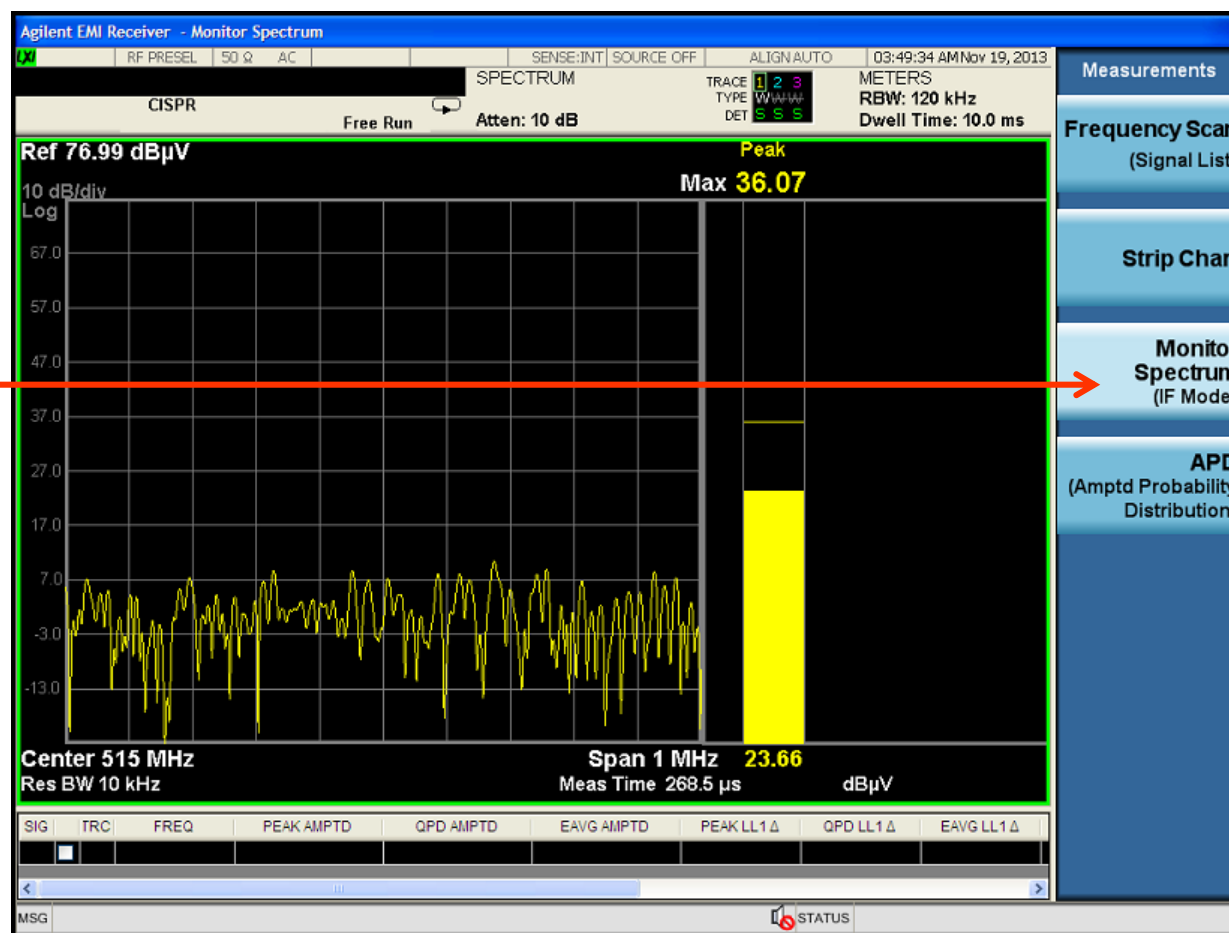
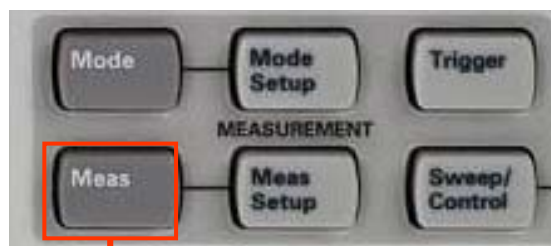
CF \rightarrow List (Append)

モニタースペクトラムを使用する

N9038Aのみ

モニタースペクトラムは、任意の周波数をRFスペクトラムと3つの異なる検波モードを表示することができます。周波数微調やトラブルシュートに使用します。

[Meas], {Monitor Spectrum(IF Mode)}

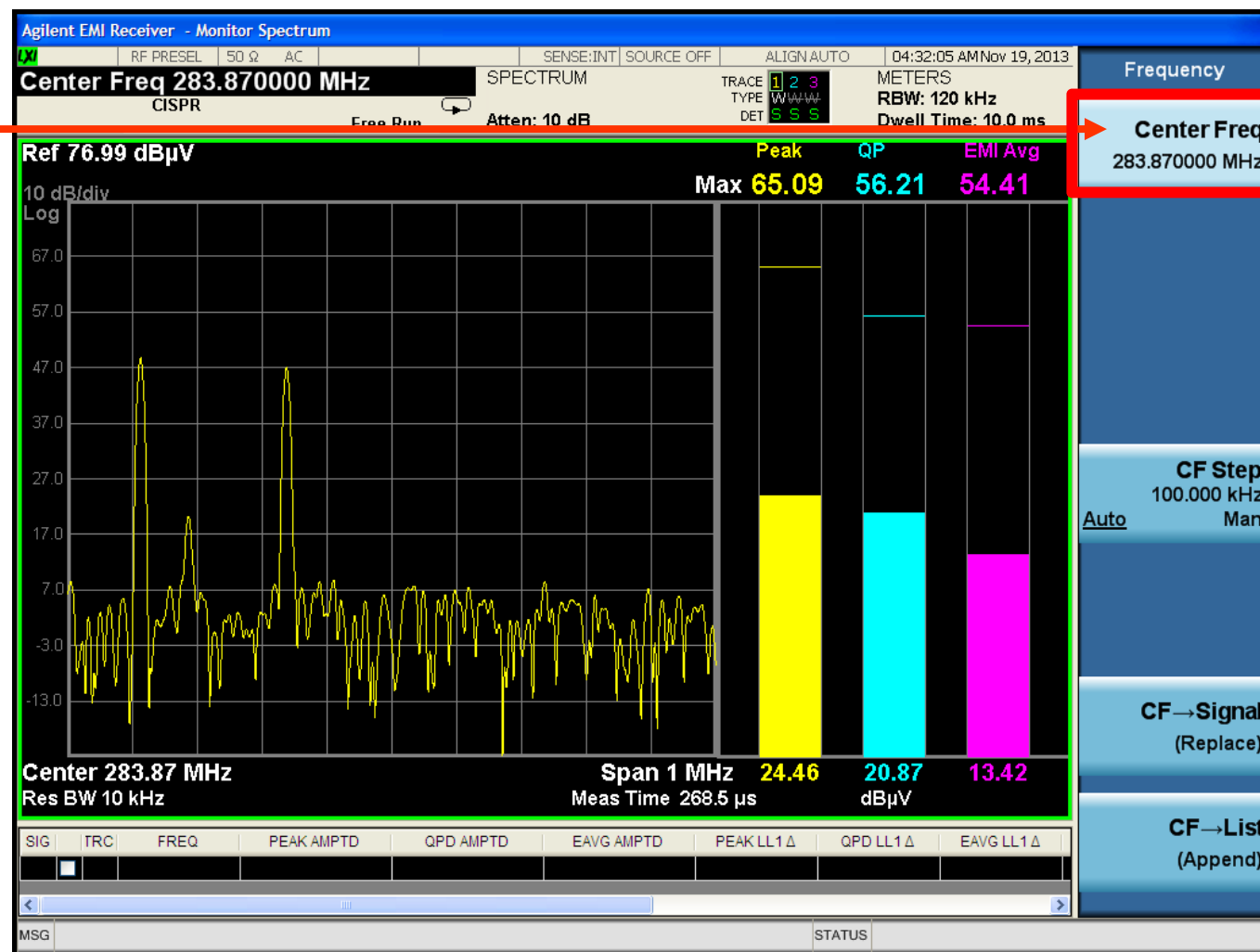


Xシリーズ共通

モニタースペクトラムを使用する 周波数の設定

N9038Aのみ

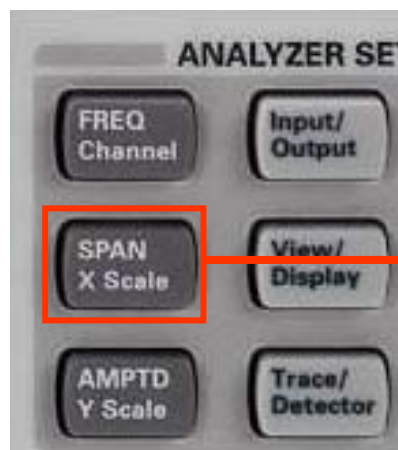
[FREQ], {Center Freq}, 所望の周波数に合わせる。



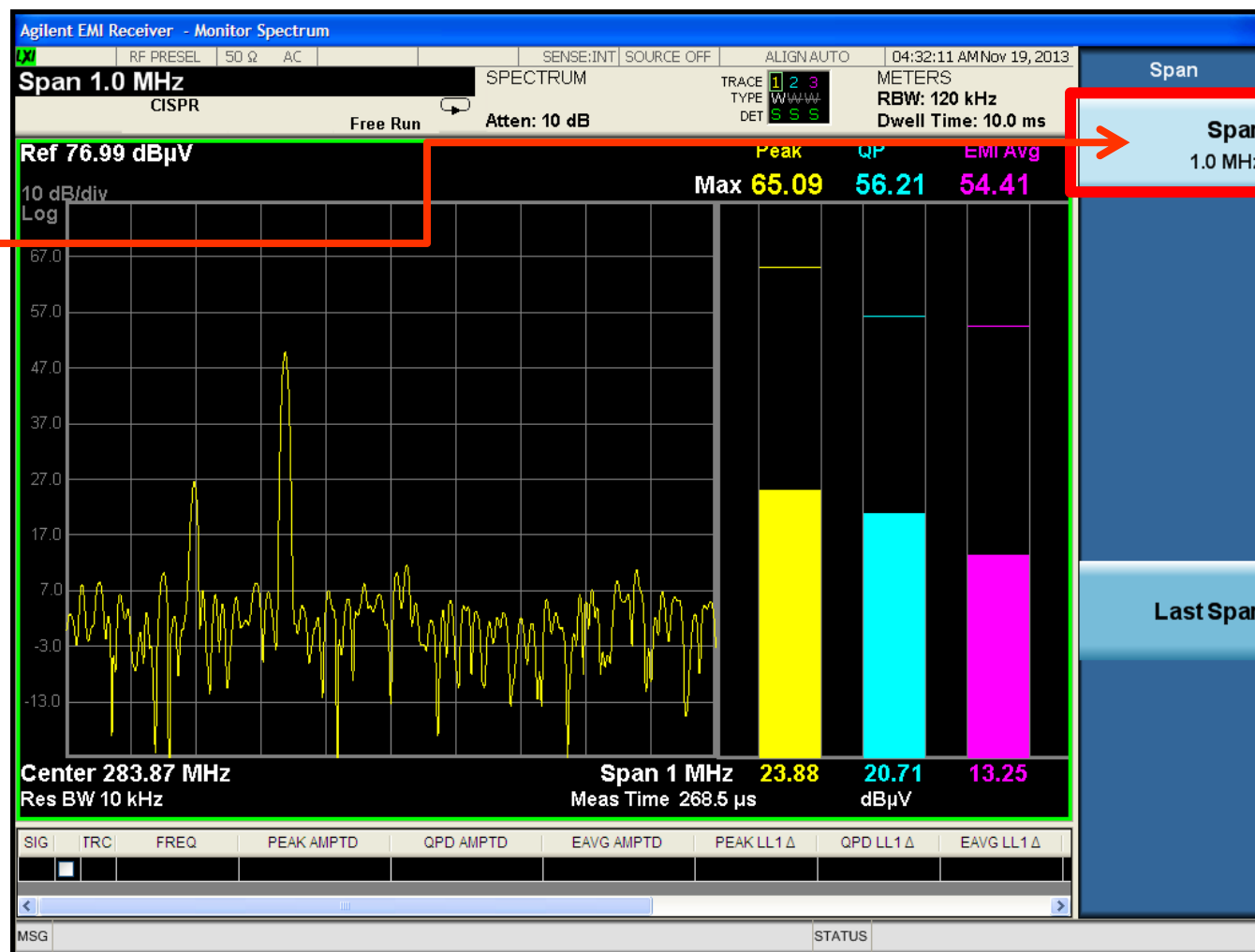
モニタースペクトラムを使用する スパンの調整

N9038Aのみ

[SPAN], {Span}, 所望のスパンに設定する。



RBWの設定により
最大スパンが決ま
ります。事項参照



モニタースペクトラムを使用する

スパンの調整・・・スパンはRBWに依存します。

N9038Aのみ

Span	RBW
10MHz	10kHz~100kHz
5MHz	10kHz~100kHz
2MHz	1kHz~10kHz
1MHz	1kHz~10kHz
500kHz	300Hz~3kHz
200kHz	100Hz~1kHz
100kHz	100Hz~1KHz
50kHz	30Hz~300Hz
20kHz	10Hz~100Hz
10kHz	10Hz~100Hz
5kHz	10Hz~30Hz
2kHz	10Hz~30Hz
1kHz	10Hz~30Hz

N9038Aのみ

Agilent EMI Receiver - Monitor Spectrum

RF PRESEL 50 Ω AC SENSE:INT SOURCE OFF ALIGN AUTO 04:32:15 AM Nov 19, 2013

Ref Value 76.99 dBμV CISPR Free Run Atten: 10 dB

TRACE 1 2 3 METERS RBW: 120 kHz Dwell Time: 10.0 ms

TYPE W W W W DET S S S

Ref 76.99 dBμV

10 dB/div Log

Max Peak 65.09 QP 56.21 EMI Avg 54.41

Center 283.87 MHz Span 1 MHz 24.51 20.76 13.26

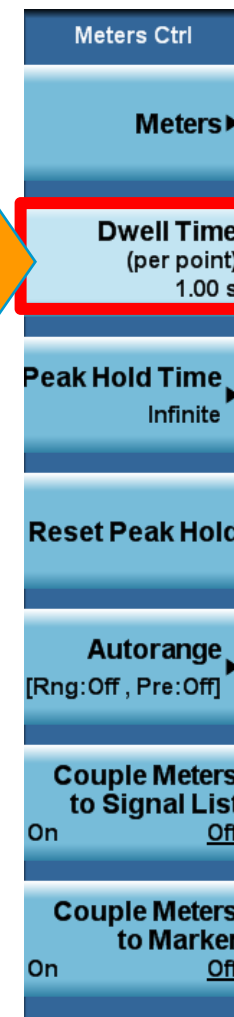
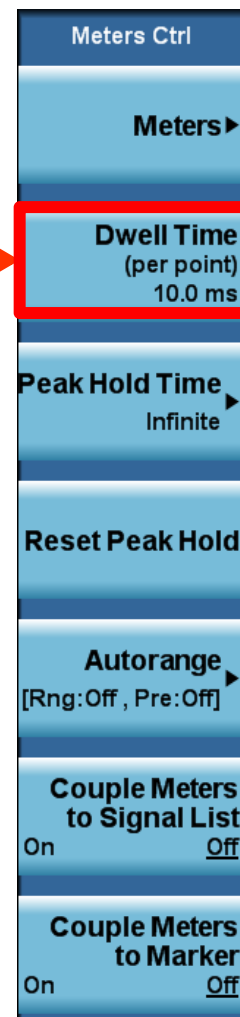
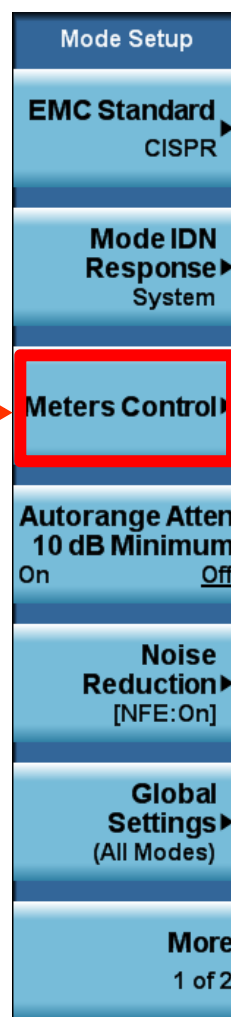
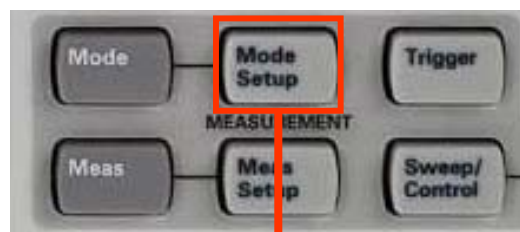
Res BW 10 kHz Meas Time 268.5 μs dBμV

SIG TRC FREQ PEAK AMPTD QPD AMPTD EAVG AMPTD PEAK LL1 Δ QPD LL1 Δ EAVG LL1 Δ

MSG STATUS

モニタースペクトラムを使用する Dwell Time(Meas time)の変更

N9038Aのみ

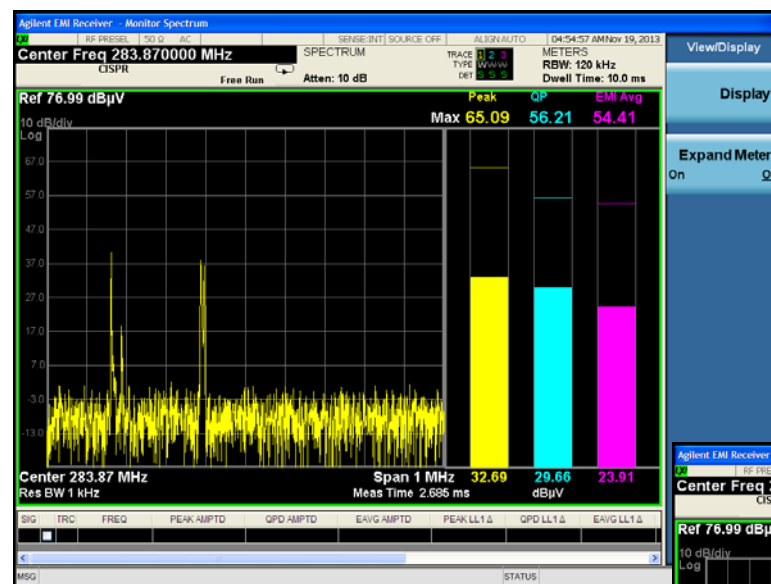
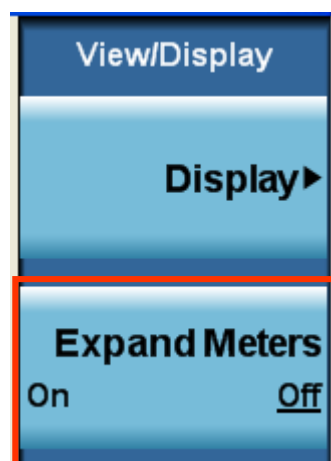


所望の
Dwell time
へ変更

モニタースペクトラムを使用する メータを拡大する

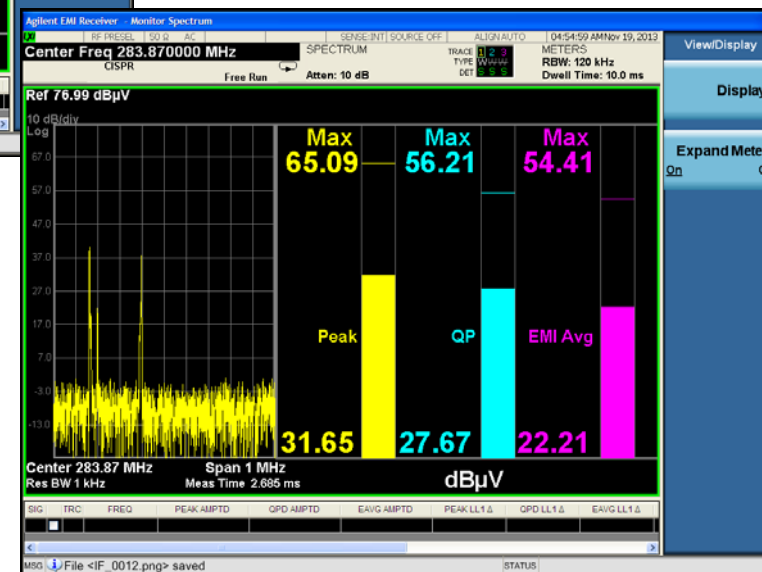
N9038Aのみ

[View/Display], {Expand Meters}, {On/Off}で切り替える。



Off状態

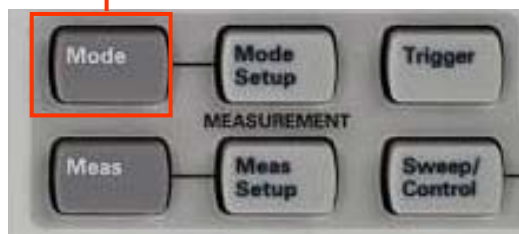
On状態



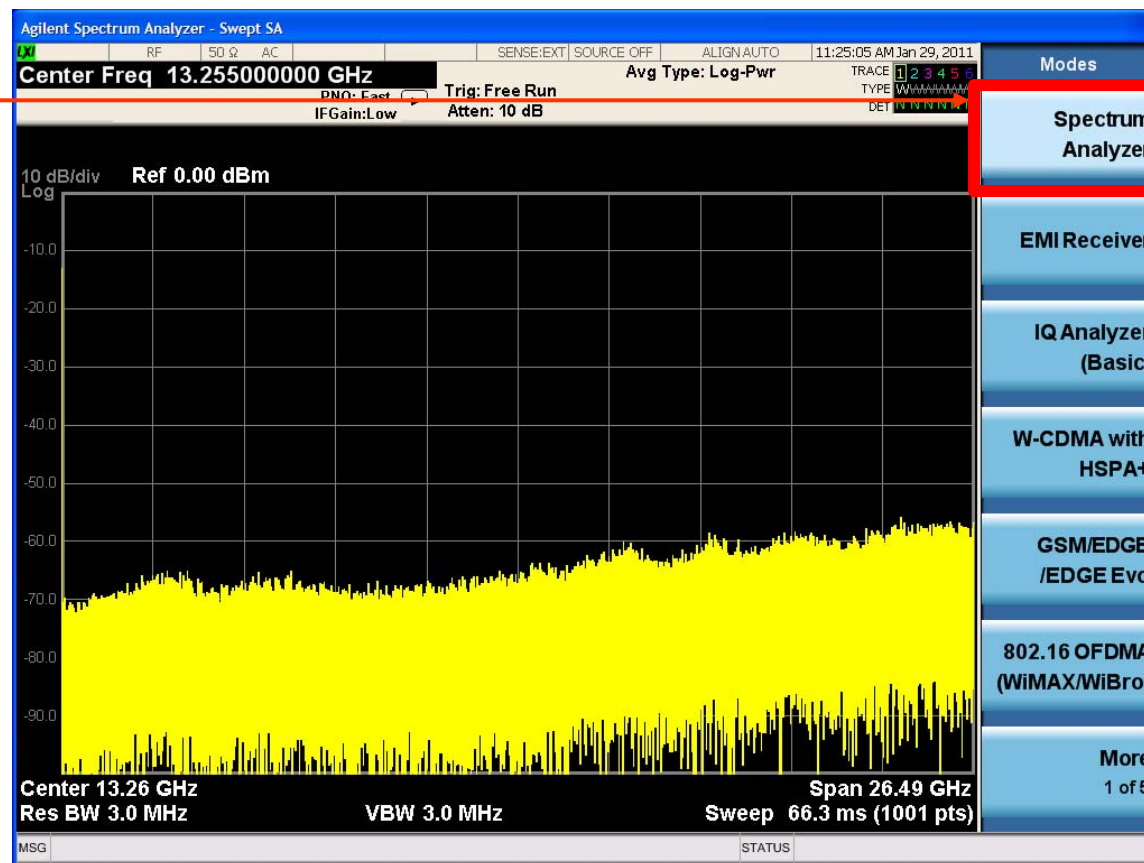
EDP(拡張表示機能,オプションEDP必須) -スペクトラム・アナライザ モードで動作-

N9038A標準機能ス
ペアナはオプション

Xシリーズアナライザは、オプションの測定アプリケーションで様々な測定に対応することができます。各測定アプリケーションは、[Mode]キーより起動することができます。



[Mode], {Spectrum Analyzer}

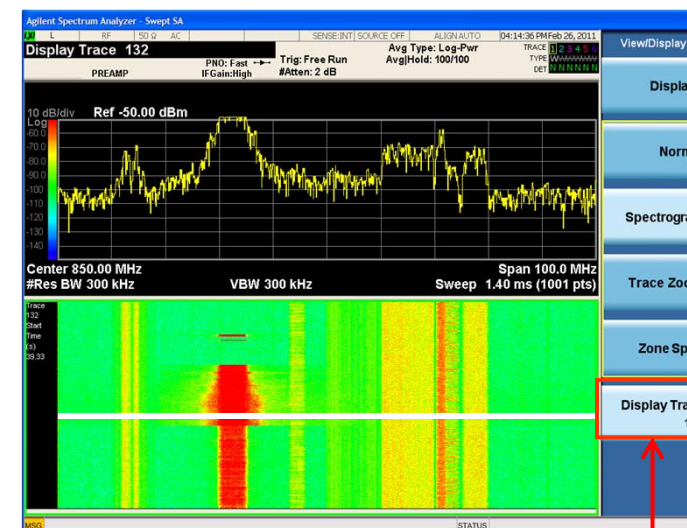
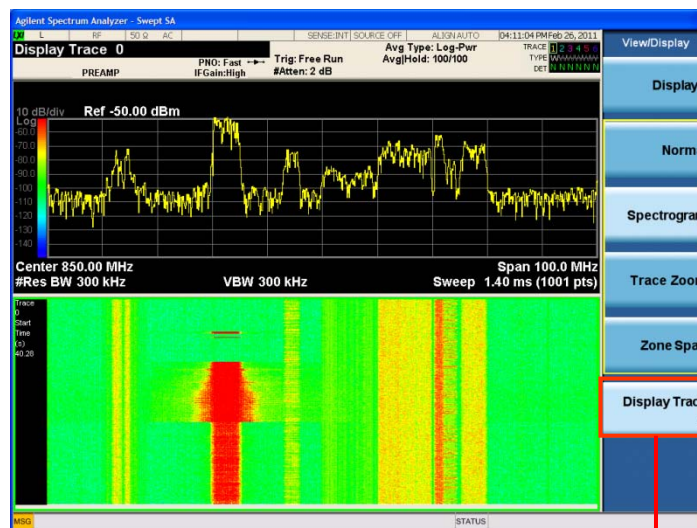
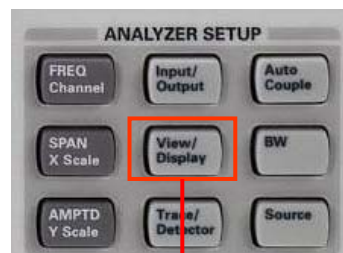


Xシリーズ共通

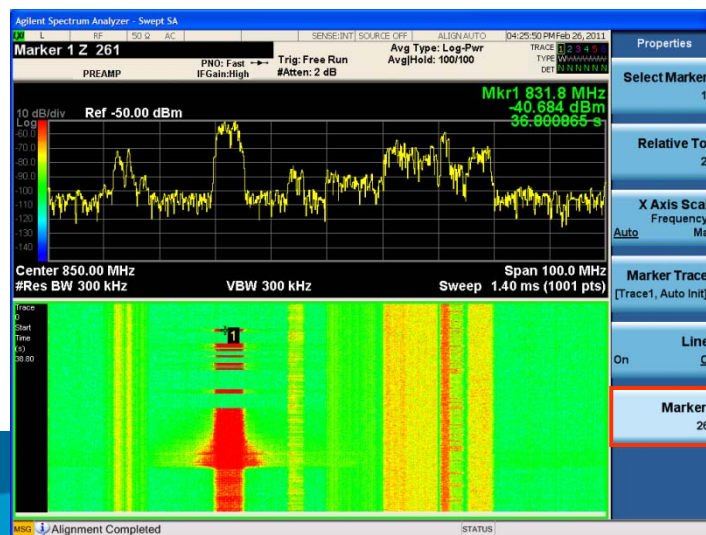
2011年1月現在、22の測定アプリケーションがリリースされております。

スペクトログラム (要オプションEDP/FW.07.xx以降)

全モデル共通



Singleボタンで測定を停止した場合、
Display Traceで過去のスペクトラムを表示可能。

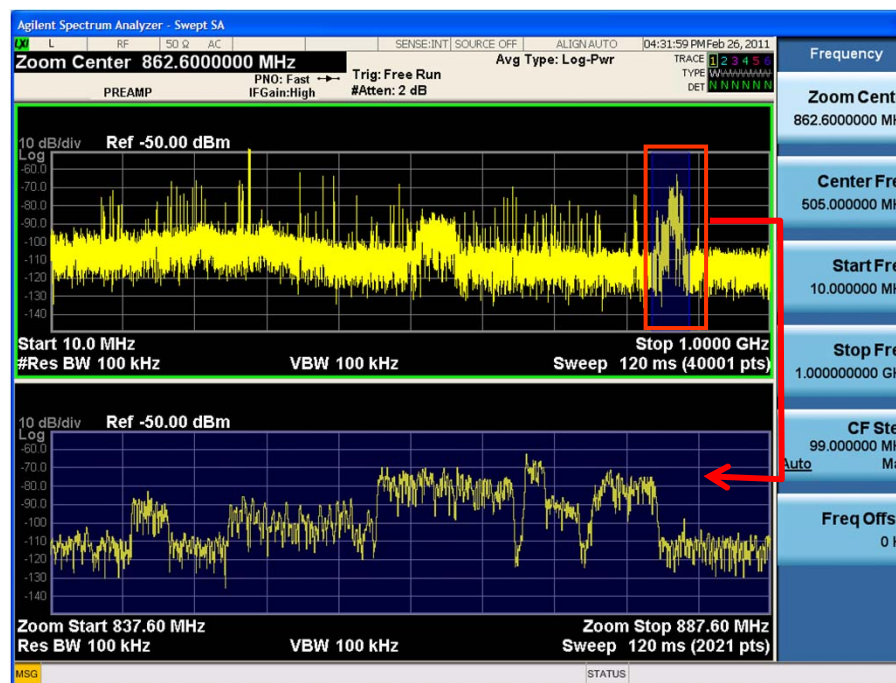
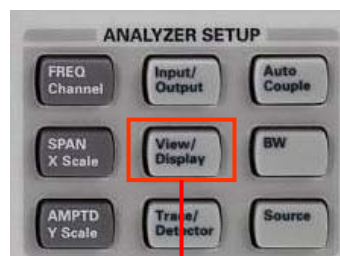


Z軸マーカーにより、任意の周波数
および時刻の振幅値を読取可能
(Marker→Properties)

Trace Zoom (要オプションEDP/FW.07.xx以降)

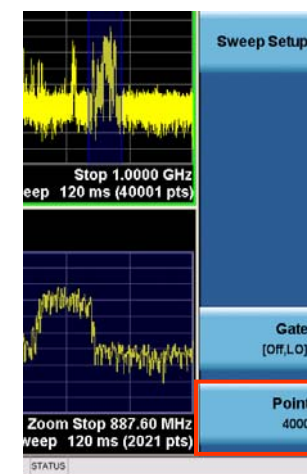
全モデル共通

広範囲の掃引から任意の周波数範囲を拡大表示させることができる機能。
ノイズ・スプリアスサーチに有効です。



上下の画面の切替ボタン。周波数・スパンの各メニューは
緑色で囲まれた画面側の設定が行われます。

青色で囲まれた部分を
下画面に拡大表示。
一度の掃引で**両方**
画面が更新されます。

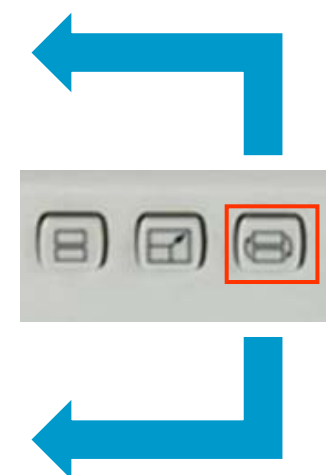
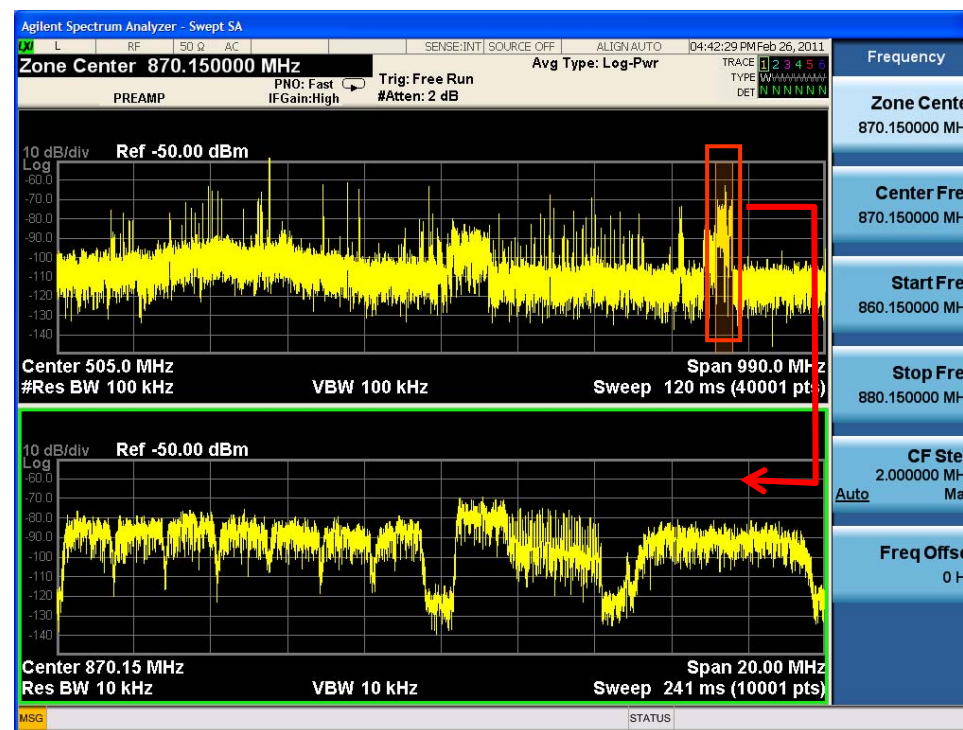
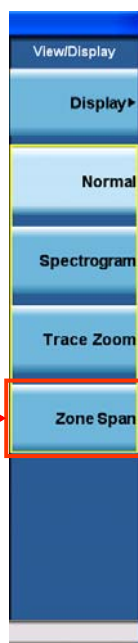
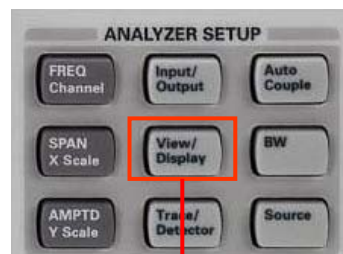


掃引ポイント数が多いほど拡大画面の分解能が高くなりますので、Xシリーズの最大値である40001ポイントで
ご使用されることをお勧めいたします。

Zone Span (要オプションEDP/FW.07.xx以降)

全モデル共通

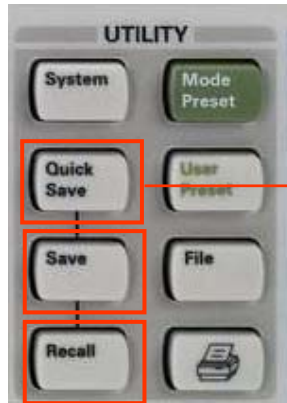
Trace Zoomに似ていますが、こちらは拡大表示させた箇所の掃引条件（RBW/VBWなど）を変更して測定することができます。



上下の画面の切替ボタン。
緑色で囲まれた画面の
掃引が行われます。

2画面目ではRBWを1/10に絞って測定

設定の保存/リコール



Quickセーブ機能を使うと、最後にセーブした条件と同じ条件で、ファイル名の末尾に数値をつけて保存します。

同じ条件で何度も画像をセーブするときなどに非常に便利です。

Save/Recall可能なデータ

- ・ ステートデータ（その時点のアナライザの全設定データ）
- ・ トレースデータ（アナライザ上で読み出し可能なトレース）
- ・ アンテナ係数データ、振幅補正データ、リミットデータ
- ・ Power Suiteの測定データ（結果の値など）

Save/Recallロケーション

- ・ 内蔵HDD
- ・ USBメモリ
- ・ レジスタ

Saveのみ可能なデータ

- ・ トレースデータ（csv形式）
- ・ スクリーンイメージ（png形式）

Xシリーズ共通

Windowsのアカウント変更

Xシリーズ共通

N9038AおよびXシリーズのDefaultは「Power User」権限でLoginされていますので、ApplicationのInstallはできません。ApplicationのInstallを可能にするには、Default Userである“Instrument”をAdministratorにする必要があります。すでにAdministratorにされている場合は以下のアクションは必要ありません。

User名“Instrument”をAdminにするには、まずAdminのパスワードでWindowsに入る必要があります。

Windows XPのStart Menuより、Log Offして、以下のUserで再Loginしてください。

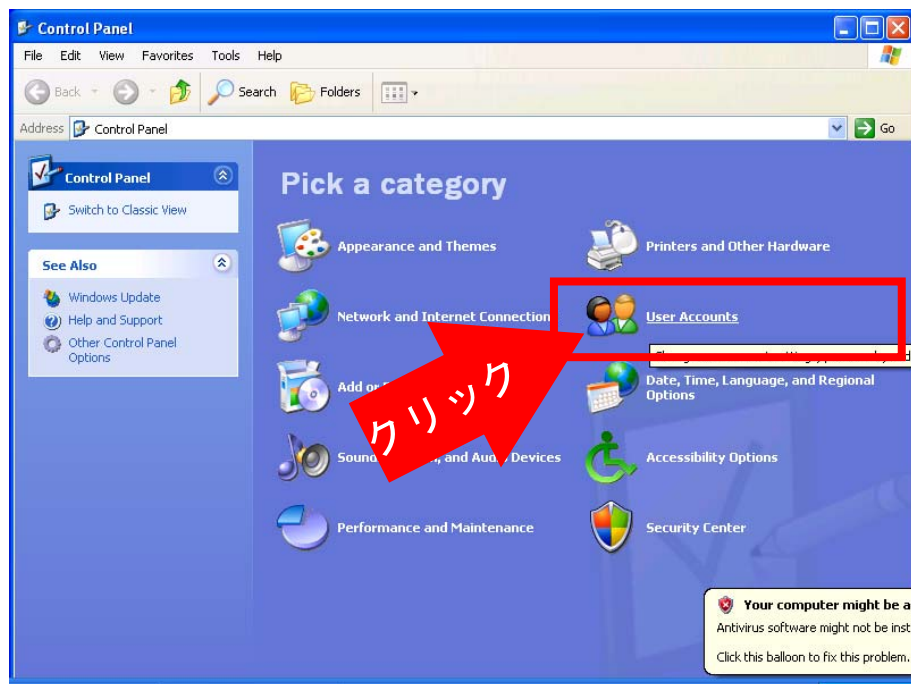
Login name : Administrator

Password: agilent4u

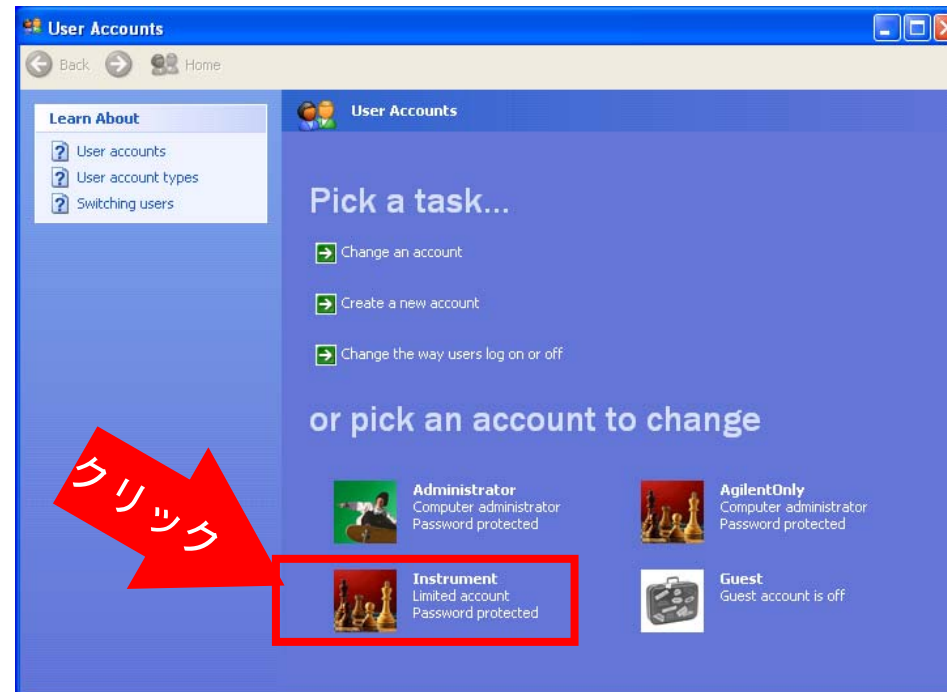
Xシリーズ共通

User権限を変更(1)

Xシリーズ共通



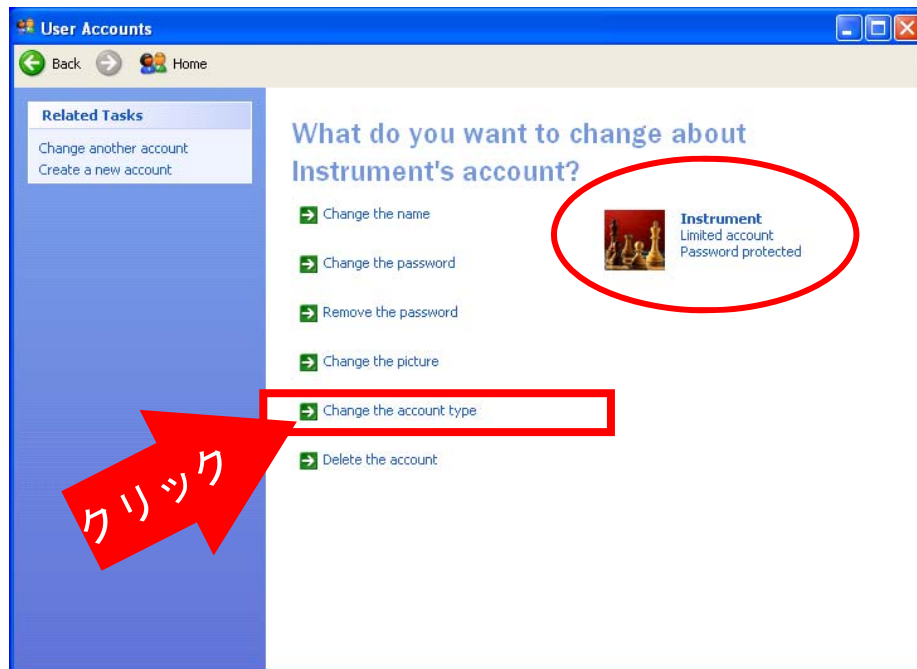
コントロールパネルよりUser Accountsをクリック



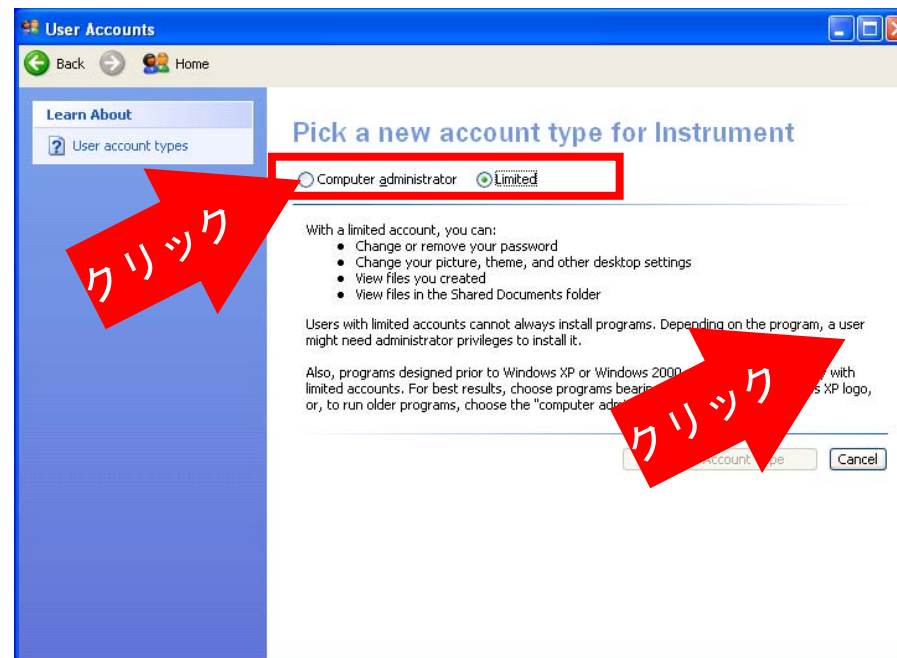
Defaultユーザーである、“Instrument”をクリック

User権限を変更(2)

Xシリーズ共通



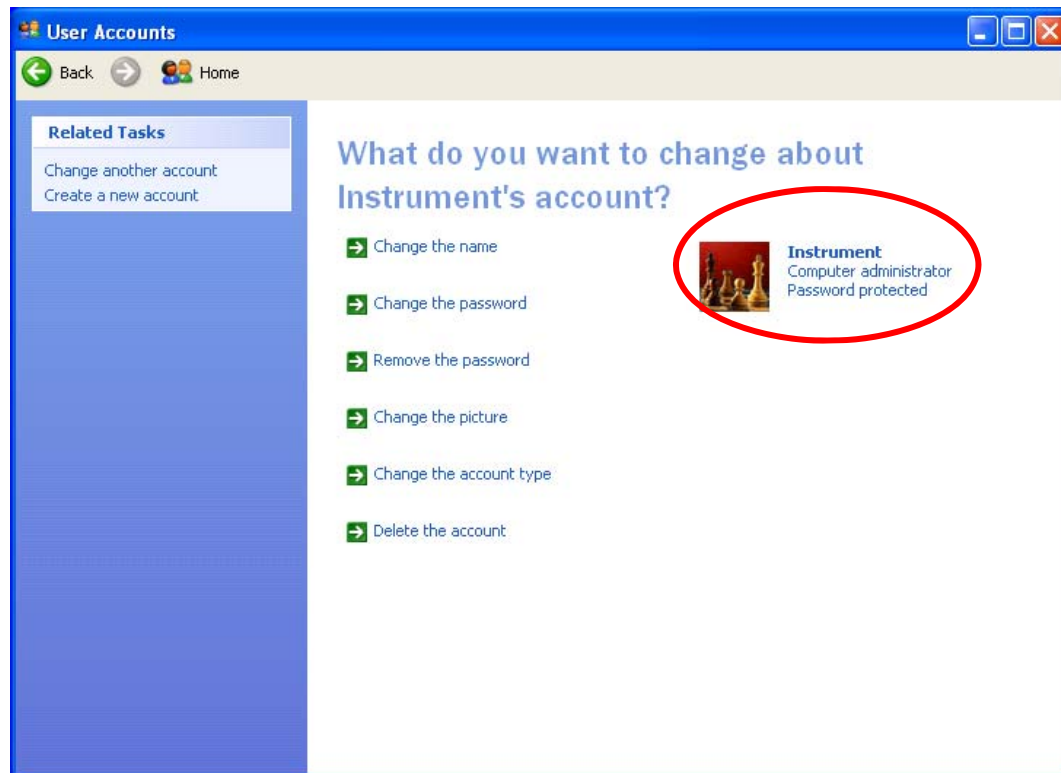
Change the account typeをクリック



『Computer Administrator』に変更し、最後に『Change Account Type』をクリック

User権限を変更(3)

Xシリーズ共通



Administratorに変更されました。
これで、今後の起動時は全て
Administratorになります。
MXAをLogoffしてください。

再度LOGINするときは

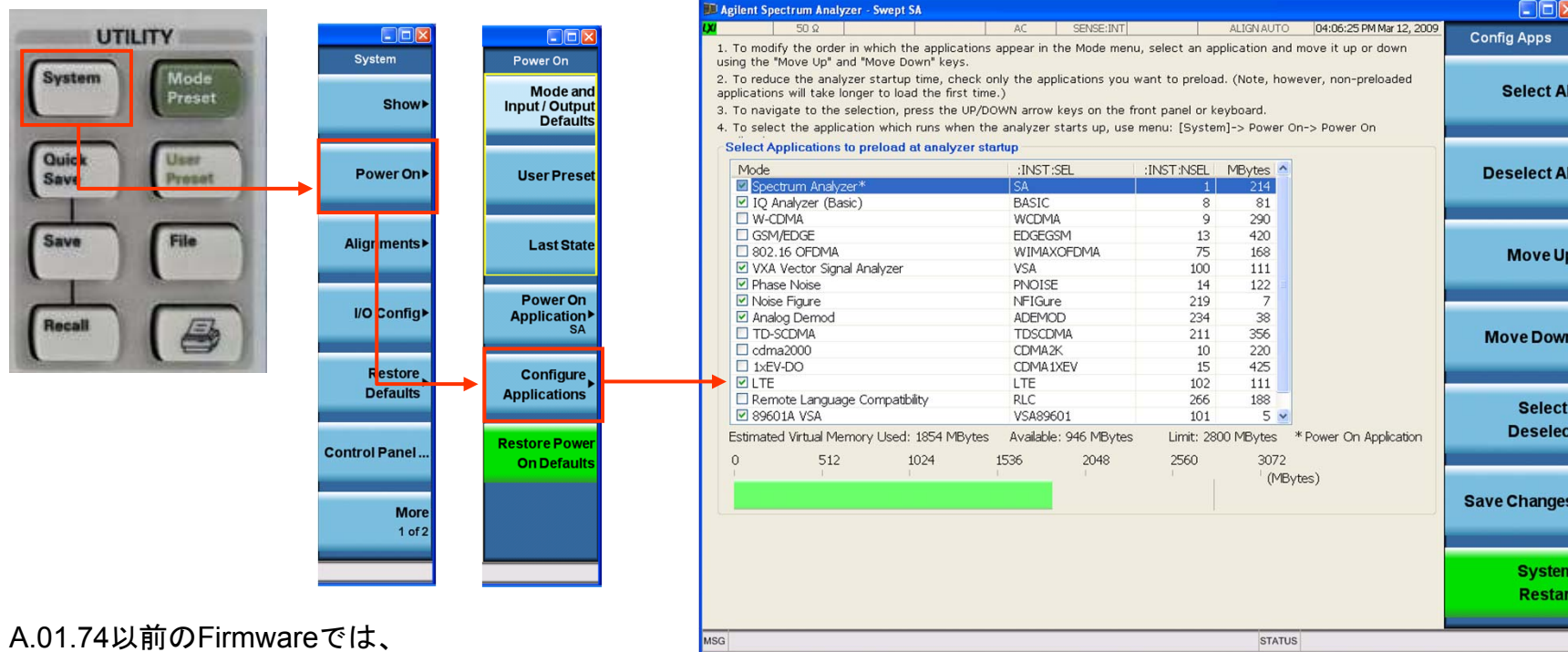
User名 : Instrument
Pass: measure4u

で入ってください。

コンフィグレーション・ウィザード

Xシリーズ共通

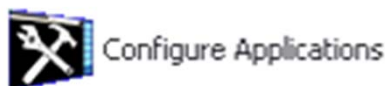
注意：このメニュー構造は、ファームウェアA.02.xx以降です。



A.01.74以前のFirmwareでは、

C:\Program
Files\Agilent\SignalAnalysis\Infrastructure

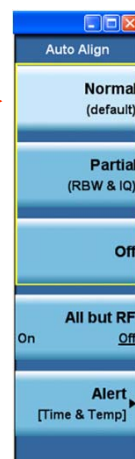
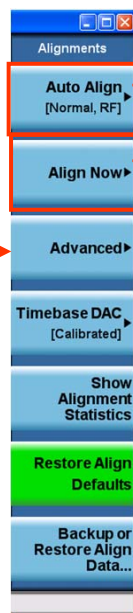
のディレクトリにある、以下のアプリケーション
を起動いただくと、同等の設定が可能です。



コンフィグレーション・ウィザードを使用することで、起動時にメモリに常駐させるアプリケーションを選択することができます。起動を高速にしたり、ウィンドウズの空きメモリに余裕をもたせる必要がある場合には、頻繁に使用しないアプリケーションや、起動時に時間がかかってもよいものは、チェックをはずすことで起動時に読み込まれないように設定できます。

オートアラインメント（自動調整）機能

Xシリーズ共通



オートアラインメントの設定

- 自動的に全てのアラインメントを行う（デフォルト）
- IFフィルタおよびFFT部のアラインメントに限定
- アラインメントの自動実行を禁止する
- RFの調整を行うかどうか選択する

アラートメニュー



- 温度変化が ± 3 度または2 4時間（デフォルト）
- 24時間
- 7日間（1週間）
- アラートなし（一切警告がならない）

Xシリーズでは常にスペックシートに書かれた性能を引き出されるように、内蔵の校正信号を用いた調整を自動的に実施します。自動調整は条件によって自動的に実施され、約6秒～10秒程度かかります。その間は測定が中断されますので、設定により自動調整をオフにすることもできます。



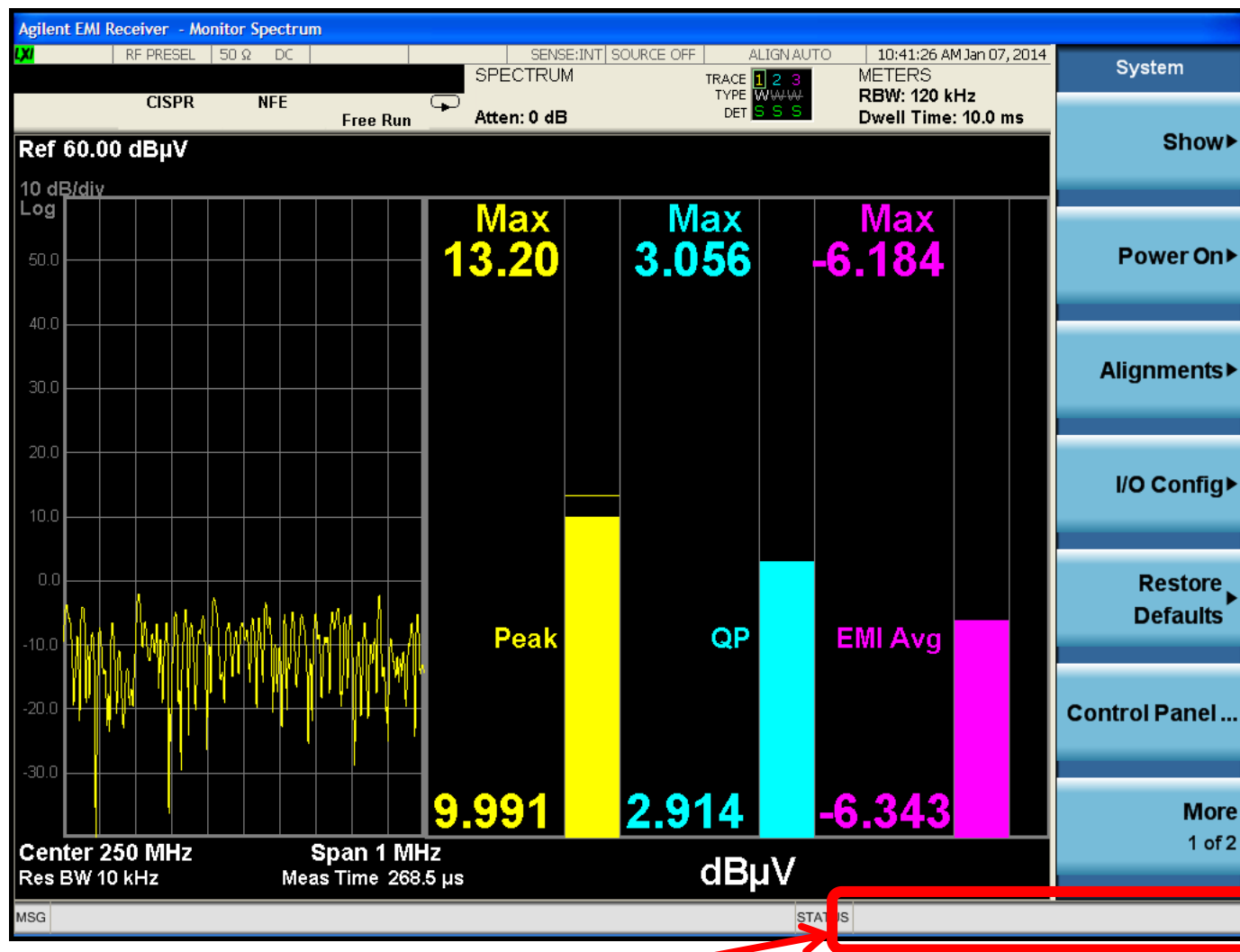
- いますぐ全ての調整を行う
- いますぐRFを除いた全ての調整を行う
- いますぐRFのみの調整を行う

注意

製品起動後30分間は内部の温度変化が激しく頻繁にオートアラインが走りますが、故障ではなく正常動作ですのでご了承ください。



オートアラインメント（自動調整）機能

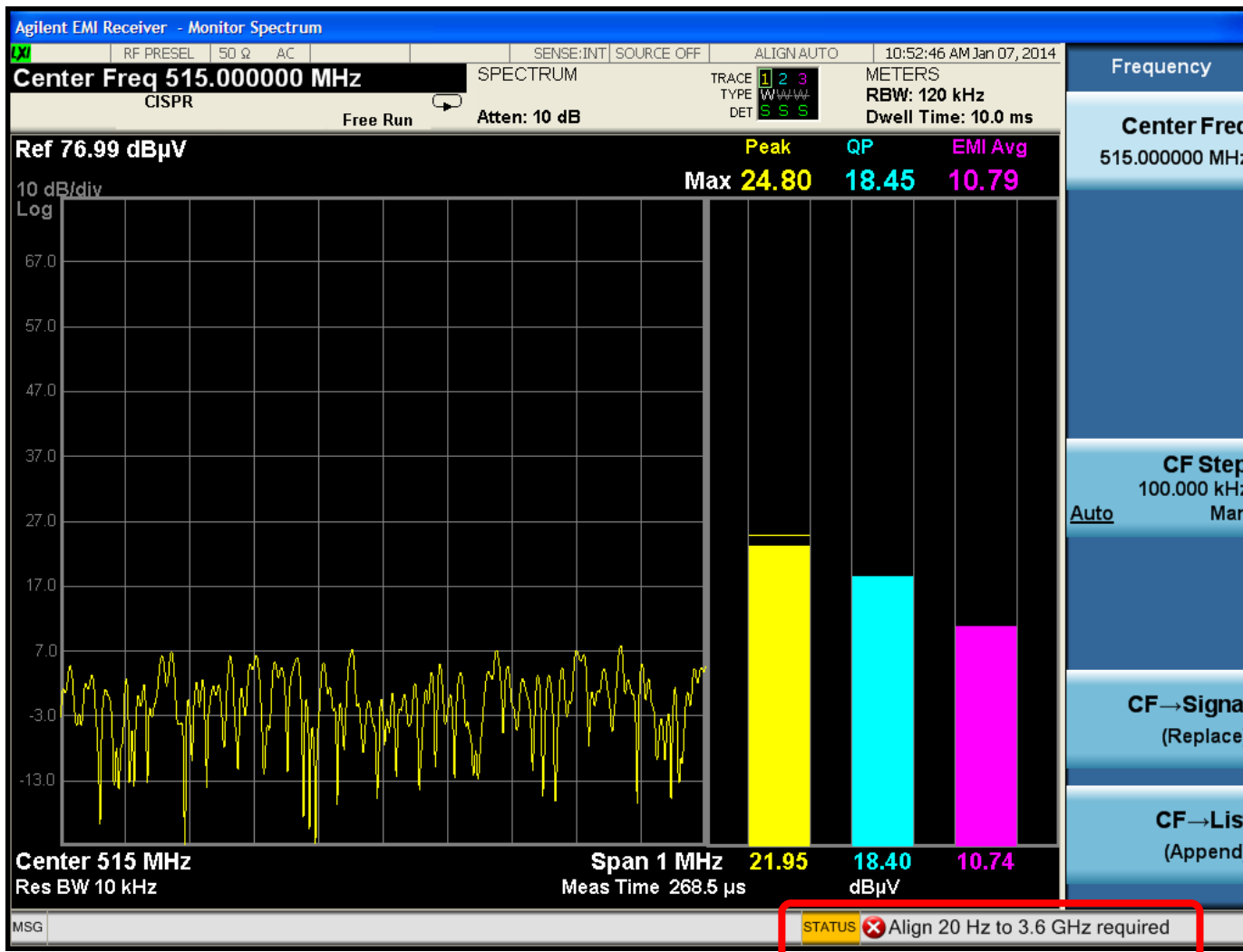


ここにAlignment Requiredのメッセージが表示されていない事(dc coupleを除く)を確認してからご使用下さい。もし表示されている場合は次項を参照。



Agilent Technologies

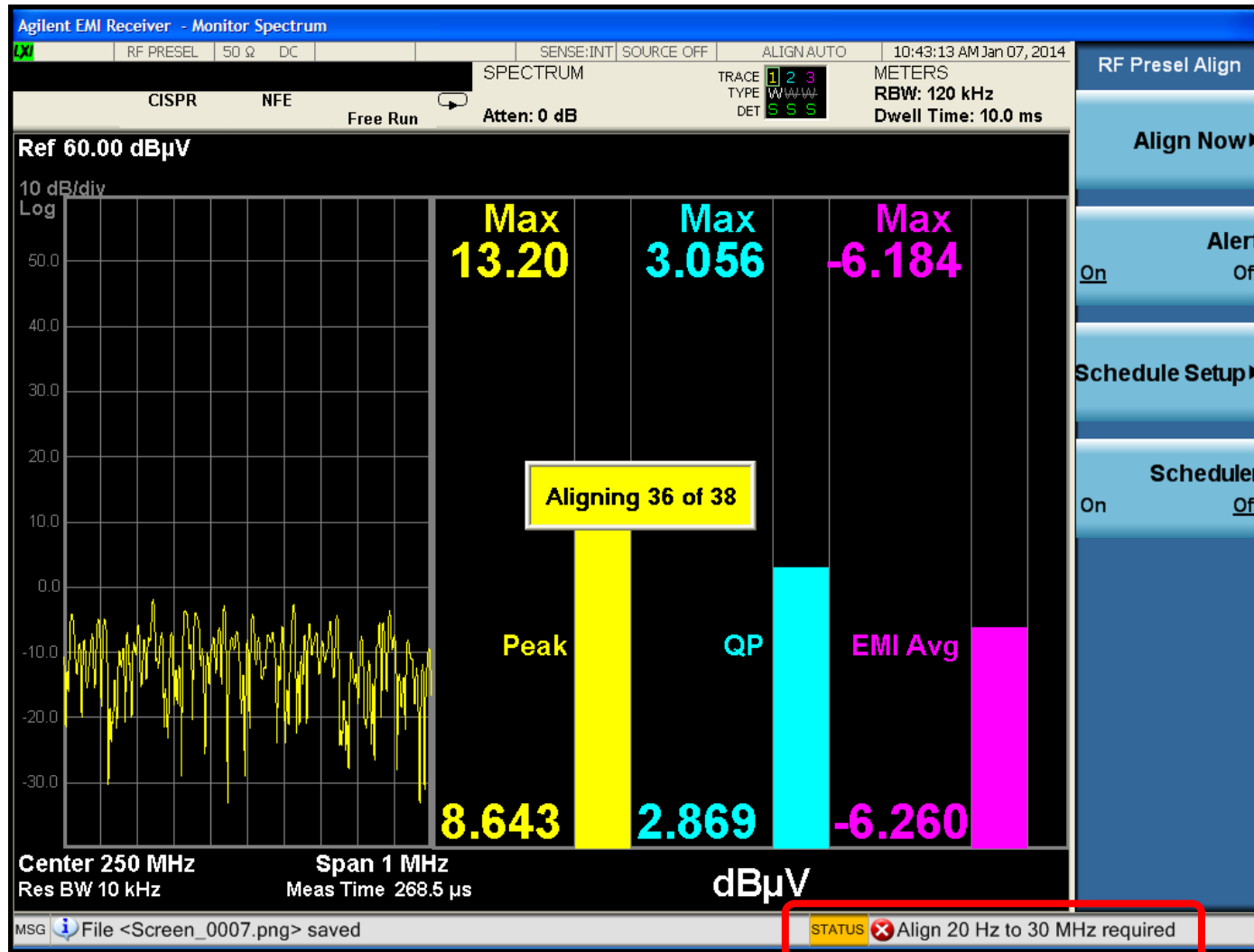
“Align 20Hz to 3.6GHz required”が表示された場合



[]はフロントパネルキー、{ }はディスプレイ横のキーを意味します。

[System], {Alignments}, {Align Now}, {All}を実行し、メッセージが消えるまで繰り返してください。

“Align 20Hz to 30MHz required”が表示された場合



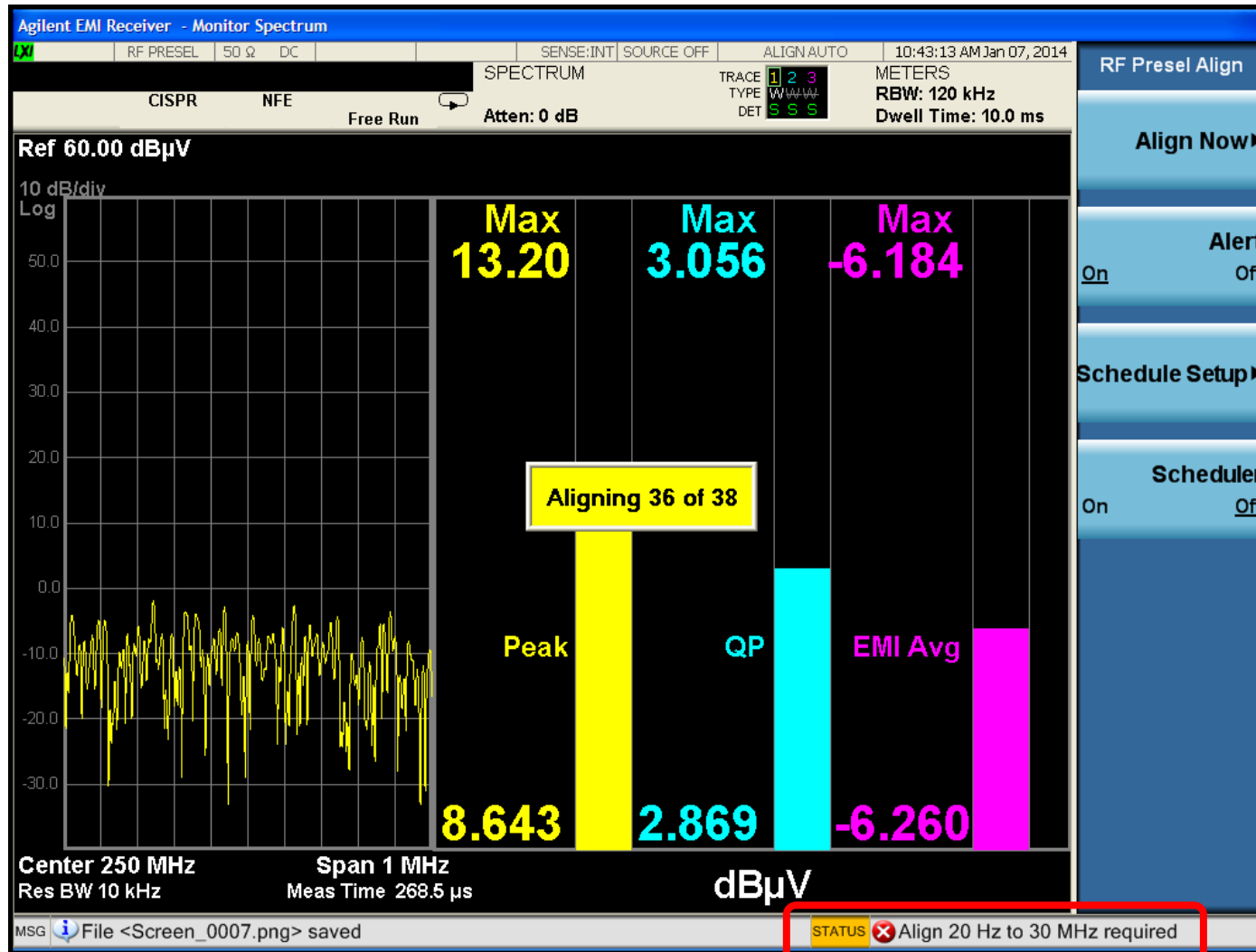
[]はフロント
パネルキー、
{ }はディスプ
レイ横のキー
を意味します。

[System], {Alignments}, {More 1 of 2}, {RF Preselector}, {Align Now}, {20Hz to 30MHz}を実行し、メッセージが消えるまで繰り返してください。



Agilent Technologies

“Align 30MHz to 3.6GHz required”が表示された場合



[]はフロント
パネルキー、
{ }はディスプ
レイ横のキー
を意味します。

[System], {Alignments}, {More 1 of 2}, {RF Preselector}, {Align Now}, {30MHz to 3.6GHz}を実行し、メッセージが消えるまで繰り返してください。



Agilent Technologies

さらなるお問い合わせについては下記窓口にご連絡ください。

計測お客様窓口

受付時間 9:00-18:00 (土・日・祭日を除く)

FAX、E-mail、Webは24時間受け付けております。

TEL ■ ■ 0120-421-345
 (042-656-7832)

FAX ■ ■ 0120-421-678
 (042-656-7840)

E-Mail contact_japan@agilent.com

電子計測ホームページ
www.agilent.co.jp/find/tm

付録
モードメニューの変更方法

PXA

MXA

EXA

CXA

PrEcoMplianCe!

Your measurements wicked fast!



Agilent Technologies

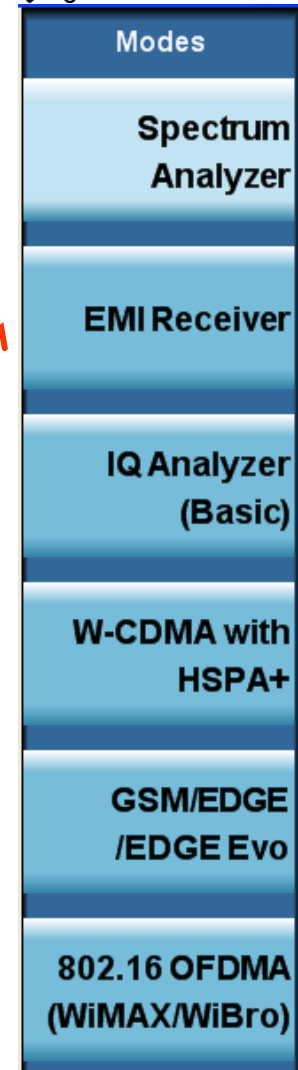
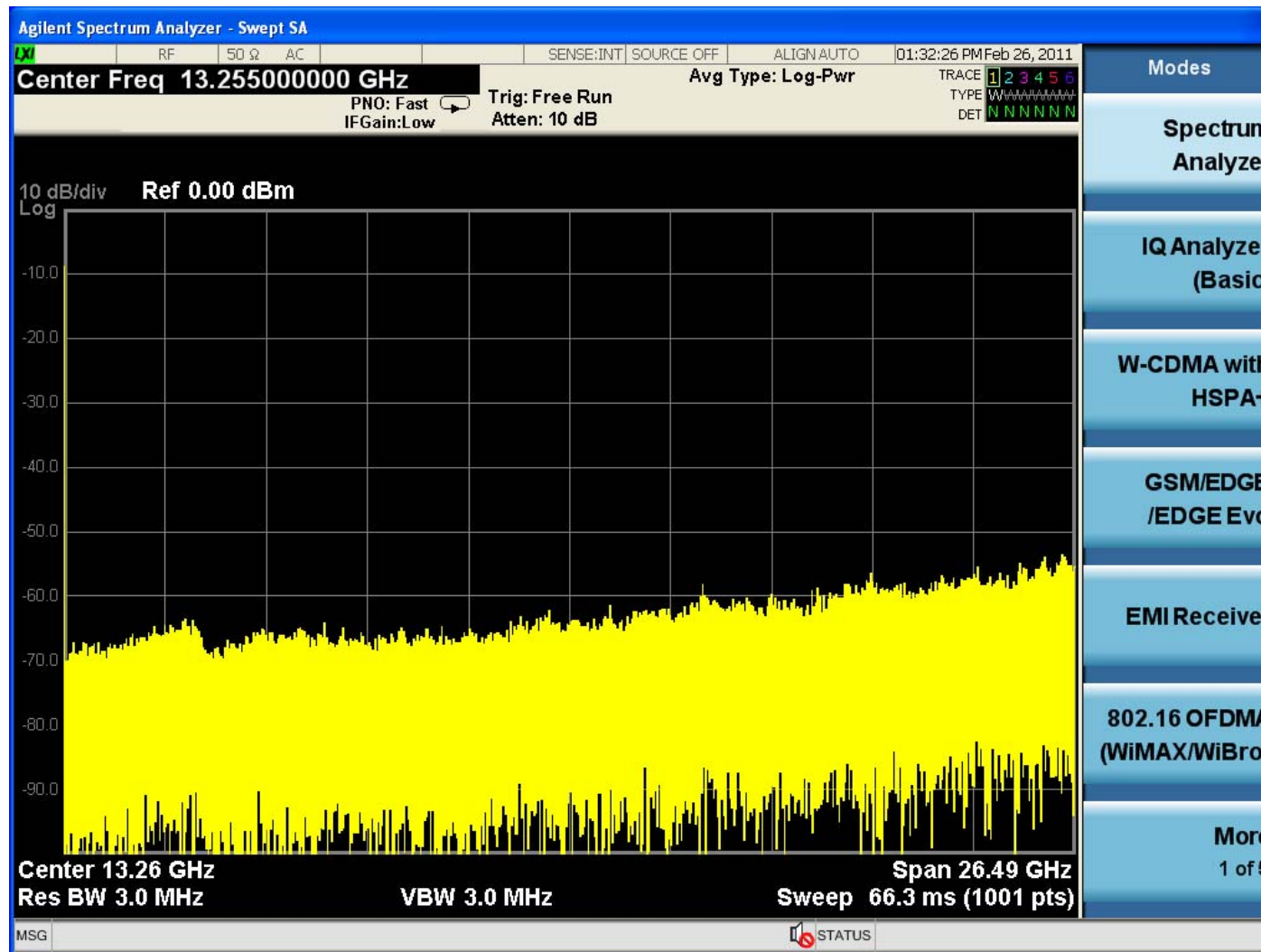


Agilent Technologies

Modeメニューの表示順序を変更する

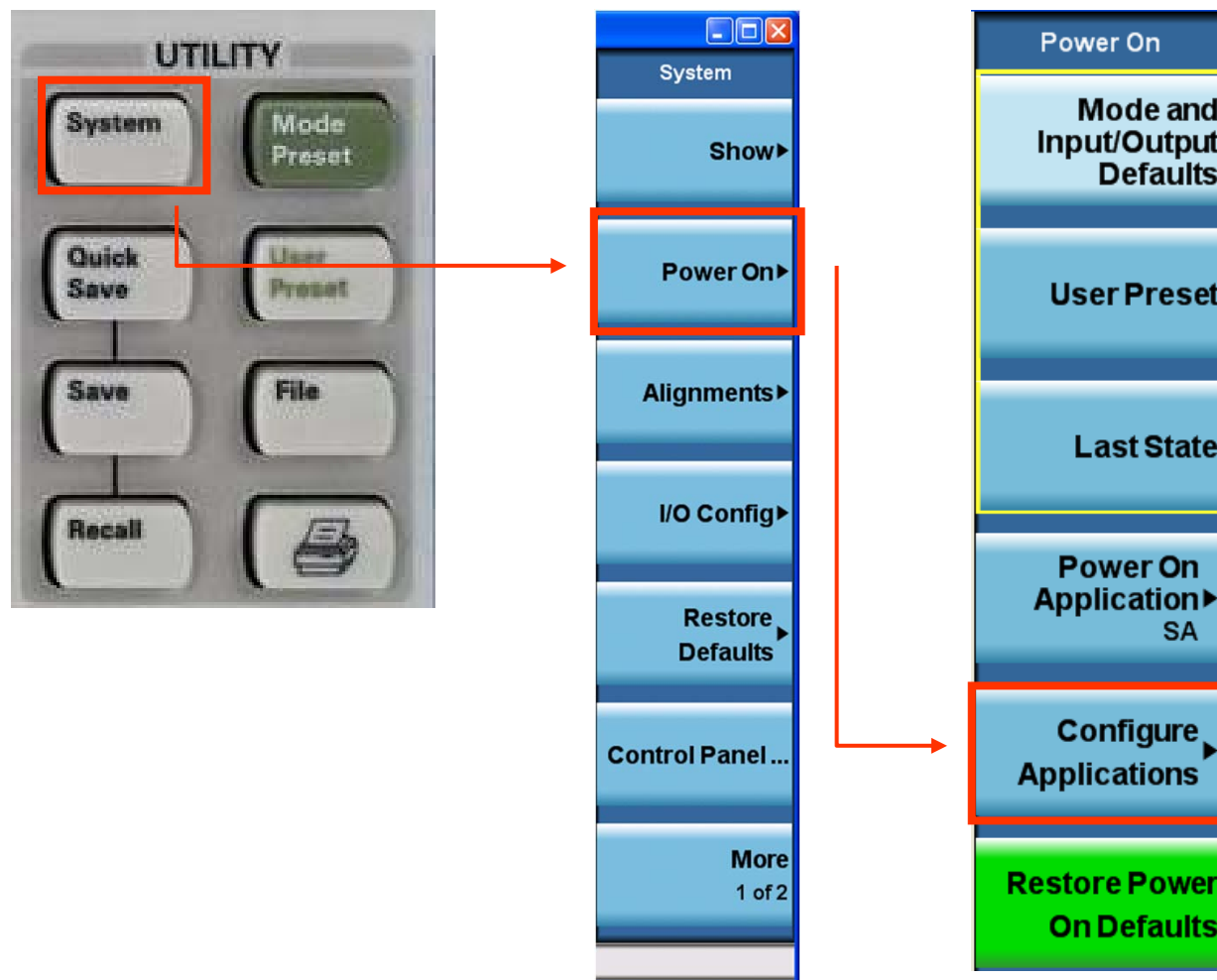
Xシリーズ共通

EMI ReceiverメニューをSpectrum Analyzerの下に変更する方法を説明します。



Modeメニューの表示順序を変更する

[System]を押し、{Power On}, {Configure Applications}を押し。



Modeメニューの表示順序を変更する

Configurationのメニューが立ち上りますので、マウスを使い、EMI Receiverをクリックしてアクティブにしてください。{Move Up}を押し、{Spectrum Analyzer}の下まで移動して下さい。

Agilent Spectrum Analyzer - Swept SA

RF 50 Ω AC SENSE:INT SOURCE OFF ALIGN AUTO 01:33:18 PM Feb 26, 2011

PNO: Fast Trig: Free Run Avg Type: Log-Pwr

IFGain:Low Atten: 10 dB

TRACE 1 2 3 4 5 6

TYPE W W W W W W W W

DET N N N N N N

1. To reduce the analyzer startup time check only the applications you want to preload. Selected (checked) applications preload at startup. Unchecked applications take longer to load the first time they are run after startup.
2. There are more applications available for the X-Series than can fit into memory at any one time. This utility will not let you preload more applications than will fit into memory at once. The colored bar indicates the total memory required when all checked applications are loaded (either preloaded or selected during runtime).
3. To navigate to an application, press the UP/DOWN arrow keys on the front panel or keyboard. To select or deselect an application, press Select/Deselect.
4. To modify the order in which the applications appear in the Mode menu, select an application and move it up or down using the "Move Up" or "Move Down" keys.
5. To select the application which first runs when the analyzer starts up, use menu: [System] -> Power On -> Power On Application.

Select Applications to preload at analyzer startup

Mode	:INST:SEL	:INST:NSEL	MBytes
<input checked="" type="checkbox"/> Spectrum Analyzer*	SA	1	148
<input type="checkbox"/> IQ Analyzer (Basic)	BASIC	8	93
<input type="checkbox"/> W-CDMA	WCDMA	9	202
<input type="checkbox"/> GSM/EDGE	EDGE GSM	13	199
<input checked="" type="checkbox"/> EMI Receiver	EMI	141	149
<input type="checkbox"/> 802.16 OFDMA	WIMAX OFDMA	75	107
<input type="checkbox"/> VXA Vector Signal Analyzer	VSA	100	225
<input type="checkbox"/> Phase Noise	PNOISE	14	39
<input type="checkbox"/> Noise Figure	NFIGURE	219	54
<input type="checkbox"/> Analog Demod	ADEMOM	234	53
<input type="checkbox"/> TD-SCDMA	TDSCDMA	211	134
<input type="checkbox"/> cdma2000	CDMA2K	10	120
<input type="checkbox"/> 1xEV-DO	CDMA1XEV	15	218

Estimated Virtual Memory Used: 2305 MBytes Available: 500 MBytes Limit: 2805 MBytes * Power On Application

0 512 1024 1536 2048 2560 3072 (MBytes)

MSG File <hyoji_0003.png> saved STATUS

Config Apps

Select All

Deselect All

Move Up

Move Down

Select/Deselect

Save Changes and Exit

Exit Without Saving

Modeメニューの表示順序を変更する

Xシリーズ共通

Agilent Spectrum Analyzer - Swept SA

RF 50 Ω AC SENSE:INT SOURCE OFF ALIGN AUTO 01:33:26 PM Feb 26, 2011

PNO: Fast IF Gain: Low Trig: Free Run Atten: 10 dB Avg Type: Log-Pwr

TRACE 1 2 3 4 5 6
TYPE W W W W W W
DET N N N N N N

1. To reduce the analyzer startup time check only the applications you want to preload. Selected (checked) applications preload at startup. Unchecked applications take longer to load the first time they are run after startup.
2. There are more applications available for the X-Series than can fit into memory at any one time. This utility will not let you preload more applications than will fit into memory at once. The colored bar indicates the total memory required when all checked applications are loaded (either preloaded or selected during runtime).
3. To navigate to an application, press the UP/DOWN arrow keys on the front panel or keyboard. To select or deselect an application, press Select/Deselect.
4. To modify the order in which the applications appear in the Mode menu, select an application and move it up or down using the "Move Up" or "Move Down" keys.
5. To select the application which first runs when the analyzer starts up, use menu: [System] -> Power On -> Power On Application.

Select Applications to preload at analyzer startup

Mode	:INST:SEL	:INST:NSEL	MBytes
<input checked="" type="checkbox"/> Spectrum Analyzer*	SA	1	148
<input checked="" type="checkbox"/> EMI Receiver	EMI	141	149
<input type="checkbox"/> IQ Analyzer (Basic)	BASIC	8	93
<input type="checkbox"/> W-CDMA	WCDMA	9	202
<input type="checkbox"/> GSM/EDGE	EDGE GSM	13	199
<input type="checkbox"/> 802.16 OFDMA	WIMAX OFDMA	75	107
<input type="checkbox"/> VXA Vector Signal Analyzer	VSA	100	225
<input type="checkbox"/> Phase Noise	PNOISE	14	39
<input type="checkbox"/> Noise Figure	NFIGure	219	54
<input type="checkbox"/> Analog Demod	ADEMOD	234	53
<input type="checkbox"/> TD-SCDMA	TDSCDMA	211	134
<input type="checkbox"/> cdma2000	CDMA2K	10	120
<input type="checkbox"/> 1xEV-DO	CDMA1XEV	15	218

Estimated Virtual Memory Used: 2305 MBytes Available: 500 MBytes Limit: 2805 MBytes * Power On Application

0 512 1024 1536 2048 2560 3072 (MBytes)

MSG File <hyoji_0004.png> saved STATUS

Config Apps

Select All

Deselect All

Move Up

Move Down

Select/Deselect

Save Changes and Exit

Exit Without Saving

Modeメニューの表示順序を変更する

入れ替えたら、{Save Changes and Exit}を押して下さい。右下のポップアップ画面が表示されますので、{OK}を押して下さい。自動的に再起動します。

Agilent Spectrum Analyzer - Swept SA

RF 50 Ω AC SENSE:INT SOURCE OFF ALIGN AUTO 01:33:26 PM Feb 26, 2011

Avg Type: Log-Pwr

PNO: Fast Trg: Free Run
IFGain: Low Atten: 10 dB

TRACE 1 2 3 4 5 6
TYPE W W W W W W
DET N N N N N N

- To reduce the analyzer startup time check only the applications you want to preload. Selected (checked) applications preload at startup. Unchecked applications take longer to load the first time they are run after startup.
- There are more applications available for the X-Series than can fit into memory at any one time. This utility will not let you preload more applications than will fit into memory at once. The colored bar indicates the total memory required when all checked applications are loaded (either preloaded or selected during runtime).
- To navigate to an application, press the UP/DOWN arrow keys on the front panel or keyboard. To select or deselect an application, press Select/Deselect.
- To modify the order in which the applications appear in the Mode menu, select an application and move it up or down using the "Move Up" or "Move Down" keys.
- To select the application which first runs when the analyzer starts up, use menu: [System] -> Power On -> Power On Application.

Select Applications to preload at analyzer startup

Mode	:INST:SEL	:INST:NSEL	MBytes
<input checked="" type="checkbox"/> Spectrum Analyzer*	SA	1	148
<input checked="" type="checkbox"/> EMI Receiver	EMI	141	149
<input type="checkbox"/> IQ Analyzer (Basic)	BASIC	8	93
<input type="checkbox"/> W-CDMA	WCDMA	9	202
<input type="checkbox"/> GSM/EDGE	EDGE/GSM	13	199
<input type="checkbox"/> 802.16 OFDMA	WIMAX/OFDMA	75	107
<input type="checkbox"/> VXA Vector Signal Analyzer	VSA	100	225
<input type="checkbox"/> Phase Noise	PNOISE	14	39
<input type="checkbox"/> Noise Figure	NFIGure	219	54
<input type="checkbox"/> Analog Demod	ADEMOD	234	53
<input type="checkbox"/> TD-SCDMA	TDSCDMA	211	134
<input type="checkbox"/> cdma2000	CDMA2K	10	120
<input type="checkbox"/> 1xEV-DO	CDMA1XEV	15	218

Estimated Virtual Memory Used: 2305 MBytes Available: 500 MBytes Limit: 2805 MBytes *Power On Application

0 512 1024 1536 2048 2560 3072 (MBytes)

MSG File <hojoi_0004.png> saved STATUS

Config Apps

Select All

Deselect All

Move Up

Move Down


Select/Deselect

Save Changes and Exit


Exit Without Saving

Exit Configure Application

Your changes have been saved



Exit Configure Applications Utility

 Your changes have been saved.

You must restart the analyzer for your changes to take effect. Would you like to restart now?
(This will close the analyzer program and you will lose all unsaved traces and results.)

Press Enter to proceed, or Cancel (ESC) to exit without restarting.

Modeメニューの表示順序を変更する

Xシリーズ共通

測定画面が立ち上がったたら、[Mode]を押し順番が変更されているか確認して下さい。

